

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	運動学演習Ⅱ
担当者	林 尚宜
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	教科書の内容にそった講義、グループワーク、演習課題
教科書・参考書	動作分析 臨床活用講座 ～バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践～ 編著 石井慎一郎 メジカルビュー社 第14版

授業概要と目的
<p>運動学で学んだ基礎知識をもとに、臨床場面における対象者の姿勢や動作時の異常を捉える力を養う。他人の姿勢やADL動作を観察・分析することにより、その特徴や要因の仮説を立てて考察できるようになる。また、理学療法に必要な運動制御および運動学習理論についても学び、運動器系の問題だけでなく神経系や認知、感覚系も含めた、より繊細な評価が行えるようになることを目的とする。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「運動学と運動力学」 一般目標 ①臨床運動学に必要な運動学基礎知識について理解する ②運動制御や力学を学ぶ意義を理解する ③随意運動や姿勢・動作の制御を行うための解剖・生理学的な仕組みについて理解する ④ニュートン力学などの基礎知識をもち、動作との関連性を考察できるスキルを身につける	「運動学の基礎知識」 「運動制御理論とは」 到達目標 ①支持基底面、身体重心、質量中心、床反力作用点、について説明できる ②運動の法則について説明できる ③モーメントアームについて説明できる ③トルクについて説明できる	林 尚宜
2	後期	「動作観察・分析」 一般目標 ①理学療法において動作や運動を分析する目的を理解する ②理学療法における動作分析の位置づけを理解する	「求心性収縮と遠心性収縮の違い」 「臨床における動作分析」 到達目標 ①さまざまな動作時の骨格筋で生じる収縮様式について説明できる ②動作分析の必要性について説明できる	林 尚宜

		<p>③動作時に用いる骨格筋の収縮様式について理解する</p> <p>④機能障害評価の基本的な手順について症例をもとに理解する</p>	<p>③機能障害の評価基本手順について説明できる</p> <p>④動作の着目点を明確にし、仮説の立案と検証ができる</p>	
3	後期	<p>「歩行1」</p> <p>一般目標</p> <p>①歩行における支持基底面の変化と重心位置、特徴について理解する</p> <p>②歩行周期の分類を理解する</p> <p>③効率のよい歩行の決定因子について理解する</p> <p>④歩行時の関節運動、骨盤や体幹運動、足部の状態について理解する</p>	<p>「歩行動作のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①歩行動作に必要な関節運動や可動域について説明できる</p> <p>②歩行周期における各相の名称とその役割について説明できる</p> <p>③重心の上下左右の移動、骨盤の回旋、傾斜、側方移動、足底腱膜のしくみについて説明できる</p>	林 尚宜
4	後期	<p>「歩行2」</p> <p>一般目標</p> <p>①身体重心を前方へ移動させる推進力を作り出す、3つの rocker 機能について理解する</p> <p>②歩行動作の観察・分析の主な着目点を理解する</p> <p>③歩行の衝撃吸収のメカニズムを理解する</p> <p>④歩行周期における各相の特徴を理解する</p>	<p>「歩行動作のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①Heel rocker、Ankle rocker、Forefoot rocker の役割、相、中心となる部位について説明できる</p> <p>②正常な歩行動作のメカニズムについて説明できる</p> <p>③各メカニズムの主動作筋について説明できる</p> <p>④歩行を運動力学的にとらえることができる</p>	林 尚宜
5	後期	<p>「異常歩行」</p> <p>一般目標</p> <p>①異常歩行と障害像、その特徴について理解する</p> <p>②様々な疾病や病態別に起こりうる逸脱動作、代償動作について理解する</p> <p>③異常歩行の実用性について理解する</p>	<p>「異常歩行の原因」</p> <p>到達目標</p> <p>①各異常歩行を生じる原因、理由について説明できる</p> <p>②中枢神経障害由来の異常歩行における特徴を説明できる</p> <p>③末梢神経障害由来の異常歩行における特徴を説明できる</p> <p>④運動器障害由来の異常歩行における特徴を説明できる</p> <p>③各異常歩行を模倣することができる</p>	林 尚宜

6	後期	<p>「姿勢制御とバランス」</p> <p>一般目標</p> <p>①無意識下でも姿勢や動作を制御できる仕組みについて理解する</p> <p>②外乱時の姿勢応答について理解する</p> <p>③バランスという言葉の意味を理解する</p> <p>④バランスの評価方法について理解する</p>	<p>「姿勢制御ストラテジー」</p> <p>「予測的姿勢制御（APA）」</p> <p>「バランスとは」</p> <p>到達目標</p> <p>①足関節ストラテジー、股関節ストラテジー、ステップングストラテジーについてそれぞれの特徴を説明できる</p> <p>②APA はどのような時に出現するのか。また、出現しない場面とはどのような環境か説明できる</p> <p>③バランスを考える上でのポイントや注意点、曖昧な点は何か説明できる</p> <p>④バランスの理学療法評価について説明できる</p>	林 尚宜
7	後期	<p>「運動学習」</p> <p>一般目標</p> <p>①運動学習について学ぶ意義を理解する</p> <p>②運動学習の成立に必要なことについて理解する</p> <p>③運動学習理論と学習に関する神経科学モデルについて理解する</p>	<p>「運動学習理論とは」</p> <p>「フィードバック制御とフィードフォワード制御」</p> <p>到達目標</p> <p>①フィードバック制御とフィードフォワード制御の違いを説明できる</p> <p>②学習に関わる神経系のシステムについて説明できる</p> <p>③運動学習が成立するまでの段階を説明できる</p> <p>④言語学習と運動学習の違いについて説明できる</p> <p>⑤KR、KP、FB について説明できる</p> <p>⑥動機付け、覚醒状態、転移、学習方法についてそれぞれ説明できる</p>	林 尚宜
8	後期	<p>「異常歩行の観察・分析 1（演習）」</p> <p>一般目標</p> <p>①各異常歩行動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する</p> <p>②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する</p>	<p>「異常歩行の観察・分析の実践」</p> <p>到達目標</p> <p>①観察した異常歩行の特徴を説明できる</p> <p>②観察した後分析し、実用性の有無を説明できる</p> <p>③異常歩行について正しい文章表現で各相別に記載することができる</p> <p>④異常歩行の観察・分析が一人で行える</p>	林 尚宜

9	後期	<p>「異常歩行の観察・分析 2 (演習)」</p> <p>一般目標</p> <p>①歩行動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する</p> <p>②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する</p> <p>③グループディスカッションすることにより、習熟度を深める</p>	<p>「異常歩行の観察・分析の確認」</p> <p>到達目標</p> <p>①各異常歩行の観察・分析ポイントについて資料を見ずに説明することができる</p> <p>②各異常歩行の観察・分析について、資料を見ずに一人で実践できる</p>	林 尚宜
10	後期	<p>「異常歩行の観察・分析 3 (演習)」</p> <p>一般目標</p> <p>①歩行動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する</p> <p>②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する</p> <p>③グループディスカッションすることにより、習熟度を深める</p>	<p>「異常歩行の観察・分析の確認」</p> <p>到達目標</p> <p>①各異常歩行の観察・分析ポイントについて資料を見ずに説明することができる</p> <p>②各異常歩行の観察・分析について、資料を見ずに一人で実践できる</p>	林 尚宜
11	後期	<p>「寝返り、起き上がり動作」</p> <p>一般目標</p> <p>①寝返り、起き上がり動作における支持基底面の変化と重心位置、特徴について理解する</p> <p>②寝返り、起き上がり動作の観察・分析における主な着目点を理解する</p> <p>③起こりうる逸脱動作、代償動作について理解する</p>	<p>「寝返り、起き上がり動作のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①正常な寝返り、起き上がり動作のメカニズムについて説明できる</p> <p>②各メカニズムの主動作筋について説明できる</p> <p>③寝返り、起き上がり動作に必要な関節運動や可動域について説明できる</p>	林 尚宜
12	後期	<p>「寝返り、起き上がり動作の観察・分析 (演習)」</p> <p>一般目標</p> <p>①寝返り、起き上がり動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する</p> <p>②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する</p> <p>③グループディスカッションすることにより、習熟度を深める</p>	<p>「寝返り、起き上がり動作の観察・分析の実践」</p> <p>到達目標</p> <p>①観察した寝返り、起き上がり動作の特徴を説明できる</p> <p>②観察した後分析し、実用性の有無を説明できる</p> <p>③寝返り、起き上がり動作について正しい文章表現で各相別に記載することができる</p>	林 尚宜

13	後期	<p>「立ち上がり動作」</p> <p>一般目標</p> <p>①立ち上がり動作における支持基底面の変化と重心位置、特徴について理解する</p> <p>②立ち上がり動作の観察・分析の主な着目点を理解する</p> <p>③起こりうる逸脱動作、代償動作について理解する</p>	<p>「立ち上がり動作のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①正常な立ち上がり動作のメカニズムについて説明できる</p> <p>②各メカニズムの主動作筋について説明できる</p> <p>③立ち上がり動作に必要な関節運動や可動域について説明できる</p>	林 尚宜
14	後期	<p>「立ち上がり動作の観察・分析(演習)」</p> <p>一般目標</p> <p>①立ち上がり動作の着目点を注意深く観察し、特徴を理解する</p> <p>②観察・分析した動作を、どのように記載するのかを理解する</p> <p>③グループディスカッションすることにより、習熟度を深める</p>	<p>「立ち上がり動作の観察・分析の実践」</p> <p>到達目標</p> <p>①観察した立ち上がり動作の特徴を説明できる</p> <p>②観察した後分析し、実用性の有無を説明できる</p> <p>③立ち上がり動作について正しい文章表現で各相別に記載することができる</p>	林 尚宜
15	後期	<p>「三次元動作解析装置」</p> <p>一般目標</p> <p>①動作分析システムについて理解する</p> <p>②機器による歩行機能評価「VICON」について理解する</p>	<p>「VICON」</p> <p>到達目標</p> <p>①「VICON」の使用目的と測定結果の解釈を説明できる</p>	林 尚宜
成績評価方法	<p>中間試験・期末試験（80%）</p> <p>グループワーク課題（20%：内容、文字数、構成、見栄えで採点）</p> <p>授業態度が芳しくない場合は減点</p>			
準備学習など	<p>基礎運動学で学んだ基礎知識（特に生体力学、姿勢や動作、運動学習）を予習しておくこと</p> <p>演習課題やグループワークにて積極的に発言し、討論すること</p>			
留意事項	<p>特になし</p>			

学科・年次	理学療法科 2年生
科目名	薬理学
担当者	平松 礼司
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 医歯薬出版（テキスト） 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版（サブテキスト）

授業概要と目的	
<p>医療従事者として医薬品に対する基礎的な薬理学及びそれを応用した臨床薬理学の知識を習得し、理学療法士の医療に役立たせることを目的とする。患者が服用している薬が、リハビリテーションにどのような影響を与えるか理解でき、また来年度以降に理学療法士国家試験に正式に追加される薬理学についても十分に対応できるような講義を行う。</p> <p>なお、薬剤師としての資格を持ち、且つ愛知県の衛生研究所、保健所勤務の経歴を持つ講師が担当する。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	理学療法士が必要とする薬に対する全般的な基礎を理解する。	薬の基本的な知識を述べることができる。	平松 礼司
2	後期	薬が疾患の治療に使える意義について理解する。	薬が疾患治療に使える意義とリハビリテーションに与える影響を述べることができる。	平松 礼司
3	後期	薬を理解するための基礎知識を理解する。	薬の由来、受容体、代謝、薬の分類を述べることができる。	平松 礼司
4	後期	薬の概念と分類について理解する。	薬の作用機序と生理活性物質を述べることができる。医療用医薬品と一般用医薬品の違いを述べることができる。	平松 礼司
5	後期	薬の作用について理解する。	薬物の副作用と有害作用を述べることができる。	平松 礼司
6	後期	生体内での薬の作用について理解する。	薬物の生体内運命（吸収、代謝、分布、排泄）について述べることができる。	平松 礼司
7	後期	薬の作用に影響を与える因子について理解する。	薬の作用の強弱、加齢の影響、相互作用について述べるができる。	平松 礼司

8	後期	薬の使い方について理解する。	剤形、投与経路による吸収、作用の相違、リスクマネジメントを述べることができる。	平松 礼司
9	後期	感染・炎症の制御と薬物療法について理解する。	感染と炎症の病態とその治療の作用機序、抗炎症薬について述べるができる。	平松 礼司
10	後期	神経疾患の薬物療法について理解する。	神経疾患の発症機序と治療薬、その運動機能障害と服薬指導を述べることができる。	平松 礼司
11	後期	精神疾患の薬物療法を理解する。	精神疾患の発症機序と治療薬、その有害作用、精神障害を述べるができる。	平松 礼司
12	後期	循環器系疾患の薬物療法について理解する。	循環器系疾患の発症機序と治療薬、その有害作用を述べるができる。	平松 礼司
13	後期	疼痛の制御と薬物療法について理解する。	痛みの種類と痛覚と治療薬、及び発症機序について述べるができる。	平松 礼司
14	後期	注意すべき頻用される薬物を理解する。	代謝性疾患治療薬、血液凝固抑制治療薬、催眠薬とそれらの有害作用を述べるができる。	平松 礼司
15	後期	まとめ、要点	まとめ、期末試験の対策	平松 礼司
成績評価方法		科目試験(100点)		
準備学習		これまでの授業内容を復習し、国家試験出題基準にそつての学習を事前に行つておくこと。		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	神経内科学
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義形式。プリント及びパワーポイント資料を活用。
教科書・参考書	授業開始前に配布される講義プリントを使用。 講義プリント：標準理学療法学・作業療法学（医学書院）、メディカルスタッフのための神経内科学（医歯薬出版株式会社）、内科学（朝倉書店）参照

授業概要と目的
神経内科疾患の全体像を把握し、中枢神経疾患・末梢神経疾患・筋疾患等を中心に理解を深め、その知識を身につける。 なお、医師として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「神経疾患とは」 一般目標 ① 神経疾患について理解する。	「神経疾患とは」 到達目標 ① 神経疾患の総論・全体像を把握する。 ② 神経疾患の症候について理解・説明できる。	益田 健史
2	前期	「脳血管障害」 一般目標 ① 一過性脳虚血発作について理解する。	「脳血管障害について」 到達目標 ① 脳血管障害の分類ができる。 ② 一過性脳虚血発作を理解・説明できる。 ③ クモ膜下出血・脳出血・脳梗塞などを理解・説明できる。 ④ その他、外傷性の硬膜外血腫や硬膜下血腫などの頭部の出血について理解・説明できる。	益田 健史
3	前期	② 脳卒中について理解する。 (脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血)		
4	前期	③ その他頭部の出血について理解する。 (硬膜下血腫、硬膜外血腫)		
5	前期	「変性疾患」 一般目標 ① 運動ニューロン疾患について理解する。	「変性疾患について」 到達目標 ① 変性疾患を理解・説明できる。	益田 健史

6	前期	(筋萎縮性側索硬化症) ② 錐体外路の変性疾患について理解する。 (パーキンソン病、パーキンソン症候群)	② 筋萎縮性側索硬化症などの運動ニューロン疾患を理解・説明できる。 ③ パーキンソン病などの錐体外路系変性疾患を理解・説明できる。	
7	前期	③ 認知症関連の変性疾患について理解する。 (Alzheimer 病、Lewy 小体型認知症、前頭側頭葉認知症 (ピック病)) ④ 脊髄小脳変性症について理解する。	④ Alzheimer 病などの認知症関連の変性疾患を理解・説明できる。 ⑤ 脊髄小脳変性症を理解・説明できる。	
8	前期	「脱髄疾患」 一般目標 ① 多発性硬化症について理解する。	「脱髄疾患について」 到達目標 ① 多発性硬化症などの脱髄性疾患を理解・説明できる。	益田 健史
9	前期	「筋肉疾患」 一般目標 ① 重症筋無力症について理解する。 ② 筋ジストロフィーについて理解する。	「筋肉疾患について」 到達目標 ① 重症筋無力症・筋ジストロフィーなどの疾患を理解・説明できる。	益田 健史
10	前期	「末梢神経疾患」 一般目標 ① ギランバレー症候群について理解する。	「末梢神経疾患について」 到達目標 ① ギランバレー症候群などの末梢神経疾患を理解・説明できる。	益田 健史
11	前期	「感染症疾患」 一般目標 ① 髄膜炎について理解する。	「感染症疾患について」 到達目標 ① 髄膜炎・脳炎・脳症の違いと特徴を理解できる。	益田 健史
12	前期	② 脳炎、脳症について理解する。		
13	前期	「腫瘍性疾患」 一般目標 ① 腫瘍性疾患について理解する。	「腫瘍性疾患について」 到達目標 ① 脳腫瘍の発生由来とその特徴について理解・説明できる。	益田 健史
14	前期	「てんかん」 一般目標 ① てんかんについて理解する。	「てんかんについて」 到達目標 ① 2017 年に大幅改定された病型分類を中心にてんかんに対する理解を深める。	益田 健史

15	前期	「その他疾患類」 一般目標 ① 高次機能障害について理解する。	「その他疾患類について」 到達目標 ① その他疾患類の理解を深める。 ② 高次機能障害について理解できる。	益田 健史
成績評価方法		科目試験(100点) 試験は配布プリント内から出題します。		
準備学習など		プリントの復習。		
留意事項		授業で配布したプリントをファイルして保存する事。		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	整形外科学
担当者	矢崎 進
単位数(時間数)	2単位(30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書：整形外科学テキスト(改訂第5版) 南江堂 参考書：標準整形外科学(改訂第15版) 医学書院

授業概要と目的
<p>整形外科疾患について理解を深め、チーム医療の一員としてリハビリテーションを担う理学療法士の実践に寄与することを目的とする。</p> <p>なお、医師として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	①整形外科学について 整形外科的診断法 整形外科的治療法	①整形外科学とは、整形外科の歴史 診察の基本、検査法、画像診断、保存療法、 手術療法の特徴を学ぶ	矢崎 進

2	後期	①軟部組織損傷 ②骨壊死疾患および骨端症 ③骨・関節の損傷総論	①皮膚損傷, 筋・腱損傷, 血管損傷, デブ リドマン, 圧挫症候群, 熱傷の特徴を学び 治療法を知る ②無腐性壊死症, 骨端症の特徴を学び治療 法を知る ③骨・軟骨の構造と機能, 骨折, 脱臼, 捻 挫の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
3	後期	①肩関節および上腕の外傷と疾患 ②肘関節および前腕の外傷と疾患	①肩関節の解剖・バイオメカニクス, 肩関 節および上腕の外傷, 肩関節不安定症, 肩 関節の変性疾患の特徴を学び治療法を知る ②肘関節と前腕の特徴を学び, 生じやすい 病態およびこれに対する治療法を知る	矢崎 進
4	後期	①手関節と手指の外傷と疾患 ②骨盤の外傷と疾患 ③股関節および大腿の外傷と疾患 1	①手の特徴を学び, 生じやすい病態および これに対する治療法を知る ②骨盤の特徴を学び, 生じやすい病態およ びこれに対する治療法を知る ③股関節と大腿の構造と機能, 外傷の特徴 を学び治療法を知る	矢崎 進
5	後期	①股関節および大腿の外傷と疾患 2 ②膝関節および下腿の外傷と疾患 1	①股関節と大腿の疾患の特徴を学び, 生じ やすい病態およびこれに対する治療法を知 る ②膝関節と下腿の外傷の特徴を学び治療法 を知る	矢崎 進
6	後期	①膝関節および下腿の外傷と疾患 2	①膝関節と下腿の特徴を学び, 生じやすい 病態およびこれに対する治療法を知る	矢崎 進
7	後期	①足関節と足部の外傷と疾患 1 ②先天性骨系統疾患・先天異常症 候群	①足関節と足部の構造と機能, 外傷の特徴 を学び治療法を知る ②骨形成不全症, 軟骨無形成症, 脊椎・骨 端異形成症, 大理石骨病, 神経線維腫症, マルファン症候群の特徴を学び治療法を知 る	矢崎 進
8	後期	①足関節と足部の外傷と疾患 2 ②脊椎・脊髄の外傷と疾患 1	①足関節と足部の特徴を学び, 生じやすい 病態およびこれに対する治療法を知る ②脊椎・脊髄の構造と機能の特徴を学ぶ 脊椎損傷の特徴を学び治療法を知る 脊髄損傷の病態の特徴を学ぶ	矢崎 進

9	後期	①脊椎・脊髄の外傷と疾患 2 ②脊椎・脊髄の外傷と疾患 3	①脊髄損傷の特徴を学び治療法を知る ②脊椎・脊髄の疾病の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
10	後期	①脊椎・脊髄の外傷と疾患 4	①脊椎・脊髄の疾病の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
11	後期	①慢性関節疾患 ②関節リウマチとその類縁疾患 1	①関節の構造と機能，骨関節の病的変化，変形性関節症，痛風，血友病性関節症の特徴を学び治療法を知る ②関節リウマチの特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
12	後期	①関節リウマチとその類縁疾患 2 ②感染症 ③代謝・内分泌疾患	①脊椎関節炎の特徴を学び治療法を知る ②化膿性骨髄炎，化膿性関節炎，骨・関節結核，嫌気性感染症の特徴を学び治療法を知る ③骨軟化症，くる病，骨粗鬆症，副甲状腺機能異常，甲状腺機能異常，巨人症，末端肥大症の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
13	後期	①骨・軟部腫瘍 ②神経疾患・筋疾患 1	①良性骨腫瘍，悪性骨腫瘍，良性軟部腫瘍，悪性骨腫瘍の特徴を学び治療法を知る ②末梢神経の機能と構造，末梢神経の診察法と検査，末梢神経損傷の治療を知る 上肢の末梢神経損傷の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
14	後期	①神経疾患・筋疾患 2 ②神経疾患・筋疾患 3 ③神経疾患・筋疾患 4	①下肢の末梢神経損傷，絞扼性神経障害の特徴を学び治療法を知る ②脳性麻痺，筋ジストロフィーの特徴を学び治療法を知る ③特殊な神経疾患の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
15	後期	①神経疾患・筋疾患 5 ②四肢循環循環障害	①腕神経叢損傷，分娩麻痺の特徴を学び治療法を知る ②閉塞性動脈硬化症，閉塞性血栓血管炎，レイノー症候群，深部静脈血栓症，下肢静脈瘤，リンパ浮腫の特徴を学び治療法を知る	矢崎 進
成績評価方法		筆記試験 100 点		
準備学習など				
留意点				

学科・年次	理学療法科 2 年次
科目名	精神医学
担当者	益田 健史
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
学習方法	講義形式。プリント及びパワーポイント資料を活用。
教科書・参考書	授業開始前に配布される講義プリントを使用。 講義プリント：現代臨床精神医学 12 版 (金原出版)、精神医学 (理工図書) はじめての精神医学 2 版 (中山書店)、(南江堂) 参照

授業概要と目的
精神科疾患の基礎を理解し、その知識を身につける。 なお、医師として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「精神医学の歴史」 一般目標 ① 精神医学の歴史を理解する。 ② 神経機能の生理学を理解する。 ③ 精神障害の定義・分類を理解する。	「精神医学の歴史について」 到達目標 ① 精神医学の歴史や成り立ちを説明できる。 ② 神経機能の生理学を説明できる。 ③ 「精神障害の定義・分類」 ICD分類、DSM分類、古典的3分類について説明できる。	益田 健史
2	後期	「精神医学概論」 一般目標 ① 神経機能の生理学を理解する。 ② 精神障害の定義・分類を理解する。	「精神医学概論について」 到達目標 ① 神経機能の生理学を説明できる。 ② 精神障害の定義・分類を説明できる。 ③ 精神医学の世界で使われている ICD 分類、DSM 分類、古典的3分類について説明できる。	益田 健史
3	後期	「心因性精神障害」 一般目標 ① 不安症群を理解する。 ② ストレス関連疾患を理解する。	「心因性精神障害について」 到達目標 ① 神経症性障害に含まれる限局性恐怖症、パニック障害などの不安症群について説明できる。	益田 健史

4	後期	③ 解離性障害を理解する。 ④ 摂食障害を理解する。	② ストレス関連疾患（PTSD）、解離性障害について説明できる。	益田 健史
5	後期		「心因性精神障害について」 到達目標 ① 神経性食思不振症、神経性過食症などの摂食障害とその危険性について説明できる。	益田 健史
6	後期	「内因性精神障害」 一般目標 ① 統合失調症を理解する。	「内因性精神障害について」 到達目標 ① 統合失調症の古典的概念を説明できる。 ② 原因（ドーパミン仮説など）、疫学、典型的症状（陽性・陰性症状）を説明できる。	益田 健史
7	後期		「内因性精神障害について」 到達目標 ① 統合失調症の病型分類（妄想型・破瓜型・緊張型）、治療、予後を説明できる。	益田 健史
8	後期	「内因性精神障害」 一般目標 ① 気分障害を理解する。	「内因性精神障害について」 到達目標 ① 双極性障害及び単極型うつ病の病態・違いを説明できる。	益田 健史
9	後期	「外因性精神障害」 一般目標 ① 器質性精神障害を理解する。 ② 症状性精神障害を理解する。	「外因性精神障害について」 到達目標 ① 因性精神障害に含まれる器質性精神障害及び症状性精神障害について説明できる。	益田 健史
10	後期	「器質性精神障害と認知症」 一般目標 ① アルツハイマー型認知症及び脳血管性認知症を理解する。 ② その他の認知症（Lewy 小体認知症、pick 病）などを理解する。	「器質性精神障害と認知症について」 到達目標 ① アルツハイマー型認知症及び脳血管性認知症を説明できる。 ② その他の認知症（Lewy 小体型認知症、Pick 病）などを説明できる。	益田 健史
11	後期	「症状性精神障害」 一般目標 ① 脳損傷を伴わない身体疾患による二次的な精神障害について理解する。	「症状性精神障害について」 到達目標 ① 脳損傷を伴わない身体疾患による二次的な精神障害について説明できる。	益田 健史

12	後期	「物質依存」 一般目標 ① 物質依存の3要素(精神・身体・耐性)、アルコール依存症について理解する。 ② その他薬物の依存症について理解する。	「物質依存について」 到達目標 ① 物質依存の3要素(精神・身体・耐性)、アルコール依存症について説明できる。 ② その他薬物の依存症について説明できる。	益田 健史
13	後期	「てんかん」 一般目標 ① 2017年に大幅改定されたてんかんの病型分類を中心にてんかんにより生じる精神症状を理解する。	「てんかんについて」 到達目標 ① 2017年に大幅改定されたてんかんの病型分類を中心にてんかんにより生じる精神症状を説明できる。	益田 健史
14	後期	「パーソナリティ障害」 一般目標 ① パーソナリティ障害の分類、特徴を理解する。	「パーソナリティ障害」 到達目標 ① パーソナリティ障害の分類、特徴を説明できる。	益田 健史
15	後期	「まとめ」	「まとめ」 到達目標 ① ここまでの知識の統合整理ができる。	益田 健史
成績評価方法	科目試験(100点) 試験は配布プリント内から出題します。			
準備学習など	プリントの復習。			
留意事項	授業で配布したプリントをファイルして保存する事。			

学科・年次	理学療法科・2年次
科目名	多職種連携論
担当者	櫻井 泰弘
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義，グループワーク
教科書・参考書	リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論 医歯薬出版株式会社 医療福祉をつなぐ関連職種連携 南江堂 はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門 協同医書出版社 多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル 医学書院

授業概要と目的
<p>保健・医療・福祉の統合が進む社会状況において、専門的立場からのサービス提供とともに各職種が連携・協働し総合的支援をすることが求められている。他職種の専門性の理解と職務の関連性や連携の在り方の理解が必須である。基礎的な理解をした上で、事例や状況にあった多職種連携や協働のあり方を学ぶ。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<p>「多職種連携論を学ぶ必要性」</p> <p>一般目標</p> <p>① 多職種連携論について理解する。</p> <p>② リハ専門職の専門性について理解する。</p> <p>③ 医療領域の職種について理解する。</p> <p>④ 保健福祉領域、地域の職種について理解する。</p>	<p>「多職種連携の概要」</p> <p>到達目標</p> <p>① 多職種連携論を学ぶ必要性について説明できるようになる。</p> <p>② リハ専門職の専門性について説明できるようになる。</p> <p>③ 医療領域の職種について説明できるようになる。</p> <p>④ 保健福祉領域、地域の職種について説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
2	前期	<p>「多職種連携が求められる背景」</p> <p>一般目標</p> <p>① 多職種連携とチーム医療について理解する。</p> <p>② マネジメントについて理解する。</p> <p>③ マネジメントとリーダーシップの違いについて理解する。</p>	<p>「多職種連携に必要なスキル」</p> <p>到達目標</p> <p>① 多職種連携とチーム医療について説明できるようになる。</p> <p>② マネジメントをするために必要な能力・スキルについて説明できるようになる。</p> <p>③ チームマネジメントの概要について説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘

3	前期	<p>「多職種連携教育」</p> <p>一般目標</p> <p>① 専門職教育について理解する.</p> <p>② 多職種連携教育の概要について理解する.</p> <p>③ 心理的安全性について理解する.</p>	<p>「多職種連携のための知識」</p> <p>到達目標</p> <p>① 専門職教育について説明できるようになる.</p> <p>② 多職種連携教育の概要について説明できるようになる.</p> <p>③ 多職種連携における心理的安全性について説明できるようになる.</p>	櫻井泰弘
4	前期	<p>「リハ専門職と他職種」</p> <p>一般目標</p> <p>① 専門職の歴史について理解できる.</p> <p>② 理学療法士の役割について理解する.</p> <p>③ 理学療法士の以外のリハ専門職の役割について理解する.</p> <p>④ リハ専門職以外の他職種の役割について理解する.</p>	<p>「他職種の理解」</p> <p>到達目標</p> <p>① 理学療法士の業務、役割について説明できるようになる.</p> <p>② 理学療法士以外のリハ専門職の業務、役割について説明できるようになる.</p> <p>③ リハ専門職以外の他職種の役割について説明できるようになる.</p>	櫻井泰弘
5	前期	<p>「多職種連携に必要なコミュニケーション」</p> <p>一般目標</p> <p>① コミュニケーションの本質について理解する.</p> <p>② コミュニケーションの構成要素について理解する.</p> <p>③ コミュニケーションによる情報共有と意思確認・決定について理解する.</p>	<p>「多職種連携におけるコミュニケーション実際」</p> <p>到達目標</p> <p>① 演習問題を通して理学療法士と看護師における連携で必要なコミュニケーションについて説明できるようになる.</p> <p>② 演習問題を通して理学療法士と医師における連携で必要なコミュニケーションについて説明できるようになる.</p>	櫻井泰弘
6	前期	<p>「リーダーシップ」</p> <p>一般目標</p> <p>① リーダーシップの概要について理解できる.</p> <p>② リーダーシップに必要な 5 つの要素を理解する.</p> <p>③ PM 理論について理解する.</p>	<p>「リーダーシップの実際」</p> <p>到達目標</p> <p>① リーダーシップとフォロアシップの違いについて説明できるようになる.</p> <p>② 演習問題を通して、リーダーシップに必要な 5 つの要素を説明できるようになる.</p>	櫻井泰弘

7	前期	<p>「ティーチング・コーチング」 一般目標</p> <p>① ティーチングの概要について理解できる。 ② コーチングの概要について理解できる。</p>	<p>「ティーチング・コーチングの実際」 到達目標</p> <p>① 演習を通してティーチングについて説明できる。 ② 演習を通してコーチングについて説明できる。</p>	櫻井泰弘
8	前期	<p>「チームアプローチ」 一般目標</p> <p>① チームアプローチの概要について理解する。 ② チームとグループの違いについて理解する。 ③ チームビルディングについて理解する。 ④ 情報共有ツールについて理解する。 ⑤ コンフリクトについて理解する。</p>	<p>「チームアプローチの実際」 到達目標</p> <p>① 演習問題を通してチームビルディングの必要性について説明できるようになる。 ② 演習問題を通して適切な情報共有方法について説明できるようになる。 ③ 演習問題を通して情報共有の妨げとなる問題について説明できるようになる。 ④ コンフリクトマネジメントについて理解し、説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
9	前期	<p>「多職種連携の実際①」 一般目標</p> <p>① 急性期について理解する。 ② 急性期における関連職種について理解する。 ③ 急性期における他職種の連携について理解する。</p>	<p>「急性期における多職種連携の実際」 到達目標</p> <p>① 急性期におけるリスク管理について理解し、説明できるようになる。 ② 急性期における他職種との連携を理解し、説明できるようになる。 ③ 急性期における目標達成の具体的展開について理解し、説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
10	前期	<p>「多職種連携の実際②」 一般目標</p> <p>① 回復期について理解する。 ② 回復期における関連職種について理解する。 ③ 回復期に他職種の連携について理解する。</p>	<p>「回復期における多職種連携の実際」 到達目標</p> <p>① 回復期の特徴を理解し、関連職種との連携方法を説明できるようになる。 ② 回復期におけるチーム医療について説明できるようになる。 ③ 回復期における目標達成の具体的展開について理解し、説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘

11	前期	<p>「多職種連携の実際③」</p> <p>一般目標</p> <p>① 生活期について理解する。</p> <p>② 介護老人保健施設について理解する。</p> <p>③ 介護老人保健施設における関連職種について理解する。</p> <p>④ 通所リハビリテーションについて理解する。</p> <p>⑤ 通所リハビリテーションにおける関連職種について理解する。</p> <p>⑥ 訪問リハビリテーションについて理解する。</p> <p>⑦ 訪問リハビリテーションにおける関連職種について理解する。</p>	<p>「生活期における多職種連携」</p> <p>到達目標</p> <p>① 介護老人保健施設に他職種との連携を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 介護老人保健施設における目標達成の具体的展開について理解し、説明できるようになる</p> <p>③ 通所リハビリテーションにおける他職種との連携を理解し、説明できるようになる。</p> <p>④ 通所リハビリテーションにおける目標達成の具体的展開について理解し、説明できるようになる。</p> <p>⑤ 訪問リハビリテーションにおける他職種との連携を理解し、説明できるようになる。</p> <p>⑥ 訪問リハビリテーションにおける目標達成の具体的展開について理解し、説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
12	後期	<p>「多職種連携の実際④」</p> <p>一般目標</p> <p>① カンファレンスについて理解する。</p> <p>② サービス担当者会議について理解する。</p> <p>③ リハビリテーション会議について理解する。</p>	<p>「各病期における具体的介入」</p> <p>到達目標</p> <p>① 各病期において開催されるカンファレンスについて説明できるようになる。</p> <p>② カンファレンスの進め方について説明できるようになる。</p> <p>③ 各病期における連携や情報共有について理解し、説明できるようになる。</p>	櫻井泰弘
13	後期	<p>「多職種連携の実際⑤」</p> <p>一般目標</p> <p>① ケースの内容を理解する。</p> <p>② ケースにおける問題点を理解する。</p>	<p>「ケーススタディ①（理学療法科のみ）」</p> <p>到達目標</p> <p>① ケース内の分からない用語をグループ内で理解し説明できるようになる。</p> <p>② ケース内の問題点をグループ内で説明できるようになる。</p> <p>③ ケースで起きている問題点についてグループ内で討議ができるようになる。</p> <p>④ 討議した内容をグループ内で発表できるようになる。</p>	櫻井泰弘

14	後期	<p>「多職種連携の実際⑥」</p> <p>一般目標</p> <p>① 模擬カンファレンスを通じてカンファレンスの方法論を理解する。</p> <p>② 模擬カンファレンスを通じて多職種連携の重要性を理解する。</p>	<p>「模擬カンファレンスの体験」</p> <p>到達目標</p> <p>① カンファレンスの方法論を説明できるようになる。</p> <p>② 多職種連携の重要性を説明できるようになる。</p> <p>③ 患者情報を他職種に対して分かりやすく説明することができる。</p>	櫻井泰弘
15	後期	<p>「多職種連携の実際⑦」</p> <p>一般目標</p> <p>① ケースの内容を理解する。</p> <p>② ケースにおける問題点を理解する。</p>	<p>「ケーススタディ②（多職種）」</p> <p>到達目標</p> <p>① ケースで起きている問題点についてグループ内で討議ができるようになる。</p> <p>② 討議した内容をグループ内で発表できるようになる。</p>	櫻井泰弘
成績評価方法		グループワークでの発言頻度・参加態度(10%), レポート(前期 60% 後期 30%)		
準備学習など		他の職種を事前に把握しておく		

学科・年次	理学療法科 2年
科目名	社会保障制度論
担当者	葛谷桂司
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義
教科書・参考書	教科書 中央法規 社会保障入門 中央法規 社会保障の手引

授業概要と目的
<p>職業リハビリテーション（就労支援）の業務において障害者、生活困窮者等社会的弱者のカウンセリング、社会保障制度の情報提供、助言、活用の提案、実践を行っている現場職員が担当する。社会保障制度とは、1. 医療保険、年金保険を代表とする保険制度 2. 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉等で周知されている社会福祉制度 3. 疾病予防、食糧・水の安全の確保、生活環境の衛生保全を目的とした公衆衛生と大きく分類されている。これらの法が単独で成立しているのではなく、「人が生まれてから、天寿を全うするまで」の間の全てのライフサイクルに関わってくる。本講義では医療機関、福祉施設等の専門職として各法制度の理解、活用ができること。卒業後、医療・福祉各機関で活躍のために必要な知識を習得することで実践に結び付けたい。現行の社会保障制度を理解することにより 1. 対象者へ質の高いサービスを提供するために制度を理解する。2. 所属する医療・福祉の現場で提供するサービスは社会保障に関する法、社会福祉に関する法によって制定されていることを理解する。3. 各法は独立した法でなく、関連していることを理解し活用できるようにする。4. 学生自身が社会人、家庭人として、各々の実生活に関係している制度、義務、権利を理解し、卒業後、社会人として、各法の遵守することも目的とする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	<p>「我が国の社会保障制度の概要」 社会保障入門目次 「総論Ⅰ、Ⅱ」 一般目標 社会保障制度の種類を理解する。</p>	<p>「我が国の社会保障制度の概要」 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会保険制度の種類を挙げることができる。 ② 現代の国民生活と日本の社会保障制度の歴史を説明できる。 ③ 少子高齢化の進む日本社会で地域社会の在り方、労働の形態の変化を説明できる。 ④ 社会保障制度の変化を説明できる。 ⑤ 新しく設立された省庁と法の内容を説明できる。 ⑥ 社会福祉制度における支援の種類を挙げることができる。 	葛谷桂司

			⑦ 諸外国の社会保障の現状を説明できる。	
2	後期	「医療保険制度」 社会保障入門目次 各論Ⅱ「保健医療」 一般目標 ① 医療保険制度の仕組みを理解する。 ② 医療保険制度の種類を理解する。	「医療保険制度」 到達目標 ① 健康保険制度の加入要件について説明できる。 ② 健康保険、国民健康保険の違いを説明できる。 ③ 健康保険制度の保険料納付、給付に関する内容を説明できる。 ④ 国民健康保険制度の加入要件について説明できる。 ⑤ 国民健康保険の制度の保険料納付、給付について説明できる。	葛谷桂司
3	後期	「年金制度」 社会保障入門 目次 各論Ⅲ 「年金・労働保険」 一般目標 ① 年金制度の仕組みを理解する。 ② 国民年金、厚生年金の構成を理解する。	「年金制度」 到達目標 ① 年金制度の目的を説明できる。 ② 国民年金、厚生年金の加入要件、納付について説明できる。 ③ 年金の受給資格について説明できる。 ④ 国民年金、厚生年金の給付の種類を挙げることができる。	葛谷桂司
4	後期	「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」 社会保障入門 目次 「各論Ⅲ 年金・労働保険」 一般目標 ① 雇用保険制度の目的を理解する。 ② 雇用保険制度の内容を理解する。 ③ 労働者災害補償保険の目的を理解する。 ④ 労働者災害補償保険の内容を理解する。	「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」 到達目標 ① 雇用保険制度の目的を説明できる。 ② 雇用保険の加入要件、事業主の義務を説明できる。 ③ 雇用保険加入労働者の権利、失業給付等の給付要件、給付の種類・内容を説明できる。 ④ 労働者災害補償保険の目的を説明できる。 ⑤ 被災者に対する給付の種類を説明できる。 ⑥ 認定を受けた者の社会復帰に関する内容を説明できる。	葛谷桂司
5	後期	「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ	「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅰ 到達目標	葛谷桂司

		<p>「社会保障入門」 総論⑨～⑭各論社会福祉 「社会保障の手引」 目次 「児童の福祉」</p> <p>一般目標</p> <p>① 児童福祉法で保障されている児童の権利に対しての行政サービスの概要を紹介、保護者のいない児童の自立に活用できるサービス、児童虐待防止に関わる内容を理解する。</p> <p>② 子ども・子育て支援制度の概要を理解する。</p>	<p>① 児童福祉法の目的を説明できる。</p> <p>② 児童の種類を挙げるができる。</p> <p>③ 児童相談所をはじめとする機関の役割を説明できる。</p> <p>④ 社会的養護の内容を説明できる。</p> <p>⑤ 子ども・子育て支援制度の概要を説明できる。</p> <p>⑥ 児童福祉施設の種類・支援内容を挙げるができる。</p>	
6	後期	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ</p> <p>「社会保障入門」 目次 社会福祉各論 ⑯⑰⑱ 「社会保障の手引」 「母子及び父子並びに寡婦の福祉」</p> <p>一般目標</p> <p>児童を取り巻く環境のうち、家庭の形態の変化、父又は母親との離死別等によりひとり親となった家庭に対して、「母子及び父子並びに寡婦福祉法」を基に提供する福祉サービス内容理解する。</p> <p>③家族形態・就労形態等の変化に伴い、「子どもの貧困」の問題がクローズアップされている。これは別単元の「生活保護受給者・生活困窮者の支援」と関連していること。子どものみの問題ではなく、その家族に対する支援内容を理解する。</p>	<p>「児童・ひとり親家庭の福祉」Ⅱ</p> <p>到達目標</p> <p>① 児童虐待に関する定義・責務を説明できる。</p> <p>② ひとり親家庭の定義、ひとり親家庭への支援について説明できる。</p> <p>③ 児童手当等の経済支援を挙げるができる。</p>	葛谷桂司
7	後期	<p>「母子保健制度」</p> <p>「社会保障入門」各論社会福祉⑮</p> <p>「社会保障の手引」 母子保健</p> <p>一般目標</p> <p>①母子保健法の目的を理解する。</p>	<p>「母子保健制度」</p> <p>到達目標</p> <p>① 母子健康手帳の申請・交付の内容を説明できる。</p> <p>② 訪問指導の内容を説明できる。</p>	葛谷桂司

		<p>②生まれる前と生まれた直後の児童および母親の健康のため、保健指導・健康診査・医療サービスを行う制度の内容を理解する。</p> <p>乳児を新生児、未熟児、低体重児で分類し、サービス提供を行っていることを理解する。</p>	<p>③ 妊産婦の訪問指導、未熟児の訪問指導、未熟児の養育医療について説明できる。</p> <p>④ 未熟児の基準を説明できる。</p> <p>⑤ 1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の内容、事後指導について説明できる。</p> <p>⑥ 妊産婦及び乳幼児健康診査について説明できる。</p> <p>⑦ 妊産婦高血圧症候群等の療育援護について説明できる。</p> <p>⑧ B型肝炎母子感染事業の内容を説明できる。</p> <p>⑨ 先天性代謝異常等検査事業の内容を説明できる。</p> <p>マタニティマークをとおした「妊産婦にやさしい環境づくり」の推進について説明できる。</p>	
8	後期	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」「社会保障入門」目次各論社会福祉①～③「社会保障の手引」生活保護、生活困窮者等の支援</p> <p>一般目標</p> <p>① 生活保護制度の法的根拠を理解する。</p> <p>② 生活保護制度の内容を理解する。</p> <p>③ 生活困窮者自立支援法の内容を理解する。</p> <p>④ 婦人保護事業の内容を理解する。</p> <p>災害救助法の内容を理解する。</p>	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」到達目標</p> <p>① 生活保護法の法的根拠を説明できる。</p> <p>② 最低生活保障と自立助長を説明できる。</p> <p>③ 生活保護の基本原則を説明できる。</p> <p>④ 生活保護の基本原則を説明できる。</p> <p>⑤ 生活保護の種類を挙げることができる。</p> <p>⑥ 保護の実施機関と保護の実施について説明できる。</p> <p>⑦ 被保護者の責務を説明できる。</p> <p>⑧ 不正受給、不適正受給対策について説明できる。</p> <p>⑨ ワークフェアとソーシャルインクルージョンについて説明できる。</p> <p>⑩ 生活保護法に規定されている保護施設の種類とサービスの内容を説明できる。</p> <p>⑪ 生活困窮者自立支援法の概要を説明できる。</p>	葛谷桂司

			<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 生活困窮者自立支援法に規定されている支援事業の内容を説明できる。 ⑬ 婦人保護事業の実施機関、実施主体を説明できる。 ⑭ 災害救助法の目的を説明できる。 ⑮ 災害救助の種類を説明できる。 ⑯ 災害救助法に規定されている強制権を説明できる。 ⑰ 日本赤十字社の役割を説明できる。 	
9	後期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑭～⑳</p> <p>「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」 一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 障害者基本法の内容を理解する。 ② 障害者差別に関する規定を理解する。 ③ 障害の法規定を理解する。 ④ 障害者（児）支援に関する行政機関のサービス提供の内容を理解する。 ⑤ 障害児の保健福祉について理解する。 	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 障害者基本法の概要を説明できる。 ② 差別禁止に関する内容を説明できる。 ③ 障害種類（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害）を説明できる。 ④ 障害認定と障害者手帳の申請から交付の流れを説明できる。 ⑤ 身体障害者更生相談所の業務を説明できる。 ⑥ 知的障害者更生相談所の業務の内容を説明できる。 ⑦ 精神保健福祉センターの業務の内容を説明できる。 ⑧ 児童相談所の障害児に対する業務の内容を説明できる。 <p>障害児施設の種類を説明できる。</p>	葛谷桂司
10	後期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑭～⑳</p> <p>「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」 一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）の内容を理解する。 ② 障害者総合支援法に基づく支援内容を理解する。 	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）の目的、理念を説明できる。 ② 障害者総合支援法に規定されている行政の役割を説明できる。 ③ 障害者総合支援法に規定されているサービス受給のための申請から認定の流れを説明できる。 ④ 障害者総合支援法に規定されている給付サービスの内容を説明できる。 ⑤ 障害者虐待の内容を説明できる。 	葛谷桂司

		③ 障害者虐待の問題を理解する。		
11	後期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅲ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ⑱～㉔ 「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」 一般目標 ① 発達障害者支援法の内容を理解する。 ② 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の概要、詳細を理解する。</p>	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅲ」 到達目標 ① 発達障害者支援法の主旨を説明できる。 ① 発達障害の定義を説明できる。 ② 発達障害者支援法の基本理念を説明できる。 ③ 発達障害者支援法に規定されている支援の内容を説明できる。 ④ 発達障害者支援センターの実施主体、利用者について説明できる。 ⑤ 発達障害者支援センターの事業の内容を説明できる。 ⑥ 発達障害者支援センター内の職員配置について説明できる。 ⑦ 医療的ケア児と医療的ケアの説明ができる。 ⑧ 医療的ケア児とその家族に対する国、公共団体、保育所、学校の義務を説明できる ⑨ 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する施策を説明できる。</p>	葛谷桂司
12	後期	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉 一般目標 ① 高齢者福祉の歴史の概要を理解する。 ② 介護保険の概要を理解する。 ③ 介護保険における支援対象者、提供サービスについて理解する ④ 高齢者の権利擁護について理解する。</p>	<p>「高齢者の保健福祉Ⅰ」 到達目標 ① 現行の介護保険法成立までの変遷を説明できる。 ② 介護保険法創設について説明できる。 ③ 介護保険法の目的を説明できる。 ④ 介護保険法に規定されている保険者・被保険者について説明できる。 ⑤ 介護保険法に規定されている資格取得、喪失について説明できる。 ⑥ 保険事故について説明できる。 ⑦ 要介護状態、要支援状態認定について説明できる。 ⑧ 要介護、要支援認定について説明できる。</p>	葛谷桂司

		⑤ 高齢者の虐待とその防止について理解する。	⑨ 介護保険料の徴収について説明できる。 ⑩ 介護サービス提供までの流れを説明できる。 ⑪ 介護給付の内容を名称ごとに説明できる。 ⑫ 権利擁護の日常生活自立支援事業の内容を説明できる。 ⑬ 高齢者虐待について説明できる。 ⑭ 高齢者虐待の種類、法的措置を説明できる。 ⑮ 介護保険法に規定されている高齢者福祉施設の種類、内容を説明できる。	
13	後期	「高齢者の保健福祉Ⅱ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉 一般目標 ① 介護予防の内容を理解する。 ② 介護予防サービスの種類を理解する。 ③ 訪問型サービスの内容を理解する。 ④ 通所型サービスの内容を理解する。 ⑤ 一般介護予防事業の目的を理解する。 ⑥ 一般介護予防事業の種類、内容を理解する。	「高齢者の保健福祉Ⅱ」 到達目標 ① 介護予防の目的を説明できる。 ② 介護予防サービスの種類を説明できる。 ③ 訪問型サービスの内容を説明できる。 ④ 通所型サービスの内容を説明できる。 ⑤ 一般介護予防事業の目的を説明できる。 ⑥ 一般介護予防事業の種類、内容を説明できる。	葛谷桂司
14	後期	「高齢者の保健福祉Ⅲ」 「社会保障入門」各論 社会福祉 ④～⑧ 「社会保障の手引」 高齢者の保健福祉 一般目標 ① 認知症施策の内容を理解する。	「高齢者の保健福祉Ⅲ」 到達目標 ① 認知症施策の流れを説明できる。 ② 新オレンジプランの基本的な考えを説明できる。 ③ 新オレンジプランの「七つの柱」を説明できる。	葛谷桂司

		<p>② 新オレンジプランの内容を理解する。</p> <p>③ 共生型サービスの内容を理解する。</p>	<p>④ 共生型サービスの創設の目的、介護保険サービスと障害者総合支援法との関連を説明できる。</p>	
15	後期	<p>「特殊疾病対策」</p> <p>「社会保障入門」各論Ⅱ 保健医療⑩～⑭</p> <p>「社会保障の手引」「特殊疾病対策」</p> <p>一般目標</p> <p>① 地域保健活動で役割を担っている保健士の活動内容を理解する。</p> <p>① 日本国内で発生する感染症対策の理解をする。</p> <p>② 難病患者・その家族に対する支援について理解する。</p> <p>③ 特殊疾病対策における行政の責務を理解する。</p>	<p>「特殊疾病対策」</p> <p>到達目標</p> <p>① 保健士の活動内容を説明できる。</p> <p>① 感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律の目的を説明できる。</p> <p>② 感染症の種類を説明できる。</p> <p>③ 予防対策に関して、行政の責務を説明できる。</p> <p>④ 発生から対策の流れを説明できる。</p> <p>⑤ 都道府県知事の権限を説明できる。</p> <p>⑥ 感染症患者の人権の尊重について説明できる。</p> <p>⑦ 結核対策の目的、実施主体、定期健康診断について説明できる。</p> <p>⑧ 難病対策の難病の定義を説明できる。</p> <p>⑨ 難病対策の目的を説明できる。</p> <p>⑩ 特定医療費の支給内容を説明できる。</p> <p>⑪ 難病患者に対する支援策の目的、実施主体を説明できる。</p> <p>⑫ 難病相談支援センター事業の目的、支援内容を説明できる。</p> <p>⑬ 特定疾患治療研究事業の内容を説明できる。</p> <p>⑭ 特定疾患治療研究事業の対象疾患名を説明できる。</p> <p>⑮ 治療と給付に関する説明ができる。</p>	葛谷桂司
成績評価方法		科目試験(100点)		
準備学習など		<p>1. 講義の進め方について</p> <p>テキストのページの順序では講義は進めません。シラバスで必ず、確認して下さい。</p> <p>2. 準備について</p> <p>次のことを準備してください。</p> <p>1. 中央法規 社会保障入門をシラバスで確認して予習すること。</p> <p>2. 中央法規 社会保障の手引は付属のインデックスを貼って、準備しておくこと。</p>		

	<p>3. 「社会保障入門」で基本を学習し、応用として「社会保障の手引」で各法の詳細を学ぶ形式で講義を進めます。</p> <p>4. 配布する「今日の復習」は必ず翌週講義までに解いておくこと。</p> <p>必ず問題を解いておくようにしてください。レポート課題を1度出します。</p> <p>初めて法律用語に触れる方もいると思います。現場で活躍するために必要な内容です。そのための準備として一緒に取り組みましょう。</p> <p>必ず問題を解いておくようにしてください。レポートについては、1回課題を出す予定です。</p>
留意事項	特になし

学科・年次	理学療法科 2学年
科目名	病態概論
担当者	林 尚宜
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	教科書の内容にそった講義、グループワーク、演習課題
教科書・参考書	機能障害科学入門 九州神陵文庫

授業概要と目的	
<p>リハビリテーションにおいて治療ターゲットとしているのは、機能障害そのものである。筋力低下や関節可動域制限などが、臨床場面にて良く遭遇する機能障害のひとつである。その病態や発生メカニズムにまで掘り下げ、それぞれの機能障害について深く学習する。今後、各治療者が自身の手で治療ターゲットである機能障害を考えることができるようになることが目的である。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「骨折」 一般目標 ① 骨折の定義と特徴について理解する ② 主な原因について理解する	「骨折とは」 到達目標 ① 骨折の定義について説明できる ② 骨折の原因について説明できる ③ 骨折の分類について説明できる ④ 骨折の治癒過程について説明できる ⑤ 骨折の外科的治療について説明できる ⑥ 骨折の保存的治療について説明できる ⑦ 骨折のリハビリテーションの考え方について説明できる	林 尚宜
2	前期	「免疫・炎症」 一般目標 ① 炎症の定義と特徴について理解する ② 免疫の機能について理解する ③ 炎症の主な原因について理解する	「免疫とは」 「炎症とは」 到達目標 ① 炎症に関与する細胞について説明できる ② 炎症の原因について説明できる ③ 免疫の機能について説明できる ④ 炎症に対するリハビリテーションの考え方について説明できる	林 尚宜
3	前期	「創傷・熱傷」 一般目標 ① 皮膚の機能解剖について理解する ② 創傷・熱傷の定義と特徴について理解する ③ 主な原因について理解する	「創傷とは」 「熱傷とは」 到達目標 ① 創傷の定義について説明できる ② 創傷の原因について説明できる ③ 創傷に対するリハビリテーションについて説明できる ④ 創傷治癒過程について説明できる ⑤ 熱傷の特徴について説明できる ⑥ 熱傷の治療について説明できる	林 尚宜
4	前期	「筋損傷1」 一般目標 ① 筋の構造と特徴について理解する ② 筋の収縮について理解する	「筋損傷とは」 到達目標 ① 筋線維、筋膜について説明できる ② A帯、I帯、H帯、Z帯について説明できる ③ 筋フィラメントについて説明できる ④ 筋の滑走説について説明できる ⑤ 筋張力について説明できる	林 尚宜

5	前期	<p>「筋損傷2」</p> <p>一般目標</p> <p>① 筋紡錘について理解する</p> <p>② 筋損傷の定義と特徴について理解する</p> <p>③ 主な原因について理解する</p>	<p>「筋損傷とは」</p> <p>到達目標</p> <p>① 筋紡錘に接する神経について説明できる</p> <p>② 筋紡錘の役割について説明できる</p> <p>③ 筋損傷の原因について説明できる</p> <p>④ 筋の基本構造について説明できる</p> <p>⑤ 筋損傷の治癒過程について説明できる</p> <p>⑥ 筋損傷の予防的アプローチについて説明できる</p>	林 尚宜
6	前期	<p>「末梢神経損傷」</p> <p>一般目標</p> <p>① 末梢神経の構造と分類を理解する</p> <p>② 末梢神経損傷の定義と特徴について理解する</p> <p>③ 主な原因について理解する</p>	<p>「末梢神経損傷とは」</p> <p>到達目標</p> <p>① 末梢神経の種類、構造、役割を説明できる</p> <p>② 伸張反射について説明できる</p> <p>③ 末梢神経損傷の定義について説明できる</p> <p>④ 末梢神経損傷の原因について説明できる</p> <p>⑤ 末梢神経損傷の分類について説明できる</p> <p>⑥ 末梢神経損傷の症状について説明できる</p> <p>⑦ 末梢神経損傷の治癒過程について説明できる</p> <p>⑧ 神経損傷について説明できる</p> <p>⑦ 末梢神経損傷の治療について説明できる</p> <p>⑧ 末梢神経損傷のリハビリテーションについて説明できる</p>	林 尚宜
7	前期	<p>「中間まとめ」</p> <p>一般目標</p> <p>① 各病態について理解を深める</p>	<p>「中間まとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 各病態について問題点の抽出が行える</p> <p>② 各病態について評価の選択ができる</p> <p>③ 各病態について治療方法の選択ができる</p> <p>①</p>	林 尚宜

8	前期	<p>「麻痺」 一般目標</p> <p>① 中枢神経の機能解剖について理解する</p> <p>② 麻痺とは何か理解する</p> <p>③ 筋トーン異常とはなにか理解する</p> <p>④ 筋トーン異常の発生メカニズムを理解する</p>	<p>「痙縮とは」 「固縮とは」</p> <p>到達目標</p> <p>② 筋トーン異常の定義について説明できる</p> <p>③ 筋トーン異常の制御機構について説明できる</p> <p>④ 痙縮と固縮の比較を説明できる</p> <p>⑤ 薬物療法について説明できる リハビリテーションについて説明できる</p>	林 尚宜
9	前期	<p>「筋萎縮」 一般目標</p> <p>① 筋萎縮の定義と特徴について理解する</p> <p>② 主な原因について理解する</p>	<p>「廃用症候群」 「サルコペニア」</p> <p>到達目標</p> <p>① 筋萎縮の定義について説明できる</p> <p>② 筋萎縮の原因について説明できる</p> <p>③ 廃用症候群について説明できる</p> <p>④ サルコペニアについて説明できる</p> <p>⑤ 運動による筋肥大のメカニズムについて説明できる</p> <p>治療戦略について説明できる</p>	林 尚宜
10	前期	<p>「疼痛」 一般目標</p> <p>① 疼痛の基礎知識について理解する</p> <p>② 急性痛とは何か理解する</p>	<p>「疼痛に関する基礎知識」 「急性痛とは」</p> <p>到達目標</p> <p>① 痛みの受容器について説明できる</p> <p>② 痛みの伝導路について説明できる</p> <p>③ 感作、可塑性について説明できる</p> <p>④ 急性痛とは何か説明できる</p> <p>⑤ 急性痛の理学療法について説明できる</p>	林 尚宜
11	前期	<p>「慢性痛」 一般目標</p> <p>① 慢性痛の定義と特徴について理解する</p> <p>② 慢性痛の主な原因について理解する</p>	<p>「慢性疼痛とは」</p> <p>到達目標</p> <p>① 慢性痛の定義について説明できる</p> <p>② 慢性痛の原因について説明できる</p> <p>③ 慢性痛に対するリハビリテーションについて説明できる</p>	林 尚宜
12	前期	<p>「腱損傷・靭帯損傷」 一般目標</p> <p>① 腱損傷と靭帯損傷の定義と特徴について理解する</p>	<p>「腱損傷とは」 「靭帯損傷とは」</p> <p>到達目標</p> <p>① 腱損傷と靭帯損傷のそれぞれの定義について説明できる</p>	林 尚宜

		② 腱損傷と靭帯損傷の主な原因について理解する	② 腱損傷と靭帯損傷のそれぞれ原因について説明できる ③ 腱損傷と靭帯損傷のそれぞれに対する外科的治療について説明できる ④ 腱損傷と靭帯損傷のそれぞれに対するリハビリテーションについて説明できる ⑤ 治癒過程について説明できる	
13	前期	「関節可動域制限」 一般目標 ① 関節可動域制限の定義と特徴について理解する ② 主な原因について理解する	「関節可動域制限とは」 到達目標 ① 関節可動域制限の定義について説明できる ② 関節可動域制限の原因について説明できる ③ 関節可動域制限に対する治療について説明できる ④ 関節可動域制限に対するリハビリテーションについて説明できる	林 尚宜
14	前期	「関節可動域制限（演習）」 一般目標 ① 様々な病態の症例を通して問題点の抽出、介入方法を理解する	「症例検討」 到達目標 ① 問題点の抽出を行える ② 評価の選択ができる ③ 治療方法の選択ができる	林 尚宜
15	前期	「まとめ」 一般目標 ① 各病態について理解を深める	「まとめ」 到達目標 ① 各病態について問題点の抽出が行える ② 各病態について評価の選択ができる ③ 各病態について治療方法の選択ができる	林 尚宜
成績評価方法		中間・科目試験（90%） グループワーク課題（10%）		
準備学習など		授業間に行う「アウトプットタイム」に、積極的に発言して学習すること		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科 2年次	開講期間	通年
科目名	理学療法研究法		
担当者	小出 悠介		
単位数（時間数）	2単位（30時間）	履修方法	講義 グループワーク
教科書・参考書	理学療法研究法 医学書院 はじめての研究法 神陵文庫		

授業概要
本講義は専門職を目指し、研究に取り組もうとする前段階として、研究の必要性やその方法論について基礎知識を知る講義である。前半では研究についての知識や方法論について学び、後半では前半で学んだ知識をもとに、課題を作成し、発表を行う。なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。
授業の目的（意義）
本講義の目的は文献レビュー方法や文章を書く上での作法（決まり事）、統計学的知識を理解し、その知識を使って、実際に文献レビュー課題を作成・発表できるようになることである。また、他の発表を評価することで、物事を批判的にみる能力を養うことも目的としている。
関連する学科の DP
<p>①理学療法士として必要な基礎知識を修得している</p> <p>②医学知識を修得し、論理的思考に基づいた理学療法（評価・治療）が実践できる</p> <p>④自己研鑽に努め、得た知識や経験を適切に共有することができる</p> <p>⑤臨床現場で求められる基礎的实践能力を備えている</p> <p>⑥自律心を有している</p> <p>1. 自己研鑽を継続できる</p> <p>2. 自主的に行動が起こせる 3. 自信をもって業務に臨める 4. 自己マネジメントすることで課題を明確にできる</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「オリエンテーション」 講義内容について知る。研究の必要性について理解し、述べるようになる。	「講義説明/研究とはなにか」 ① 講義内容を理解する ② 研究の必要性について述べるができる。 ③ 研究を行う上で必要なことや構成要素、手順、手法を述べるができる。 ④ 研究手法についての国家試験問題を解くことができる。	小出悠介
2	後期	「文章作成」 文章を書く（Word 使用）上での決まり事（書式や見出しなど）	「論文を書く上での決まり事」	小出悠介

		を理解し，説明できるようになる．	<ul style="list-style-type: none"> ① グループワークで文章を書く際に気を付けていることを述べることができる． ② 一文，一段落を構成するときの文字数を意識できるようになる． ③ 文章を書く際に，見出しやフォントを意識できるようになる． 	
3	後期	<p>「文献検索方法」</p> <p>実際に先行研究を文献検索サイトで，検索できるようになる．</p>	<p>「文献検索の為のコンピューター活用法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 文献検索サイトを知る． ② 実際に文献検索サイトを使用し文献検索ができるようになる． ③ キーワードから文献検索ができるようになる． 	小出悠介
4	後期	<p>「研究デザイン」</p> <p>論文がどのように構成されているかを知り，各研究デザインの特徴やエビデンスレベルを述べる事が理解できる．</p>	<p>「研究デザインの特徴」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 前向き後ろ向きを説明できる ② エビデンスレベルを説明できる ③ それに関する問題を解くことができる． 	小出悠介
5	後期	<p>「統計学」</p> <p>先行研究レビューや論文を読み解く上で必要な統計学的知識を理解し，実際の統計結果を説明できるようになる．</p>	<p>「先行研究を読み解く上で必要な統計学的知識」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 量的・質的研究の意味を知る． ② 基本統計の結果を説明できるようになる． 	小出悠介
6	後期	<p>「統計学2」</p> <p>多変量解析を用いた文献を読み解くことができる． 尤度比に関する知識を近いし，説明できるようになる．</p>	<p>「多変量解析、尤度比、オッズ比」</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 多変量解析の結果を説明できるようになる． ④ 尤度比について計算ができる． ⑤ オッズ比について説明ができる． ⑥ 統計学についての国家試験問題を解くことができる． 	小出悠介
7	後期	<p>「まとめ」</p> <p>論文を書く上での決まり事や研究に関する知識（第6回まで）について総復習を行う．各項目について説明できる．</p>	<p>「6回目までの講義の知識を復習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各統計手法について要点を説明できる． ② 研究デザインについて説明できる． ③ 研究の意義や文章作成方法，検索方法を説明できる． 	小出悠介

8	後期	「発表課題テーマ決め」 グループで理学療法関連分野から発表課題のテーマを決めることができる。また、締め切りを意識しスケジュールを作成できる。	「発表課題のテーマとスケジュール」 ① グループワークで発表課題のテーマを決めることができる。 ② 締め切りから逆算してスケジュールを組むことができる。	小出悠介
9	後期	「発表課題作成①」 決めたテーマについての先行研究を、文献検索サイトを使用し、探し出すことができる。	「課題テーマの文献レビュー」 ① 課題テーマの内容に関わる文献検索ができる。 ② 各分野それぞれ 5 本以上レビューすることができる。	小出悠介
10	後期	「発表課題作成②」 検索した文献の内容をまとめることができる。組んだスケジュールからタイムマネジメントが出来る。	「課題テーマの文献の内容をまとめる」 ① 各文献から研究デザインや結果、明らかになったことなどをまとめることができる。 ② 発表課題の構成をグループで決めることができる。 ③ 進捗状況を担当教員に適切に報告ができる。	小出悠介
11	後期	「課題作成③」 決めた構成に従い、文章を作成できる。その際に、文章作成の決まり事を意識し、グループ内で書式をそろえることができる。	「実際に文章を作成する」 ① 文章作成の決まり事を意識し、文章を作成できるようになる。 ② 作成する際に、見出しやフォントなどグループ内で書式を統一できる。 ③ 進捗状況を担当教員に適切に報告ができる。	小出悠介
12	後期	「課題作成④」 発表原稿を作成し、時間内に内容を伝えられるようになる。	「発表の準備」 ① 作成した課題を基に発表原稿を作成する。 ② 実際にグループ内で予演会を行い時間内に発表できるようになる。 ③ 締め切りまでに発表課題を担当教員に提出することができる。	小出悠介
13	後期	「課題発表と評価①」 時間内に課題内容を発表することができる。また、他の課題発表について評価することができる。	「課題発表とその評価」 ① 発表するグループは時間内に適切に課題内容を発表することができる。 ② 発表のないグループは他の発表を聞き、批判的に評価し、質問や意見を述べることができる。	小出悠介

14	後期	「課題発表と評価②」 時間内に課題内容を発表することができる。また、他の課題発表について評価することができる。	「課題発表とその評価」 ① 発表するグループは時間内に適切に課題内容を発表することができる。 ② 発表のないグループは他の発表を聞き、批判的に評価し、質問や意見を述べるることができる。	小出悠介
15	後期	「課題発表と評価③/総評」 時間内に課題内容を発表することができる。また、他の課題発表について評価することができる。	「課題発表とその評価」 ① 発表するグループは時間内に適切に課題内容を発表することができる。 ② 発表のないグループは他の発表を聞き、批判的に評価し、質問や意見を述べるることができる。	小出悠介
成績評価方法		要約課題の提出 (20点) 授業態度・課題制作グループワーク態度 (20点) 発表課題提出 (30点) 課題の発表と評価 (30点) 合計 100点で評価		
準備学習/事後学習		研究内容の対象を事前に把握しておくこと。		
関連科目		理学療法研究法→実習セミナー→理学療法総合演習		
その他 (履修者へのアドバイス等)		他グループ発表時の聞く態度も評価します。 提出物が評価対象となります。その為、締め切りは厳守といたします。 実習セミナーの臨床推論に使用する知識も学びます。		

学科・年次	理学療法科 2 学年
科目名	理学療法管理学
担当者	星野 茂
単位数 (時間数)	2 単位 (30 時間)
学習方法	講義形式 グループワーク
教科書・参考書	リハビリテーション管理学 斎藤秀之編 医学書院

授業概要と目的
<p>日本では、人口構造の変化、高齢化の進展により、医療保険制度と介護保険制度も変更を余儀なくされてきた。それに伴って理学療法士が活躍する現場も医療から介護や保健、教育などに広がり、役割が増してきている。このような背景のもと、我々理学療法士には、制度の変化に素早く適応するための対応力、自らが積極的に関与していくマネジメント能力を身につけること、教育と倫理について正しい知識を学習することが求められる。本講義では、すでに述べた理学療法士として必要な能力を獲得し、社会への対応力やその中のマネジメント力を備えた、質の高い理学療法士となることを目的としている。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「社会保障制度」 社会保障制度の概要について理解する。	「社会保障制度・医療保険」 ①社会保障制度の成り立ち、概要、仕組みについて説明できる。 ②医療保険の仕組みについて説明することができる。 ③診療報酬制度について説明できる。	星野 茂
2	後期	「社会保障制度」 社会保障制度の概要について理解する。	「介護保険」 ①介護保険の仕組みについて説明できる。 ②介護保険給付サービスの種類について理解する。 ③介護報酬制度について説明できる。	星野 茂
3	後期	「社会保障制度」 社会保障制度の概要について理解する。	「障害者サービスと予防」 ①障害者手帳の概要を理解する。 ②障害者総合支援法について説明できる。 ③介護予防、保健指導の方法について説明できる。	星野 茂
4	後期	「職業倫理」 職業倫理について理解する。	「専門職に求められる職業倫理」	星野 茂

			①インフォームドコンセントについて説明できる. ②守秘義務の重要性を理解する	
5	後期	「職業倫理」 職業倫理について理解する.	「身分法と倫理綱領」 ①医療に関する法律について概要を理解する. ②理学療法士及び作業療法士法について理解する. ③各職能団体の倫理綱領について理解する.	星野 茂
6	後期	「業務管理」 業務管理の方法について概要を理解する.	「組織体制、理学療法士の業務」 ①リハビリテーションスタッフに関する組織体制について理解する. ②診療規則の書き方について理解し、作成することができる.	星野 茂
7	後期	「業務管理」 業務管理の方法について概要を理解する.	「コンプライアンス、労務管理、」 ①医療職に求められるコンプライアンスについて知る. ②勤務体制と労時間管理について理解する. ③ハラスメントの種類と防止策を説明できる.	星野 茂
8	後期	「業務管理」 業務管理の方法について概要を理解する.	「組織マネジメント」 ①リーダーシップとマネジメントの違いとそれぞれの注意点を理解する. ②人材管理とは何かを理解し、より良い組織づくりの方法を考えることができる	星野 茂
9	後期	「多職種連携と地域連携」 多職種連携の在り方、地域連携システムについて概要を理解する.	「多職種連携」 ①理学療法士が連携すべき多職種について説明できる. ②多職種連携の実際例を学び、将来の職業像を構築する.	星野 茂
10	後期	「多職種連携と地域連携」 多職種連携の在り方、地域連携システムについて概要を理解する.	「地域連携」 ①地域包括ケアシステムについて概要を理解する. ②地域ケアの現場における理学療法士の役割を学び、連携方法を確認する.	星野 茂

11	後期	「医療の質とリスクマネジメント」 医療の質について学び、リハビリテーションにおける質的保証や医療の安全性について理解する	「医療の質的保証とリスクマネジメント」 ①医療の質と患者満足度の関係を理解する ②臨床指標と質的指標について理解する ③リハビリテーションにおける質的保障について理解する ④医療の安全性と、インシデントレポートの概要について理解する	星野 茂
12	後期	「養成教育と卒後教育」 理学療法士養成教育や卒後教育に求められる変化や概要を理解する。	「教育の役割」 ①教育の構造と役割について理解する。 ②教授方法と教育評価の方法について理解する。	星野 茂
13	後期	「養成教育と卒後教育」 理学療法士養成教育や卒後教育に求められる変化や概要を理解する。	「養成教育制度」 ①理学療法士養成施設における指定規則について理解する。 ②授業カリキュラムの構築、指定規則とのつながりを理解する。 ③臨床実習の意義、目的について知る。	星野 茂
14	後期	「養成教育と卒後教育」 理学療法士養成教育や卒後教育に求められる変化や概要を理解する。	「卒後教育」 ①自己研鑽の必要性について理解する。 ②職能団体について理解する。 ③認定制度について知る。 ④学術活動について理解する。	星野 茂
15	後期	「理学療法管理学まとめ」 本講義やその他の講義で得た知見を基に理学療法士に必要なスキルや知識、素養について理解し、今後の一助とする。	「まとめ」 ①実際の理学療法士業務について概要を説明できる。 ②自分が理学療法士スタッフをマネジメントするときの注意点を列挙できる。 ③ハラスメントの注意点について理解する。	星野 茂
成績評価方法		科目試験（100点）		
準備学習など		前回の授業内容を把握しておくこと		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科 2年次	開講期間	前期
科目名	理学療法評価演習Ⅱ		
担当者	熱尾有加 寺島 弘将		
単位数（時間数）	2単位（60時間）	履修方法	講義、実技
教科書・参考書	新・徒手筋力検査法 第10版 株式会社協同医書出版社 PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 国試画像問題攻略 第3版 医歯薬出版株式会社		

授業概要
徒手筋力検査法（以下、MMT）は Daniels らによって開発された、徒手によって身体の主要な筋力を判定する検査法である。理学療法士にとって診断の補助、運動機能の判定、治療効果の判定、治療の一手段として重要となる。また臨床現場で必要とされる画像読影の基礎についても学んでいく。なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。
授業の目的（意義）
MMT の理論的背景から実際の検査技術までを習得する。 X線や CT、MRI といった画像を読み解き、評価や治療の参考にできる基礎能力を養う。これらを目的として講義をすすめていく。
関連する学科の DP
<ul style="list-style-type: none"> ② 理学療法士として必要な基礎知識を修得している ② 医学知識を修得し、論理的思考に基づいた理学療法（評価・治療）が実践できる ③ 自己研鑽に努め、得た知識や経験を適切に共有することができる ④ 臨床現場で求められる基礎的実践能力を備えている ⑤ 自律心を有している ⑥ 協調性を有している

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「PT・OT 画像問題」 一般目標 国家試験問題を解き、数値化する。	「国家試験問題 第1試行」 到達目標 ①国家試験における画像問題を解き、実力を知ることができる。 ②国家試験問題内のわからない言葉を列挙することができる。	寺島 弘将
2	「脳の画像読影」 一般目標 脳画像についての基礎知識を理解する。	「CT と MRI 画像について」 到達目標 ①CT と MRI の違いについて説明できる。 ②頭部画像読影のポイントを理解できる。	寺島 弘将

3	「脊柱の画像読影」 一般目標 脊柱画像についての基礎知識を理解する。	「脊柱の X 線, CT, MRI 画像について」 到達目標 ①脊柱の画像読影のポイントを理解することができる。	寺島 弘将
4	「上下肢の画像読影」 一般目標 上下肢画像についての基礎知識を理解する。	「上下肢の X 線, CT, MRI 画像について」 到達目標 ①上下肢画像読影のポイントを理解することができる。	寺島 弘将
5	「内臓の画像読影」 一般目標 内臓画像についての基礎知識を理解する。	「内臓の X 線, CT 画像について」 到達目標 ①内臓の画像読影のポイントを理解することができる。	寺島 弘将
6	「PT・OT 画像問題」 一般目標 国家試験問題を解き, 講義の習熟度を確認する。	「国家試験問題 第 2 試行」 到達目標 ①国家試験における画像問題を解き, 講義の習熟度を知ることができる。	寺島 弘将
7	「MMT 総論」 一般目標 ①MMT の意義について理解する。 ②MMT の目的について理解する。 ③MMT の方法について理解する。	「MMT の意義, 目的, 方法」 到達目標 ①MMT の意義, 目的を説明できる。 ②筋の起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルの重要性を説明できる。 ③筋の触診技術の重要性を説明できる。 ④MMT の段階付けを説明できる。 ⑤MMT の原則を説明できる。 ⑥MMT の測定方法を説明できる。 ⑦MMT における代償動作を説明できる。	熱尾 有加
8	「上肢の MMT (肩関節)」 一般目標 肩関節の MMT を正確に実施する。	「肩関節の MMT」 到達目標 ①肩関節各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる。 ②肩関節 MMT の段階付けを説明できる。 ③肩関節各運動方向における主動作筋の触診ができる。 ④肩関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。 ⑤評価における注意点を説明, 実践できる。	熱尾 有加
9	「上肢の MMT (肩関節, 肩甲骨)」 一般目標	「肩関節, 肩甲骨の MMT」 到達目標	熱尾 有加

	肩関節, 肩甲骨の MMT を正確に実施する.	<p>①肩関節, 肩甲骨の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p> <p>②肩関節, 肩甲骨 MMT の段階付けを説明できる.</p> <p>③肩関節, 肩甲骨の各運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>④肩関節, 肩甲骨 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる.</p> <p>⑤評価における注意点を説明, 実践できる.</p>	
10	<p>「上肢の MMT (肩甲骨)」</p> <p>一般目標</p> <p>肩甲骨の MMT を正確に実施する.</p>	<p>「肩甲骨の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①肩甲骨の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p> <p>②肩甲骨 MMT の段階付けを説明できる.</p> <p>③肩甲骨の各運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>④肩甲骨 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる.</p> <p>⑤評価における注意点を説明, 実践できる.</p>	熱尾 有加
11	<p>「上肢の MMT (肘関節, 前腕, 手関節)」</p> <p>一般目標</p> <p>肘関節, 前腕, 手関節の MMT を正確に実施する.</p>	<p>「肘関節, 前腕, 手関節の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①肘関節, 前腕, 手関節の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p> <p>②肘関節, 前腕, 手関節 MMT の段階付けを説明できる.</p> <p>③肘関節, 前腕, 手関節の各運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>④肘関節, 前腕, 手関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる.</p> <p>⑤評価における注意点を説明, 実践できる.</p>	熱尾 有加
12	<p>「上肢の MMT (母指, 手指)」</p> <p>一般目標</p> <p>母指, 手指の MMT を正確に実施する.</p>	<p>「母指, 手指の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①母指, 手指の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p> <p>②母指, 手指 MMT の段階付けを説明できる.</p>	熱尾 有加

		<p>③母指, 手指の各運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>④母指, 手指 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる.</p> <p>① 評価における注意点を説明, 実践できる.</p>	
13	<p>「上肢の MMT (母指, 手指)」</p> <p>一般目標</p> <p>母指, 手指の MMT を正確に実施する.</p>	<p>「母指, 手指の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①母指, 手指の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p> <p>②母指, 手指 MMT の段階付けを説明できる.</p> <p>③母指, 手指の各運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>④母指, 手指 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる.</p> <p>⑤評価における注意点を説明, 実践できる.</p>	熱尾 有加
14	<p>「上肢の MMT まとめ①」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT の評価肢位と代償動作についてまとめ, 臨床現場でスムーズに実践できるよう準備をする.</p>	<p>「上肢の MMT の評価肢位と代償動作についてのまとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①上肢の MMT を肢位ごとに表にまとめることができる.</p> <p>②上肢の MMT を肢位ごとに評価することができる.</p> <p>③上肢の MMT の代償動作について説明できる.</p>	熱尾 有加
15	<p>「上肢の MMT 総合演習①」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT を正確に評価し, 疑問点を解消する.</p>	<p>「上肢の MMT まとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる.</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明, 実践できる.</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる.</p>	熱尾 有加
16	<p>「上肢の MMT 総合演習②」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT を正確に評価し, 疑問点を解消する.</p>	<p>「上肢の MMT まとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる.</p>	熱尾 有加

		<p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	
17	<p>「上肢の MMT 総合演習③」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT を正確に評価する。</p>	<p>「上肢の MMT まとめチェック」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	熱尾 有加
18	<p>「上肢の MMT 総合演習④」</p> <p>一般目標</p> <p>上肢に対する MMT を正確に評価する。</p>	<p>「上肢の MMT まとめチェック」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	熱尾 有加
19	<p>「下肢の MMT (股関節)」</p> <p>一般目標</p> <p>股関節の MMT を正確に実施する。</p>	<p>「股関節の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①股関節の各運動方向における主動作筋の名称，起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②股関節 MMT の段階付けを説明できる。</p> <p>③股関節の各運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>④股関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。</p> <p>⑤評価における注意点を説明，実践できる。</p>	熱尾 有加
20	<p>「下肢の MMT (股関節)」</p> <p>一般目標</p>	<p>「股関節の MMT」</p> <p>到達目標</p>	熱尾 有加

	股関節の MMT を正確に実施する。	①股関節の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる. ②股関節 MMT の段階付けを説明できる. ③股関節の各運動方向における主動作筋の触診ができる. ④股関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる. ⑤評価における注意点を説明, 実践できる.	
21	「下肢の MMT (膝関節, 足関節)」 一般目標 膝関節, 足関節の MMT を正確に実施する。	「膝関節, 足関節の MMT」 到達目標 ①膝関節, 足関節の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる. ②膝関節, 足関節 MMT の段階付けを説明できる. ③膝関節, 足関節の各運動方向における主動作筋の触診ができる. ④膝関節, 足関節 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる. ⑤評価における注意点を説明, 実践できる.	熱尾 有加
22	「下肢の MMT (足関節, 足趾)」 一般目標 足関節, 足趾の MMT を正確に実施する。	「足関節, 足趾の MMT」 到達目標 ①足関節, 足趾の各運動方向における主動作筋の名称, 起始, 停止, 神経支配, 髄節レベルを説明できる. ②足関節, 足趾 MMT の段階付けを説明できる. ③足関節, 足趾の各運動方向における主動作筋の触診ができる. ④足関節, 足趾 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる. ⑤評価における注意点を説明, 実践できる.	熱尾 有加
23	「下肢の MMT まとめ」 一般目標 下肢に対する MMT の評価肢位と代償動作についてまとめ, 臨床現場でスムーズに実践できるよう準備をする。	「下肢の MMT の評価肢位と代償動作について のまとめ」 到達目標 ①下肢の MMT を肢位ごとに表にまとめることができる. ②下肢の MMT を肢位ごとに評価することができる. ③下肢の MMT の代償動作について説明できる.	熱尾 有加

24	<p>「頸部，体幹の MMT」</p> <p>一般目標</p> <p>頸部，体幹の MMT を正確に実施する。</p>	<p>「頸部，体幹の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①頸部，体幹の各運動方向における主動作筋の名称，起始，停止，神経支配，髓節レベルを説明できる。</p> <p>②頸部，体幹 MMT の段階付けを説明できる。</p> <p>③頸部，体幹の各運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>④頸部，体幹 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。</p> <p>⑤評価における注意点を説明，実践できる。</p>	熱尾 有加
25	<p>「頸部，体幹の MMT」</p> <p>一般目標</p> <p>頸部，体幹の MMT を正確に実施する。</p>	<p>「頸部，体幹の MMT」</p> <p>到達目標</p> <p>①頸部，体幹の各運動方向における主動作筋の名称，起始，停止，神経支配，髓節レベルを説明できる。</p> <p>②頸部，体幹 MMT の段階付けを説明できる。</p> <p>③頸部，体幹の各運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>④頸部，体幹 MMT の段階ごとの測定方法が実践できる。</p> <p>⑤評価における注意点を説明，実践できる。</p>	熱尾 有加
26	<p>「顔面の MMT，頸部，体幹 MMT まとめ」</p> <p>一般目標</p> <p>①顔面筋の MMT に必要な知識を得る。</p> <p>②頸部，体幹に対する MMT の評価肢位と代償動作についてまとめ，臨床現場でスムーズに実践できるよう準備をする。</p>	<p>「顔面の MMT，頸部，体幹の MMT の評価肢位と代償動作についてのまとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①顔面表情筋の名称を説明できる。</p> <p>②咀嚼筋の名称を説明できる。</p> <p>③顔面 MMT の段階付けを説明できる。</p> <p>④頸部，体幹の MMT を肢位ごとに表にまとめることができる。</p> <p>⑤頸部，体幹の MMT を肢位ごとに評価することができる。</p> <p>⑥頸部，体幹の MMT の代償動作について説明できる。</p>	熱尾 有加
27	<p>「下肢，体幹の MMT 総合演習 ①」</p> <p>一般目標</p> <p>下肢，体幹に対する MMT を正確に評価し，疑問点を解消する。</p>	<p>「下肢の MMT まとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髓節レベルを説明できる。</p>	熱尾 有加

		<p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	
28	<p>「下肢，体幹の MMT 総合演習 ②」</p> <p>一般目標 下肢，体幹に対する MMT を正確に評価し，疑問点を解消する。</p>	<p>「下肢の MMT まとめ」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	熱尾 有加
29	<p>「下肢，体幹の MMT 総合演習 ③」</p> <p>一般目標 下肢，体幹に対する MMT を正確に評価する。</p>	<p>「下肢の MMT まとめチェック」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	熱尾 有加
30	<p>「下肢，体幹の MMT 総合演習 ④」</p> <p>一般目標 下肢，体幹に対する MMT を正確に評価する。</p>	<p>「下肢の MMT まとめチェック」</p> <p>到達目標</p> <p>①各関節運動方向における主動作筋の起始，停止，神経支配，髄節レベルを説明できる。</p> <p>②各関節運動方向における主動作筋の触診ができる。</p> <p>③各関節運動方向における MMT の段階付けを説明，実践できる。</p> <p>④各関節運動方向における MMT の代償動作を説明できる。</p>	熱尾 有加
成績評価方法	<p>画像読影…筆記試験 20 点</p> <p>総論・上肢 MMT…40 点（実技・筆記試験）</p> <p>体幹・下肢 MMT…40 点（実技・筆記試験）</p>		

準備学習/事後学習	MMT においては、1 年次で受講した運動学の知識（筋の起始、停止、神経支配、髄節レベル）と体表解剖学の知識と技術（触診）を予習しておくことでスムーズに受講できる。また、MMT では実技を中心に行うため、T シャツ、短パンなど動きやすい服装で受講すること。画像の講義においては、事前に解剖学の知識（骨、関節、脳、肺を中心に）を復習しておくこと。
関連科目	体表解剖演習
その他（履修者へのアドバイス等）	学生の習熟度、実習室の使用状況などにより、学習内容や順序を変更することがあります。

学科・年次	理学療法科 2 年次	開講期間	通年
科目名	理学療法評価演習Ⅲ		
担当者	小出悠介		
単位数（時間数）	2 単位（60 時間）	履修方法	講義・演習形式
教科書・参考書	理学療法評価法第三版 神陵文庫 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂		

授業概要
理学療法を実施する上で重要な理学療法評価法について検査測定や考察について学ぶことである。本講義は教科書上の各測定の定義を確認し、実務経験のある教員がデモンストレーションを行う。それについて、注意点や自己で行ったものとの差を確認する
授業の目的（意義）
本講義の目的は、治療に至る為の知識や技術、評価方法を実践的に理解し、教科書を見ることなく適切に実施できるようになることである。また、講義の後半ではケーススタディを実施し各疾患に対しての評価項目やその臨床的意義についても理解し、説明できるようになることである。
関連する学科の DP
①理学療法士として必要な基礎知識を修得している ②医学知識を修得、論理的思考に基づいた理学療法（評価・治療）が実践できる ④自己研鑽に努め、得た知識や経験を適切に共有することができる ⑤臨床現場で求められる基礎的実践能力を備えている

⑥自律心を有している

1. 自己研鑽を継続できる
2. 自主的に行動が起こせる
3. 自信をもって業務に臨める
4. 自己マネジメントすることで課題を明確にできる

⑧協調性を有している

1. 他者と協働できる
2. 他者を敬い、謙虚な態度で接することができる
3. 自己解決できない時、周囲に頼ることができる

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「形態測定① (上肢)」 上肢長と上腕周径を適切な時間内に正確に測定でき、数値の差について考察ができる。	「上肢長・上肢周径の測定」 ① 計測に関するランドマークを正確に触診できるようになる。 ② 上肢長・上肢周径についての各定義を述べることができる。 ③ 実際にメジャーを使用し上肢長・上腕周径を計測できるようになる。 ④ 測定を行う上での注意点を自己であげることができる。 ⑤ 実際の測定結果について考察ができるようになる。	小出 悠介
2	前期	「形態測定② (下肢)」 下肢長と下肢周径を適切な時間内に正確に測定でき、数値の差について考察ができる。	「上肢長・上肢周径の測定」 ① 計測に関するランドマークを正確に触診できるようになる。 ② 下肢長・下肢周径についての各定義を述べることができる。 ③ 実際にメジャーを使用し下肢長・下肢周径を計測できるようになる。 ④ 測定を行う上での注意点を自己であげることができる。 ⑤ 実際の測定結果について考察ができるようになる。	小出 悠介
3	前期	「深部腱反射」 上下肢の深部腱反射を適切な時間内に正確に実施でき、結果について考察ができる。	「深部腱反射の検査を実施」 ① 深部腱反射のメカニズムについて理解し、説明できるようになる。 ② 深部腱反射の各検査について実施場所や反射弓を述べることができる。	小出 悠介

			<ul style="list-style-type: none"> ③ 実際に打腱器を使用し, 的確に実施することができる. ④ 結果を記載することができる. ⑤ 亢進・消失といった結果を判定し, さらにその臨床上の意味合いを述べることができる. 	
4	前期	<p>「病的反射」</p> <p>上下肢の病的反射を適切な時間内に正確に実施でき, 結果について考察ができる.</p>	<p>「病的反射の検査を実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 病的反射の臨床的意義について理解し, 説明できるようになる. ② 病的反射の各検査について実施場所や実施方法を述べるができる. ③ 実際に病的反射を的確に実施することができる. ④ 結果を記載することができる. ⑤ 陽性・陰性といった結果を判定し, さらにその臨床上の意味合いを述べるができる. 	小出 悠介
5	前期	<p>「Brunnstrom test 上肢・手指」</p> <p>上肢と手指の Brunnstrom test を適切に実施でき, stage 判定がスムーズにできるようになる.</p>	<p>「上肢と手指の Brunnstrom test の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 片麻痺の上肢・手指の運動障害の特徴（連合反応・共同運動）を理解し, 各運動パターンについて説明できる. ② 回復段階について各 Stage の特徴を理解し, 述べることができる. ③ 上肢と手指の Brunnstrom test の定義を憶えて自分で実践できる. ④ 被験者役を行うことができる. ⑤ 被験者を使って Brunnstrom test を測定できる. 	小出 悠介
6	前期	<p>「Brunnstrom test 下肢」</p> <p>下肢の Brunnstrom test を適切に実施でき, stage 判定がスムーズにできるようになる.</p>	<p>「下肢の Brunnstrom test の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 片麻痺の下肢の運動障害の特徴（連合反応・共同運動）を理解し, 各運動パターンについて説明できる. ② 回復段階について各 Stage の特徴を理解し, 述べることができる. ③ 下肢の Brunnstrom test の定義を憶えて自分で実践できる. ④ 被験者役を行うことができる. ⑤ 被験者を使って Brunnstrom test を測定できる. 	小出 悠介

7	前期	<p>「感覚検査①触覚・痛覚」</p> <p>触覚および痛覚検査を適切な時間内に正確に実施し、結果を記載できる。さらにその結果について考察ができる。</p>	<p>「触覚・痛覚検査の実施」</p> <p>① 触覚・痛覚の伝導路を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 触覚・痛覚検査の留意点について理解し、説明できるようになる。</p> <p>③ 触覚・痛覚検査の実施方法について理解し、説明できるようになる。</p> <p>④ デルマトームについて説明ができ、検査を行う際の臨床的意義が説明できる。</p> <p>⑤ 触覚・痛覚検査を的確に実施できるようになる。</p> <p>⑥ 結果を記載できるようになる。</p>	小出 悠介
8	前期	<p>「感覚検査②位置覚・運動覚・振動覚」</p> <p>深部感覚の検査を適切な時間内に正確に実施し、結果を記載できる。さらにその結果について考察ができる。</p>	<p>「位置覚・運動覚・振動覚の実施」</p> <p>① 位置覚・運動覚・振動覚の伝導路を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 位置覚・運動覚・振動覚検査の留意点について理解し、説明できるようになる。</p> <p>③ 位置覚・運動覚・振動覚検査の実施方法について理解し、説明できるようになる。</p> <p>④ 位置覚・運動覚・振動覚検査を的確に実施できるようになる。</p> <p>⑤ 結果を記載できるようになる。</p>	小出 悠介
9	前期	<p>「協調性検査 上肢」</p> <p>上肢の協調性検査を適切な時間内に正確に実施し、結果について考察ができる。</p>	<p>「協調性検査 上肢の実施」</p> <p>① 失調症の定義を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 失調症の分類ができるようになる。</p> <p>③ 協調性検査の留意点について理解し、説明できるようになる。</p> <p>④ 協調性検査を的確に実施できるようになる。</p> <p>⑤ 協調性検査で認められる徴候について理解し、説明できるようになる。</p>	小出 悠介
10	前期	<p>「協調性検査 下肢」</p> <p>下肢の協調性検査を適切な時間内に正確に実施でき、結果について考察ができる。</p>	<p>「協調性検査 下肢の実施」</p> <p>① 失調症の定義を理解し、説明できるようになる。</p> <p>② 失調症の分類ができるようになる。</p>	小出 悠介

			<ul style="list-style-type: none"> ③ 協調性検査の留意点について理解し、説明できるようになる。 ④ 協調性検査を的確に実施できるようになる。 ⑤ 協調性検査で認められる徴候について理解し、説明できるようになる。 	
11	前期	<p>「筋緊張検査 上肢・下肢」</p> <p>上肢・下肢の筋緊張検査を適切な時間内に正確に実施し、結果を記載できる。さらにその結果について考察できる。</p>	<p>「筋緊張検査 上肢・下肢の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 筋緊張の異常の種類について理解し、説明できるようになる。 ② 視診、触診にて筋緊張の状態を把握できるようになる。 ③ 被動性検査について理解し、説明できる。さらに的確に実施できるようになる。 ④ modified Ashworth scale について理解し、結果を記載できるようになる。 ⑤ 懸振性検査について理解し、的確に実施できるようになる。 	小出 悠介
12	前期	<p>「バランス検査」</p> <p>静的・動的バランス検査を適切な時間内に正確に実施し、結果を記載できる。さらにその結果について考察できる。</p>	<p>「バランス検査の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 静的バランス検査である立ち直り反応、保護伸展反応について理解し、説明できるようになる。さらに的確に実施できるようになる。 ② 動的バランス検査である TUG・ファンクショナルリーチテストについて理解し、説明できるようになる。さらに的確に実施できるようになる。 ③ 結果を記載できるようになる。 	小出 悠介
13	前期	<p>「整形外科的検査①（頸部・胸郭出口部）」</p> <p>頸部と胸郭出口部に関する整形外科的検査を適切に選択し、スムーズに実施できるようになる。また、それら検査の臨床的意義について理解する。</p>	<p>「頸部・胸郭出口部の整形外科的検査の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 頸部・胸郭出口部の整形外科的検査の実施方法について理解し、述べることができる。 ② 各検査の陽性徴候を述べることができる。 ③ 各検査の臨床的意義を理解し、説明することができる。 ④ 各検査について教科書を見ることなく、的確に実施することができる。 	小出 悠介

			⑤ 症例の症状により，検査を使い分けられるようになる。	
14	前期	<p>「整形外科的検査②（肩関節部・上肢）」</p> <p>肩関節部と上肢に関する整形外科的検査を適切に選択し，スムーズに実施できるようになる。また，それら検査の臨床的意義について理解する。</p>	<p>「肩関節部・上肢部の整形外科的検査の実施」</p> <p>① 肩関節部・上肢部の整形外科的検査の実施方法について理解し，述べることができる。</p> <p>② 各検査の陽性徴候を述べることができる。</p> <p>③ 各検査の臨床的意義を理解し，説明することができる。</p> <p>④ 各検査について教科書を見ることなく，的確に実施することができる。</p> <p>⑤ 症例の症状により，検査を使い分けられるようになる。</p>	小出 悠介
15	前期	<p>「整形外科的検査③（腰椎部・股関節部）」</p> <p>腰椎部と股関節部に関する整形外科的検査を適切に選択し，スムーズに実施できるようになる。また，それら検査の臨床的意義について理解する。</p>	<p>「腰椎部・股関節部の整形外科的検査の実施」</p> <p>① 腰椎部・股関節部の整形外科的検査の実施方法について理解し，述べることができる。</p> <p>② 各検査の陽性徴候を述べることができる。</p> <p>③ 各検査の臨床的意義を理解し，説明することができる。</p> <p>④ 各検査について教科書を見ることなく，的確に実施することができる。</p> <p>⑤ 症例の症状により，検査を使い分けられるようになる。</p>	小出 悠介
16	前期	<p>「整形外科的検査④（膝関節部・足関節部）」</p> <p>膝関節部と足関節部に関する整形外科的検査を適切に選択し，スムーズに実施できるようになる。また，それら検査の臨床的意義について理解する。</p>	<p>「膝関節部・足関節部の整形外科的検査の実施」</p> <p>① 腰椎部・股関節部の整形外科的検査の実施方法について理解し，述べることができる。</p> <p>② 各検査の陽性徴候を述べることができる。</p> <p>③ 各検査の臨床的意義を理解し，説明することができる。</p> <p>④ 各検査について教科書を見ることなく，的確に実施することができる。</p>	小出 悠介

			⑤ 症例の症状により，検査を使い分けられるようになる。	
17	前期	「脳神経外科的検査①（第Ⅰ～Ⅵ脳神経検査）」 第Ⅰ脳神経～第Ⅵ脳神経までの検査をスムーズに実施し，結果を判別できるようになる。	「第Ⅰ～Ⅵ脳神経検査の実施」 ① 第Ⅰ脳神経～第Ⅵ脳神経まで名称を述べることができる。 ② 各脳神経について機能学的分類を理解し述べることができる。 ③ 各脳神経の神経核の場所が言える。 ④ 各脳神経についての検査を理解し，説明できるようになる。 ⑤ 実際に検査項目を実施することができる。	小出 悠介
18	前期	「脳神経外科的検査②（第Ⅶ～Ⅻ脳神経検査）」 第Ⅶ脳神経～第Ⅻ脳神経までの検査をスムーズに実施し，結果を判別できるようになる。	「第Ⅶ～Ⅻ脳神経検査の実施」 ① 第Ⅶ脳神経～第Ⅻ脳神経まで名称を述べることができる。 ② 各脳神経について機能学的分類を理解し述べることができる。 ③ 各脳神経の神経核の場所が言える。 ④ 各脳神経についての検査を理解し，説明できるようになる。 ⑤ 実際に検査項目を実施することができる。	小出 悠介
19	前期	「まとめ①」 これまで実施してきた（第1回～9回）検査項目についてのまとめを行う。また，実際に行ったうえで生じた疑問点を解消する。	「第1回～10回までの検査項目の確認」 ① 形態測定検査について，検査名称を聞いただけでその検査が実際に実施できる。 ② 深部腱反射・病的反射について，検査名称を聞いただけでその検査が実際に実施できる。 ③ 教員が行う模擬患者に対して Brunnstrom test が実際に実施でき stage 判別ができる。 ④ 協調性検査について，検査名称を聞いただけでその検査が実際に実施できる。	小出 悠介
20	前期	「まとめ②」 これまで実施してきた検査項目についてのまとめを行う。また，	「第11回～18回までの検査項目の確認」 ① 筋緊張の検査について，検査名称を聞いただけでその検査が実際に実施できる。	小出 悠介

		実際に行っただけで生じた疑問点を解消する。	② 整形外科的検査（頸部～足部）について、検査名称を聞いてだけでその検査が実際に実施できる。 ③ 脳神経検査について、検査名称を聞いてだけでその検査が実際に実施できる。	
21	前期	「ケーススタディ（大腿骨頸部骨折①）」 大腿骨頸部患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。大腿骨頸部骨折で考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。	「大腿骨頸部骨折について調べ、学ぶ」 ① 大腿骨頸部骨折について調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べることができる。 ③ 大腿骨頸部骨折の障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。	小出 悠介
22	前期	「ケーススタディ（大腿骨頸部骨折②）」 大腿骨頸部患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。大腿骨頸部骨折で考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。	「大腿骨頸部骨折についての検査測定項目を実施する」 ① 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ② 一連の検査測定を短時間で実施できる ③ 被験者を出来るようになる。 ④ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に脱臼肢位について注意が出来るようになる。	小出 悠介
23	前期	「ケーススタディ（脳血管障害①）」 脳血管障害を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。脳血管障害で考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。	「脳血管障害について調べ、学ぶ」 ① 脳血管障害について調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べることができる。 ③ 脳血管障害の障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。	小出 悠介
24	前期	「ケーススタディ（脳血管障害②）」 脳血管障害を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施す	「脳血管障害についての検査測定項目を実施する」	小出 悠介

		る。脳血管障害で考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ① 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ② 一連の検査測定を短時間で実施できる ③ 被験者を出来るようになる。 ④ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に移乗動作介助や麻痺側の管理に注意出来るようになる。 	
25	前期	「ケーススタディ（小脳出血①）」 小脳出血患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。小脳出血で考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。	<p>「小脳出血について調べ、学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小脳出血について調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べることができる。 ③ 小脳出血の障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。 	小出 悠介
26	前期	「ケーススタディ（小脳出血②）」 小脳出血患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。小脳出血で考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。	<p>「小脳出血についての検査測定項目を実施する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ② 一連の検査測定を短時間で実施できる ③ 被験者を出来るようになる。 ④ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に移乗動作介助に注意出来るようになる。 	小出 悠介
27	前期	「ケーススタディ（腰椎圧迫骨折）」 腰椎圧迫骨折患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。腰椎圧迫骨折で考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。腰椎圧迫骨折で考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。	<p>「腰椎圧迫骨折について調べ、学び、必要な検査測定項目を実施する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 腰椎圧迫骨折について調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べることができる。 ③ 腰椎圧迫骨折の障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。 	小出 悠介

			<ul style="list-style-type: none"> ④ 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ⑤ 一連の検査測定を短時間で実施できる ⑥ 被験者を出来るようになる。 ⑦ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に禁忌肢位に注意する。 	
28	前期	<p>「ケーススタディ（腰椎椎間板ヘルニア）」</p> <p>腰椎椎間板ヘルニア患者を題材にし、グループ単位でケーススタディを実施する。腰椎椎間板ヘルニアで考えられる障害やそれに伴う理学療法評価項目をあげることができるようになる。腰椎椎間板ヘルニアで考えられる評価項目をスムーズに実施できるようになる。</p>	<p>「腰椎椎間板ヘルニアについて調べ、学び、必要な検査測定項目を実施する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 腰椎椎間板ヘルニアについて調べ、疾患についての概要を理解する。 ② 調べたことを基に疾患に併発する機能障害や活動制限を述べることができる。 ③ 腰椎椎間板ヘルニアの障害像を把握するための検査測定項目を過不足なくあげることができる。 ④ 列挙した検査測定項目について、教科書を見ることなくスムーズに実施できる。 ⑤ 一連の検査測定を短時間で実施できる ⑥ 被験者を出来るようになる。 ⑦ リスク管理を行いながら、検査を行うことができる。特に禁忌肢位や痛みに注意しながら検査を行うことができるようになる。 	小出 悠介
29	前期	<p>「ケーススタディ（まとめ①）」</p> <p>第21回～28回までのケーススタディのまとめを行う。各疾患の模擬患者を想定し、20～30程度の時間のなかで必要な評価を適切に選択し実施できるようになる。</p>	<p>「実際の理学療法介入場面を想定し、模擬患者に対して、問診や検査測定を実施する」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各疾患についてボトムアップ形式で必要な検査測定項目を述べることができる。 ② 20～30分の時間の中で、問診を含めた一連の検査項目を実施できるようになる。 ③ 検査結果を的確に記載できるようになる。 	小出 悠介

			④ 車椅子操作や移乗動作の際に模擬患者に合わせたリスク管理を行うことができる。	
30	前期	「ケーススタディ（まとめ②）」 第21回～28回までのケーススタディのまとめを行う。各疾患の模擬患者を想定し、20～30程度の時間のなかで必要な評価を適切に選択し実施できるようになる。	「実際の理学療法介入場面を想定し、模擬患者に対して、問診や検査測定を実施する」 ① 各疾患についてボトムアップ形式で必要な検査測定項目を述べることができる。 ② 20～30分の時間の中で、問診を含めた一連の検査項目を実施できるようになる。 ③ 検査結果を的確に記載できるようになる。 ④ 車椅子操作や移乗動作の際に模擬患者に合わせたリスク管理を行うことができる。	小出 悠介
成績評価方法	筆記試験（40%） 実技テスト（60%） 60点以上を合格とする。			
準備学習/事後学習	一年次に行っている理学療法評価学Ⅰの内容をより実践的に行います。その為、理学療法評価学Ⅰの復習をしっかりとしてから授業に臨んでください。また、実技は繰り返すことで定着します。定期的な復習に心がけてください。			
関連科目	理学療法評価学→理学療法評価演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ→実習セミナー			
その他（履修者へのアドバイス等）	上記のように実技を中心に行います。繰り返し実技練習をしていきましょう。			

学科・年次	理学療法科 2年次	開講期間	前期
科目名	運動療法学		
担当者	宇治 太孝		
単位数（時間数）	2単位（30時間）	履修方法	講義・グループワーク・実技
教科書・参考書	運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明（編集）文光堂 動作分析 臨床活用講座 メジカルビュー社		

授業概要
<p>運動療法学では、解剖学や生理学、運動学といった基礎医学や臨床医学を元に疾患と機能障害を結び付けていく。各種障害に対する運動療法の実験を経験し、評価手法や運動療法理論、運動療法の進め方を理解することが本講義の目的である。さらに、ペーパーペーシェント事例を用いたグループワークで、より理解を深めていく。なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>
授業の目的（意義）
<p>当科目は、解剖学や生理学、運動学といった基礎医学や臨床医学の元に確立されている科目となる。理学療法の中核的治療手技である運動療法の技術全般に関する基礎的知識と技術を学ぶことで、運動を通して機能回復・改善を図れる治療の土台を作る。</p>
関連する学科の DP
<p>①理学療法士として必要な基礎知識を修得している。 ②医学知識を修得し、論理的思考に基づいた理学療法（評価・治療）が実践できる。 ④自己研鑽に努め、得た知識や経験を適切に共有することができる。 ⑤臨床現場で求められる基礎的実践能力を備えている。 ⑥自律心を有している。</p> <p>1. 自己研鑽を継続できる。 2. 自主的に行動が起こせる。 3. 自信をもって業務に臨める。 4. 自己マネジメントすることで課題を明確にできる。</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「運動療法の基礎知識とリスク管理」 一般目標 ①運動療法における基礎知識を理解する。 ②運動療法を実施する上でのリスク管理について学ぶ。	「運動療法の基礎知識とリスク管理」 到達目標 ①運動療法の定義と目的を説明できる。 ②運動療法におけるリスク管理について説明できる。 ③バイタルサインを説明できる。 ④運動療法の中止基準について説明できる。	宇治 太孝

		<p>⑤一次救命措置(BLS)について手順を説明できる.</p> <p>⑦感染管理・予防について説明できる.</p> <p>⑧点滴・カテーテルの管理を説明できる.</p> <p>⑨転倒・転落のリスク管理を説明できる.</p>	
2	<p>「痛みの基礎知識と運動療法」</p> <p>一般目標</p> <p>①痛みのメカニズムについて理解する.</p> <p>②痛みの評価法を理解する.</p> <p>③痛みに対する運動療法を理解する.</p>	<p>「痛みのメカニズムと評価, 運動療法について」</p> <p>到達目標</p> <p>①痛みの定義, メカニズムについて説明できる.</p> <p>②痛みの客観的評価, 身体機能評価, 行動評価, 心理的評価, 包括評価について説明できる.</p> <p>③痛みに対する運動療法の実際として, 肩の痛みと腰の痛みに対する運動療法を実践できる.</p>	宇治 太孝
3	<p>「関節可動域制限に対する運動療法①」</p> <p>一般目標</p> <p>①ROM の制限因子の診かたについて理解する.</p> <p>②ROM 制限因子の違いから診るアプローチ方法を理解する.</p>	<p>「ROM 制限因子による違いから診るアプローチの実際」</p> <p>到達目標</p> <p>①関節可動域制限因子の種類について説明でき, 制限因子の考え方を説明できる.</p> <p>②痛みによる ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>③皮膚の癒着や可動性の低下による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>④関節包の癒着や短縮による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>⑤筋・腱の短縮および筋膜の癒着による ROM 制限に対するアプローチを説明, 実践できる.</p> <p>⑥筋緊張増加による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>⑦関節内運動の障害による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p> <p>⑧腫脹・浮腫による ROM 制限に対するアプローチを説明できる.</p>	宇治 太孝
4	<p>「関節可動域制限に対する運動療法②」</p> <p>一般目標</p> <p>関節内障害による ROM 制限に対するアプローチ方法を理解する.</p>	<p>「関節内障害による ROM 制限に対するアプローチの実際」</p> <p>到達目標</p> <p>①関節モビライゼーションの基礎知識として, 骨運動と関節運動の説明ができる.</p> <p>②ゆるみの肢位 (LPP) としまりの肢位 (CPP) について説明できる.</p>	宇治 太孝

		<p>③関節モビライゼーションの基本手技を実践できる。</p> <p>④関節モビライゼーションを実践し、効果判定ができる。</p>	
5	<p>「筋力低下に対する運動療法①」</p> <p>一般目標</p> <p>①筋力低下の原因について理解する。</p> <p>②筋力増加のメカニズムについて理解する。</p>	<p>「筋力低下の原因と筋力増加のメカニズム」</p> <p>到達目標</p> <p>①神経学的要因による筋力低下を説明できる。</p> <p>②形態学的要因による筋力低下を説明できる。</p> <p>③筋の形態的要因による筋力増加のメカニズムを説明できる。</p> <p>④神経学的要因による筋力増加のメカニズムを説明できる。</p>	宇治 太孝
6	<p>「筋力低下に対する運動療法②」</p> <p>一般目標</p> <p>①筋力評価について理解する。</p> <p>②筋力低下に対する運動療法について理解する。</p>	<p>「筋力評価と運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①筋力評価について説明できる。</p> <p>②過負荷の原則と特異性の原則を説明できる。</p> <p>③運動の三大条件を説明できる。</p> <p>④OOCK と CKC との違いを説明できる。</p> <p>⑤各種筋力トレーニングにおける筋活動について説明できる。</p>	宇治 太孝
7	<p>「持久力低下に対する運動療法」</p> <p>一般目標</p> <p>①持久力評価について理解する。</p> <p>②持久力低下に対する運動療法について理解する。</p>	<p>「持久力評価と運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①持久力の定義と分類について説明できる。</p> <p>②全身持久力の評価として、Fick の原理、運動負荷試験、CPX、AT、6 分間歩行、ボルグスケール、METs について説明できる。</p> <p>③全身持久力トレーニングの至適運動強度を説明できる。</p> <p>④全身持久力トレーニングの効果について説明できる。</p> <p>⑤全身持久力低下に対する運動療法を説明できる。</p>	宇治 太孝
8	<p>「ケーススタディ①」</p> <p>一般目標</p> <p>①ペーパーペーシェント事例を用いたグループワークを行う。</p>	<p>「ケーススタディ」</p> <p>到達目標</p> <p>①症例の評価結果から関節可動域制限因子を説明できる。</p> <p>②症例の評価結果から運動負荷量を決めることができる。</p>	宇治 太孝

	<p>②関節可動域制限因子から考えられる必要なアプローチに対する理解を深める.</p> <p>③運動負荷量について理解を深める.</p>		
9	<p>「姿勢障害に対する運動療法」</p> <p>一般目標</p> <p>①アライメント評価について理解する.</p> <p>②姿勢障害に対する運動療法を理解する.</p>	<p>「アライメント評価と運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①立位姿勢における身体各部位の関連性を説明できる.</p> <p>②姿勢評価を説明, 実践できる.</p> <p>③姿勢障害に対する運動療法を説明, 実践できる.</p>	宇治 太孝
10	<p>「正常歩行」</p> <p>一般目標</p> <p>正常歩行について理解する.</p>	<p>「正常歩行について」</p> <p>到達目標</p> <p>①正常歩行動作における各関節運動について説明できる.</p> <p>②正常歩行動作における筋活動について説明できる.</p>	宇治 太孝
11	<p>「歩行分析から求める理学療法プログラム立案」</p> <p>一般目標</p> <p>実際の異常歩行動作の動画を見て, 歩行観察し, 分析結果から問題点の抽出とプログラム立案までの過程を理解する.</p>	<p>「歩行動作から診るトップダウンの考え方」</p> <p>到達目標</p> <p>①動画を見て, 歩行動作における逸脱動作を列挙できる.</p> <p>②歩行分析ができる.</p> <p>③歩行分析の結果から問題点の抽出ができる.</p> <p>④歩行分析の結果から得た問題点を通じて理学療法プログラム立案ができる.</p>	宇治 太孝
12	<p>「協調性運動障害に対する運動療法」</p> <p>一般目標</p> <p>①協調性について理解する.</p> <p>②協調性運動障害に対する運動療法の理論を理解する.</p>	<p>「協調性運動障害の運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①運動発現のステップを説明できる.</p> <p>②原因別で協調性運動障害を説明できる.</p> <p>③Functional Reach Test を実践できる.</p> <p>④運動失調の分類を説明できる.</p> <p>⑤運動学習について説明できる.</p>	宇治 太孝
13	<p>「急性期に必要な呼吸管理」</p> <p>一般目標</p> <p>①呼吸と運動の関連性を理解する.</p>	<p>「呼吸評価と運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①運動における呼吸の役割を説明できる.</p> <p>②運動が呼吸に与える影響を説明できる.</p> <p>③呼吸障害に対する評価を説明できる.</p>	宇治 太孝

	<p>②呼吸障害の評価について理解する。</p> <p>③呼吸障害に対する運動療法について理解する。</p>	<p>④動脈血液ガス分析について説明できる。</p> <p>⑤動脈血液ガス分析値によるアシドーシス, アルカローシスの識別ができる。</p> <p>⑥呼吸状態のアセスメントが説明できる。</p> <p>⑦呼吸障害に対するコンディショニングを説明, 実践できる。</p> <p>⑧呼吸障害に対する運動療法を説明できる。</p>	
14	<p>「急性期における大腿骨頸部骨折に対する運動療法」</p> <p>一般目標</p> <p>①大腿骨頸部骨折の病態について理解する。</p> <p>②大腿骨頸部骨折術後のリスク管理を理解する。</p> <p>③大腿骨頸部骨折術後の運動療法の進め方を理解する。</p>	<p>「大腿骨頸部骨折の術後管理と運動療法」</p> <p>到達目標</p> <p>①大腿骨頸部骨折の X 線画像を読み取ることができる。</p> <p>②大腿骨頸部内側骨折と外側骨折の違いを説明することができる。</p> <p>③大腿骨頸部骨折術後の急性期リスク管理について説明できる。</p> <p>④大腿骨頸部骨折術後の急性期治療目標について説明できる。</p> <p>⑤関節可動域訓練のポイントについて説明できる。</p> <p>⑥筋力増強訓練のポイントについて説明できる。</p> <p>⑦大腿骨頸部骨折の予防について説明できる。</p>	宇治 太孝
15	<p>「ケーススタディ②」</p> <p>一般目標</p> <p>①ペーパーペーシェント事例を用いたグループワークを行う。</p> <p>②考えられる評価項目や治療プログラム立案を行える。</p> <p>③退院時の患者指導について理解する。</p>	<p>「ケーススタディ」</p> <p>到達目標</p> <p>①症例の全体像を捉えることができる。</p> <p>②症例に対する必要な評価項目を列挙できる。</p> <p>③症例に対する治療プログラムを列挙できる。</p> <p>④退院時の患者指導を実践する。</p>	宇治 太孝
成績評価方法	科目試験 (100 点)		
準備学習/事後学習	講義, グループワーク, 実技など様々な授業を展開します。 実技の際は, 動きやすい服装で受講してください。		
関連科目	解剖学・生理学・運動学		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	理学療法学科・2学年
科目名	脳血管障害理学療法演習
担当者	青木 浩代
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	資料・パワーポイント
教科書・参考書	病気がみえる(メディックメディア)・脳卒中(南江堂)

授業概要と目的	
<p>脳血管障害の病態を勉強し、病態に応じた各病期における専門的な知識・治療技術を習得する。 なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	
授業の目的（意義）	
<p>1 年次解剖で学習した知識を臨床への応用へ繋げていく。</p>	
関連する学科の DP	
<p>①医学知識を修得、論理的思考に基づいた理学療法（評価・治療）が実践できる。 ②現場で適切な対人関係を築き、患者さんや利用者さんなど他者の身体に触れる専門職としての倫理観を有している。 ③臨床現場で求められる基礎的実践能力を備えている。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「脳血管障害の分類」 一般目標：脳血管障害の分類を知る	「脳血管障害の分類」 到達目標：脳血管障害の分類を理解するために必要な解剖学の知識を復習する。	青木 浩代
2	通年	「脳血管障害の分類」 一般目標：脳血管障害の分類を知る	「脳血管障害の分類」 到達目標：脳血管障害の分類を理解する。	青木 浩代
3	通年	「脳血管障害の病態」 一般目標：脳血管障害の病態を理解する	「脳血管障害の病態」 到達目標：脳血管障害の病態を理解し説明できる。	青木 浩代
4	通年	「脳梗塞の特徴」 一般目標：脳梗塞の特徴の理解	「脳の機能解剖」 「脳梗塞の特徴」 到達目標：脳の機能解剖が説明できる。 脳の機能解剖を理解し脳梗塞の特徴が説明できる。	青木 浩代

5	通年	「脳血管障害の理学療法」 一般目標：脳血管障害の治療法と随伴症状の理解.	「一般的な脳血管障害に対する治療法の学習と脳血管障害の随伴症状の説明」 到達目標：症状に対しての治療法と随伴症状を理解する.	青木 浩代
6	通年	「脳血管障害の理学療法」 一般目標：脳の構造・中枢神経系の復習 1.	「随伴症状のメカニズムを脳の構造・中枢神経系の働きから読み解く」 到達目標：脳の構造を覚え,中枢神経系の働きを説明できる.	青木 浩代
7	通年	「脳血管障害の理学療法」 一般目標：脳の構造・中枢神経系の復習 2.	「随伴症状のメカニズムを脳の構造・中枢神経系の働きから読み解く」 到達目標：脳の構造を覚え,中枢神経系の働きを説明できる.	青木 浩代
8	通年	「脳血管障害の理学療法」 一般目標：脳の構造・中枢神経系の復習 3.	「随伴症状のメカニズムを脳の構造・中枢神経系の働きから読み解く」 到達目標：脳の構造を覚え,中枢神経系の働きを説明できる.	青木 浩代
9	通年	「急性期の理学療法」 一般目標：急性期の理学療法の開始時期・リスクの理解.	「理学療法の開始時期・リスク管理を学習する」 到達目標：理学療法が開始できる時期と急性期におけるリスクを説明することができるようになる.	青木 浩代
10	通年	「急性期の理学療法」 一般目標：脳血管障害に必要な評価・治療法について理解できる.	「脳血管障害の急性期に必要な理学療法評価やベッド上で実施できる治療について学ぶ」 到達目標：脳血管障害の急性期に必要な評価項目を挙げることができ、ベッド上での治療法を説明することができる.	青木 浩代
11	通年	「回復期の理学療法」 一般目標：脳血管障害の回復期で起こりうる後遺障害を理解し,障害に対する治療法を理解する.	「脳血管障害回復期で起こりうる後遺障害や問題点を学習し,問題点の抽出方法や後遺障害に対するアプローチ方法を学ぶ」 到達目標 回復期で考えられる問題点・後遺障害等から問題点の抽出方法やアプローチ方法を説明することができる.	青木 浩代
12	通年	「回復期の理学療法」 一般目標：脳血管障害回復期に考えるべき評価・治療法が説明できる.	「脳血管障害回復期の問題点・後遺障害から考えるべき評価の種類と回復期に実施できる治療法を学ぶ」 到達目標	青木 浩代

			回復期に必要な評価と治療法が説明できる.	
13	通年	「生活期の理学療法」 一般目標：生活期で起こりうる後遺障害や生活支援体制を覚える.	「生活期に起こりうる後遺障害や患者の生活支援を学ぶ」 到達目標 生活期で起こりうる後遺障害や生活支援体制を説明できる.	青木 浩代
14	通年	「生活期の理学療法」 一般目標：生活期に考えるべき評価・治療法が説明できる.	「脳血管障害生活期の後遺障害から考えるべき評価の種類と生活期に実施できる治療法を学ぶ」 到達目標 生活期に必要な評価と治療法が説明できる.	青木 浩代
15	通年	「急性期の治療実技」 一般目標：急性期の治療の学習.	「急性期における治療上の注意点に配慮した治療を上肢の関節可動域訓練を中心に行う」 到達目標 授業内で学んだ治療上の注意点を考慮しながらスムーズに治療が実施できる.	青木 浩代
16	通年	「急性期の治療実技」 一般目標：急性期の治療の学習.	「急性期における治療上の注意点に配慮した治療を下肢の関節可動域訓練を中心に行う」 到達目標 授業内で学んだ治療上の注意点を考慮しながらスムーズに治療が実施できる.	青木 浩代
17	通年	「回復期の治療実技」 一般目標：回復期の治療の学習.	「回復期における治療上の注意点に配慮した治療を行う」 到達目標 授業内で学んだ治療上の注意点を考慮しながらスムーズに治療が実施できる.	青木 浩代
18	通年	「生活期の治療実技」 一般目標：生活期の治療の学習.	「生活期における治療上の注意点に配慮した治療を行う」 到達目標 授業内で学んだ治療上の注意点を考慮しながらスムーズに治療が実施できる.	青木 浩代
19	通年	「その他の訓練 1」 一般目標：様々な訓練方法を学ぶ.	「筋力訓練」 到達目標 様々な視点から訓練方法を学び適応に合わせて適切に使い分けができるようになる.	青木 浩代

20	通年	「その他の訓練 2」 一般目標：様々な訓練方法を学ぶ	「筋力訓練」 到達目標 様々な視点から訓練方法を学び適応に合わせて適切に使い分けができるようになる。	青木 浩代
21	通年	「高次脳機能障害」 一般目標：高次脳機能障害とはどのような状態をいうのかを学ぶ。	「代表的な高次脳機能障害を知り脳的部位と症状との関係を学ぶ」 到達目標 脳の部位と症状の関係性が理解できるようになる。	青木 浩代
22	通年	「失語症とは」 一般目標：失語症の病態・評価法を学ぶ。	「失語症の主な症状と病巣部位、検査と評価、支援について学ぶ」 到達目標 失語症の主な症状と病巣を説明することができる。	青木 浩代
23	通年	「失行」 一般目標：失行の概念、評価法を学ぶ。	「失行の症状を学習し失行に対する理解を深める」 到達目標 代表的な失行の症状を説明することができる。	青木 浩代
24	通年	「失認」 一般目標：失認の病態病巣を学ぶ。	「失認」 一般目標：失認の病態病巣を学ぶ。	青木 浩代
25	通年	「知能障害」 一般目標：知能・知能とは何かを知る。	「知能障害とはどのような状態をいうのかを理解し、知能障害の患者に対する支援方法を学ぶ。」 到達目標 知能障害を理解し知能障害に対してアプロ地できるようになる。	青木 浩代
26	通年	「注意障害」 一般目標：注意障害とは何かを学ぶ。	「注意障害の病態・種類、検査・評価、支援について学ぶ」 到達目標 注意障害の病態を理解し適切な検査・評価を選択することができるようになる。	青木 浩代
27	通年	「記憶障害」 一般目標：記憶の分類を知り、記憶障害を学ぶ。	「記憶の種類について学び、検査・評価法を学ぶ」 到達目標 記憶障害の種類を説明することができるようになる。	青木 浩代

28	通年	「遂行機能障害」 一般目標：遂行機能について学び、遂行機能障害の症状を理解する。	「遂行機能障害の症状について学び、検査・評価法を学ぶ」 到達目標 遂行機能障害の病態を理解し説明することができるようになり、検査・評価を実施することができるようになる。	青木 浩代
29	通年	「感情と行動の障害」 一般目標：感情と行動の障害とは何かを学ぶ。	「感情と行動の障害について学び、障害に対するアプローチ方法を理解する。」 到達目標 感情と行動の障害の病態を理解し、説明することができるようになる。	青木 浩代
30	通年	「まとめ」 一般目標：これまでに学んだ疾患の症状と解剖学の知識を結び付けて考えることができ、各期に応じた治療の意味を理解する。	「まとめ」 到達目標：脳の機能解剖から各期の症状に応じた治療を考えることができるようになる。	青木 浩代
成績評価方法		科目試験（100点）		
準備学習など		授業毎の予習と復習		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	運動器障害理学療法演習
担当者	辻 智之・杵山哲平
単位数（時間数）	3単位（90時間）
学習方法	教科書・スライドを使つての講義
教科書・参考書	運動器疾患の理学療法（SHINRYOBUNKO）

授業概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患全般の知識を得る。 ・整形外科医の診断、処方を正確に理解する能力を身に付け、問題点を把握し、どのように理学療法を行っていかかを習得する。 ・なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。 	
授業の目的（意義）	
<ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患は理学療法士が最も多く対応する領域のひとつであり、「どこが悪いのか、なぜ痛いのか、機能障害の原因は何か？」という考え方を体系的に学ぶことが重要である。 ・臨床で使える理学療法思考に育てることが目的である。 	
関連する学科の DP	
<ul style="list-style-type: none"> ・①医学知識を修得、倫理的思考に基づいた理学療法が実践できる。 ・②自己研鑽に努め、得た知識や経験を適切に共有することができる。 ・③臨床現場で求められる基礎的実践能力を備えている。 	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「運動器疾患とは」 ①運動器疾患について理解する。	『「運動器の10年」世界運動の取り組みを理解することができる』 ①運動器疾患の評価と運動療法アプローチの方法を述べることができる。	辻 智之
2	前期	「運動器疾患の理学療法評価」 ①運動器疾患の理学療法評価について理解する。	「運動器疾患の理学療法を理解することができる」 ①疼痛・腫脹・感覚・関節可動域・関節不安定性・筋力・身体姿勢アライメント・動作分析・ADL等の理学療法評価を行うことができる。 ②自他動運動・ストレッチング・筋力トレーニング・モビライゼーション・マイオセラピー・関節解剖学的アプローチ・神経筋	辻 智之

			促通法等の運動療法アプローチを説明できる。	
3	前期	「上肢(肩甲帯)」 ①肩甲帯周囲の疾患について理解する。	「肩関節脱臼・肩鎖関節脱臼・胸鎖関節脱臼」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
4	前期	「上肢(肩関節周囲)」 ①肩関節周囲の疾患について理解する。	「肩関節脱臼・肩鎖関節脱臼・胸鎖関節脱臼」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
5	前期	「上肢(上腕骨)」 ①肩関節周囲の疾患について理解する。	「上腕骨近位端骨折・上腕骨骨幹部骨折・腱板断裂・肩関節周囲炎」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
6	前期	「上肢(神経系)」 ①上肢の神経系疾患について理解する。	「反射性交感神経ジストロフィー・腕神経叢麻痺」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
7	前期	「上肢(肘関節とその周辺①)」 ①肘関節周囲の疾患について理解する。	「肘関節の働きを説明することができる」 「肘関節脱臼・上腕骨顆上骨折・上腕骨外顆骨折」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
8	前期	「上肢(肘関節とその周辺②)」 ①肘関節周囲の疾患について理解する。	「上腕骨内側上顆骨折・肘頭骨折」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之

9	前期	「前腕」 ①前腕部の疾患について理解する。	「骨近位端(橈骨頭)骨折・両側前腕骨骨幹部骨折・肘内障・上腕骨外側上顆炎」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
10	前期	「肘関節部」 ①肘関節疾患について理解する。	「肘関節離断性骨軟骨炎・変形性肘関節症・フォルクマン拘縮」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
11	前期	「手関節とその周辺①」 ①手関節周囲の疾患について理解する。	「コーレス骨折・スミス骨折・バートン骨折」 ①疾患概念、合併症、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
12	前期	「手関節と母指」 ①手関節周囲の疾患について理解する。	「月状骨軟化症・母指 Bennett 骨折・母指 MP 関節尺側側副靭帯断裂・母指 MP 関節背側脱臼」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
13	前期	「手指①」 ①手指疾患について理解する。	「第 1 中手骨骨折・中手骨基部骨折・中手骨骨幹部骨折・中手骨頸部骨折・MP 関節脱臼」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
14	前期	「手指②」 ①手指疾患について理解する。	「基節骨骨折・PIP 関節内骨折・中節骨骨折・PIP 関節脱臼、末節骨骨折・槌指」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之

15	前期	「手指炎症性疾患」 ①手指炎症性疾患について理解する。	「狭窄性腱鞘炎(ばね指)・橈骨茎状突起痛(ドケルバン病)」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
16	前期	「手指腱断裂」 ①手指腱断裂について理解する。	「伸筋腱断裂・屈筋腱断裂」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
17	前期	「線維腫症、手関節・手指の運動器疾患に共通する理学療法」 ①線維腫症、手関節・手指の運動器疾患に共通する理学療法について理解する。	「Dupuytren 拘縮」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。 ③肩甲帯周囲・肩関節・肘関節・前腕・手関節・手指の具体的な過剰筋緊張の減弱および関節可動域確保・改善方法を説明することができる。	辻 智之
18	前期	「頸部捻挫」 ①頸部捻挫について理解する。	「頸部捻挫」 ①疾患概念、症状、病理と病因について述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラムについて説明することができる。	杵山哲平
19	前期	「肋骨骨折」 ①肋骨骨折について理解する。	「肋骨骨折」 ①病態、臨床所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラムを説明することができる。	杵山哲平
20	前期	「鎖骨骨折」 ①鎖骨骨折について理解する。	「鎖骨骨折」 ①病態、臨床症状を述べることができる。 ②理学療法評価、治療、理学療法プログラムを説明することができる。	杵山哲平
21	前期	「骨盤骨折」 ①骨盤骨折について理解する。	「骨盤骨折」 ①分類、合併症を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラムを説明できる。	杵山哲平
22	前期	「頸椎疾患①」 ①頸椎疾患の概要を理解する。	「頸椎椎間板ヘルニア」 ①疾患概念、分類を述べることができる。	杵山哲平

			②症状、他疾患との鑑別を説明することができる。	
23	前期	「頸椎疾患②」 ①頸椎疾患の概要を理解する。	「頸部脊柱管狭窄症・頸部後縦靭帯骨化症」 ①疾患の概念を述べることができる。 ②整形外科的治療の概略、薬物療法、手術療法を述べることができる。 ③理学療法評価、理学療法プログラムを説明することができる。	杵山哲平
24	前期	「頸椎疾患③」 ①頸神経由来の疾患を理解する。	「頸肩腕症候群」 ①病態、理学療法評価を述べるができる。 ②物理療法、装具療法等を説明することができる。	杵山哲平
25	前期	「胸・腰椎部疾患①」 ①胸・腰椎部について理解する。	「脊柱周辺の機能解剖」 ①脊柱支持組織について説明することができる。 ②脊柱起立筋群について説明することができる。	杵山哲平
26	前期	「胸・腰椎部疾患②」 ①腰痛症について理解することができる。	「急性腰痛症、慢性腰痛症」 ①疾患の概念を述べることができる。 ②治療方針、治療内容、クリティカルパスを説明することができる。	杵山哲平
27	前期	「胸・腰椎部疾患③」 ①椎体部疾患について理解することができる。	「腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離症、腰椎分離すべり症、腰椎変性すべり症」 ①病態、症状所見について述べるができる。 ②治療経過を観察することができる。	杵山哲平
28	前期	「腰痛の評価、理学療法」 ①腰痛に対する理解と治療を理解することができる。	「腰痛の評価と理学療法」 ①疼痛、視診、触診、運動診を行うことができる。 ②神経学的検査、筋力検査を行うことができる。 ③急性期、回復期、維持期について説明できる。	杵山哲平
29	前期	「変形」 ①脊柱の変形について理解することができる。	「脊柱側弯症、脊柱後弯、円背」 ①疾患概念、理学療法評価を行うことができる。	杵山哲平

			②治療、運動療法、装具療法を説明することができる。	
30	前期	「脊髄損傷①」 ①脊髄損傷について理解する。	「脊髄損傷」 ①疾患概念、分類、病理を述べることができる。 ②随伴症・合併症、膀胱障害を説明することができる。 ③理学療法評価を説明することができる。	杵山哲平
31	前期	「脊髄損傷②」 ①脊髄損傷の理学療法について理解する。	「脊髄損傷」 ①胸・腰髄損傷の理学療法を説明できる。 ②頸髄損傷の理学療法を説明できる。	杵山哲平
32	前期	「体幹の外傷」 ①体幹の疾患について理解する。	「脊椎損傷」 ①胸椎以下の脊椎損傷の解剖学的特徴を述べることができる。 ②分類と臨床像を説明することができる。 ③理学療法評価、理学療法を説明することができる。	杵山哲平
33	前期	「股関節の解剖・機能」 「股関節周辺①」 ①股関節の基礎を理解する。 ②股関節疾患について理解する。	「股関節の解剖・機能、役割を説明できる」 「大腿骨頸部骨折」 ①疾患概念、受傷要因を述べるができる。 ②骨折分類、術後理学療法、離床期のアプローチを説明できる。 ③大腿骨頸部骨折での理学療法士が心得ておくべき点を説明できる。	辻 智之
34	前期	「股関節周辺②」 ①股関節疾患について理解する。	「変形性股関節症」 ①疾患概念、臨床症状、病期分類を述べることができる。 ②変形性股関節症に用いるスクリーニングテストを実施できる。 ③保存療法に対する理学療法、観血的治療に対する理学療法を説明できる。	辻 智之
35	前期	「股関節周辺③」 ①股関節疾患について理解する。	「大腿骨頭壊死・先天性股関節脱臼」 ①疾患概念、治療内容、治療方針、症状、所見を説明できる。 ②理学療法、術後理学療法、クリティカルパスを説明できる。	辻 智之
36	前期	「股関節周辺④」 ①股関節疾患について理解する。	「ペルテス病・外傷性股関節脱臼・大腿骨骨幹部骨折」	辻 智之

			①疾患概念、治療内容、治療方針、症状、所見を述べることができる。 ②理学療法、術後理学療法、クリティカルパスを説明できる。	
37	前期	「膝関節とその周辺」 ①膝関節の基礎を理解する。 ②膝関節疾患について理解する。	「膝関節の解剖・機能」 ①膝関節周囲の受傷機転、症状を述べることができる。 ②徒手検査、画像診断、整形外科的治療、理学療法評価を説明できる。	辻 智之
38	前期	「変形性膝関節症」 ①変形性膝関節症について理解する。	「変形性膝関節症」 ①疾患概念、症状を述べることができる。 ②検査、整形外科的治療を説明できる。 ③理学療法評価、保存療法、高位脛骨骨切り術。 ④人工膝関節置換術、人工膝単顆置換術、術後深部静脈血栓症について説明できる。	辻 智之
39	前期	「関節リウマチ」 ①関節リウマチについて理解する。	「関節リウマチ」 ①疾患概念、症状を述べることができる。 ②診断基準、検査、分類、疾患・障害の評価、薬物療法を説明できる。 ④関節リウマチの膝関節に対する観血的治療、理学療法を説明できる。	辻 智之
40	前期	「膝半月板の解剖・機能」 「半月板損傷」 ①膝半月の基礎を理解する。 ②半月板損傷について理解する。	「膝半月板」 ①解剖・機能、受傷機転、合併損傷、症状、徒手検査、画像診断、整形外科的治療、理学療法評価を説明できる。 ②半月板損傷の疾患概念、分類、合併症、理学所見、理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
41	前期	「膝靭帯の解剖・機能」 ①膝靭帯の基礎を理解する。	「膝靭帯」 ①解剖・機能、受傷機転、合併損傷、症状を述べることができる。 ②徒手検査、画像診断、整形外科的治療、理学療法評価を説明できる。	辻 智之
42	前期	「膝靭帯損傷」 ①膝靭帯損傷について理解する。	「膝靭帯」 ①解剖・機能、受傷機転、合併損傷、症状、徒手検査、画像診断、整形外科的治療、理学療法評価を説明できる。	辻 智之

			②前十字靭帯損傷・後十字靭帯損傷・内側側副靭帯損傷の疾患概念、分類、理学所見、理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	
43	前期	「膝周辺①」 ①膝周囲の疾患について理解する。	「膝蓋大腿関節障害・膝蓋骨脱臼・亜脱臼・タナ障害・膝離断性骨軟骨炎」 ①疾患概念、理学所見を述べることができる。 ②理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる。	辻 智之
44	前期	「膝周辺②、下腿骨骨折①」 ①膝周囲、下腿骨骨折について理解する。	「オスグッドシュラッター病・膝蓋骨骨折・脛骨骨幹部骨折」 ①疾患概念を述べることができる。 ②分類、合併症、理学所見、理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる」	辻 智之
45	前期	「下腿骨骨折②、下腿疾患」 ①下腿骨骨折、下腿疾患について理解する。	「脛骨プラトー骨折・脛骨天蓋骨折(plafond骨折)・疲労骨折・下腿コンパートメント症候群」 ①疾患概念を述べることができる。 ②分類、理学所見、理学療法評価、理学療法プログラム、整形外科的治療法を説明できる」	辻 智之
成績評価方法	・科目試験(100点)			
準備学習など	・次回の授業に対する予習 ・授業後の復習			
留意事項	特になし			

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	呼吸器障害理学療法学
担当者	岸川典明・阿部司・奥地伸城
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義・実技
教科書・参考書	参考書：ビジュアル実践リハ「呼吸・心臓リハビリテーション」羊土社 フィジカルアセスメント徹底ガイド「呼吸」 中山書店 内部障害理学療法学 「呼吸」中山書店

授業概要と目的
<p>呼吸理学療法は、解剖学や生理学、運動学など、基礎医学や臨床医学が基に確立されている。本講義では、呼吸理学療法の基礎を学び、呼吸のメカニズムを知り、フィジカル・アセスメントや手技を学ぶ。また、呼吸器疾患に対する理学療法評価と治療プログラムの選択から、実践できる力を養うこと。また、気管吸引に関する知識と技術を習得することが本講義の目的である。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 コマ		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「呼吸理学療法の総論・呼吸器系の解剖」 一般目標 ① 呼吸器に関わる解剖や胸郭の運動学を理解する。 ② 呼吸器系の生理学について理解する	「呼吸理学療法の概要、解剖や運動について」 到達目標 ①運動と呼吸・循環反応の関係や呼吸不全、呼吸リハビリテーション、呼吸理学療法の定義を説明できる。 ③ 呼吸器の構造や胸郭運動を説明できる。 ④ 人工呼吸と自発呼吸の違いが理解できる	岸川典明・阿部司
2	後期	「呼吸器系の生理学・呼吸不全の病態」 一般目標 ① 呼吸不全を呈する疾患と病態、それらの分類を理解する。 ② 人工呼吸器の基礎について ③ 胸部 X 線の所見	「呼吸器系の生理学や呼吸器疾患について」 到達目標 ② 肺機能や酸素化、換気などを説明できる。 ⑤ 閉塞性と拘束性肺疾患についての説明ができる。 ⑥ 人工呼吸器モードについて理解する ⑦ 無気肺や肺炎の所見が分かる	岸川典明・阿部司
3	後期	「急性期の呼吸理学療法 1」 一般目標 ① 急性呼吸不全の病態を理解する。 ② 外科手術が生体に与える影響や呼吸理学療法の目的を理解する。	「急性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 呼吸理学療法の目的を説明できる。 ② 急性呼吸不全の病態を説明できる。 ③ 安静の弊害を理解する。	岸川典明・阿部司

4	後期	「急性期の呼吸理学療法 2」 一般目標 ① 排痰手技について。 ② 外科手術が生体に与える影響や呼吸理学療法の目的を理解する。	「急性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 排痰の基本手技を理解する。 ② 外科手術が生体に与える影響について説明ができる。	岸川典明・阿部司
5	後期	「急性期の呼吸理学療法」 一般目標 ① 下側肺障害の病態を理解する。	「急性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 体位呼吸療法について病態出現の機序を理解できる。	岸川典明・阿部司
6	後期	「急性期の呼吸理学療法」 一般目標 ① 急性呼吸不全に対する呼吸介助手技を理解する。	「急性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 他の手技との違いを知る。 ② 呼吸介助手技の効果が理解できる。	岸川典明・阿部司
7	後期	「呼吸理学療法の評価と実技 1」 一般目標 ① フィジカル・アセスメントの内容を理解する。 ② 実際に評価方法を実技で習得する。	「呼吸理学療法のフィジカル・アセスメントについて」 到達目標 ① 問診、視診、触診、打診、聴診について説明ができる。 ② 実際に評価方法の手技ができる。	岸川典明・阿部司
8	後期	「呼吸介助手技の実習」 一般目標 ① 健常者同士で呼吸介助手技の技術を練習する	「呼吸介助手技の実習」 到達目標 ① 換気量変化、吸気、呼気が増加する技術を体験できる	岸川典明・阿部司
9	後期	「気管吸引と理学療法」 一般目標 ① 気管吸引がなぜ必要なのか理解する	「気管吸引と理学療法」 到達目標 ① 気管吸引の合併症が分かる ② 気管挿管、気管切開の構造が理解できる	岸川典明・阿部司
10	後期	「気管吸引の実習 1」 一般目標 ① シミュレーターを用いて気管吸引の手順を習得する	「気管吸引の実習 1」 到達目標 ① 感染管理の重要性が理解できる ② 吸引操作が習得できる	奥地伸城
11	後期	「気管吸引の実習 2」 一般目標 シミュレーターを用いて気管吸引の手順を習得する	「気管吸引の実習 1」 到達目標 ③ 感染管理の重要性が理解できる 吸引操作が習得できる	奥地伸城

12	後期	「慢性期の呼吸理学療法 1」 一般目標 ① 慢性呼吸不全の病態を理解する	「慢性期の呼吸理学療法について」 到達目標 ① 慢性呼吸不全の原因となる疾患を理解する ② 呼吸不全について説明できる	岸川典明・阿部司
13	後期	「慢性期の呼吸理学療法 2」 一般目標 ① 呼吸機能検査を理解する	「慢性期の呼吸理学療法 2」 到達目標 ① スパイロメトリーについて説明できる ② 検査に必要な呼吸器関連の記号について説明できる	岸川典明・阿部司
14	後期	「慢性期の呼吸理学療法 3」 一般目標 ① 慢性呼吸不全に対する理学療法の目的を理解する	「慢性期の呼吸理学療法 3」 到達目標 ① 慢性呼吸不全に対する理学療法評価の目的と実際の方法について理解する	岸川典明・阿部司
15	後期	「慢性期の呼吸理学療法 4」 一般目標 ① 慢性呼吸不全に対する理学療法の方法を理解する	「慢性期の呼吸理学療法 4」 到達目標 ① 運動負荷について説明できる ② 運動中止基準について説明できる ③ 運動の種類と目的について説明できる	岸川典明・阿部司
成績評価方法	科目試験（100%）			
準備学習など	講義形式・実技形式の講義を予定します。実技の際は、動きやすい服装で受講して下さい。講義前に出欠の確認をさせていただきます。			
留意事項	特になし			

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	循環器障害理学療法学
担当者	伊東 由教・大竹 浩史
単位数（時間数）	2単位（30時間）
学習方法	講義・グループワーク
教科書・参考書	病気が見える 循環器 vol.2 第4版 医療情報科学研究所（編）メディックメディア 2017年

授業概要と目的
<p>循環器は解剖学、生理学、心電図、基礎医学の知識が必要である。本講義では、循環器の解剖、心電図、基礎医学、リスク管理を学ぶ。また、循環器疾患患者や合併症として循環器疾患を有する患者に対しての介入方法、リスク管理を学ぶことが本講義の目的である。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「循環器の解剖、心電図」 一般目標 ① 循環器の解剖を理解する。 ② 心電図の基礎を理解する。	「循環器の解剖、心電図」 到達目標 ① 循環器の知識の必要性を理解できる。 ② 循環器の解剖を理解し、体循環、肺循環を説明できる。 ③ 心電図の装着方法を説明できる。 ④ 正常心電図の特徴を説明できる。	伊東 由教
2	後期	「不整脈」 ① 重症不整脈の理解する。 ② 不整脈の危険度を理解できる。 ③ 不整脈が発症した際の対応を理解できる。	「不整脈」 ① 重症不整脈を説明できる。 ② 様々な不整脈を心電図が読み取ることができる。 ③ 不整脈の危険度を理解できる。 ④ 不整脈が発症した際の対応方法を理解できる。	伊東 由教
3	後期	「心疾患」 ① 心疾患の病態、治療を理解できる。 ② 心疾患のリスク管理を理解できる。	「心疾患」 ① 心疾患の病態を説明できる。 ② 心疾患の治療、手術を理解し、説明できる。 ③ 心疾患のリスク管理が説明できる	伊東 由教
4	後期			

5	後期	③ 心疾患の理学療法を理解できる。	④ 心疾患のエコー、採決、胸部レントゲンなどの検査を説明できる。 ⑤ 心疾患の呼吸状態を説明できる。 ⑥ 心疾患の理学療法を説明できる。 ⑦ 理学療法介入動画、写真を提示して、介入イメージをつかむことができる。	伊藤 由教
6	後期	「大動脈疾患、理学療法評価」 ①大動脈疾患の病態、治療を理解できる。	「大動脈疾患」 ①大動脈疾患の病態を説明できる。 ②大動脈疾患の治療、手術を理解し、説明できる。 ③大動脈疾患のリスク管理が説明できる ④大動脈疾患のエコー、採決、胸部レントゲンなどの検査を説明できる。 ⑤大動脈疾患の理学療法を説明できる。 ⑥理学療法介入動画、写真を提示して、イメージをつかむことができる。 ⑦循環器疾患の理学療法評価を理解し、説明できる。	伊東 由教
7	後期	②動脈疾患のリスク管理を理解できる ③大動脈疾患の理学療法を理解できる。 ④循環器疾患の理学療法評価方法を理解できる。		
8	後期	「グループワーク」 ①心疾患患者、大動脈患者の例題を出して、各種検査等から病態を把握して、理学療法プログラム立案を理解できる。	「グループワーク」 ①心疾患患者、大動脈患者の例題を出して、各種検査等から病態を把握して、理学療法プログラム立案を説明できる。	伊東 由教
9	後期	「心臓リハビリテーション概論」 ①心臓リハビリテーションの目的が理解できる。 ②循環器疾患のリスク管理が理解できる。 ③心臓リハビリテーションの実際が理解できる。	「心臓リハビリテーション概論」 ①心臓リハビリテーションの対象・目的・禁忌が理解でき、有効性について説明ができる。 ②リスク層別化分類について理解ができる。 ③急性期、回復期、維持期の心臓リハビリテーションについて理解できる。	大竹 浩史
10	後期	「虚血性心疾患に対する心臓リハビリテーション」 ①虚血性心疾患とは何かを理解できる。 ②虚血性心疾患に対する心臓リハビリテーションについて目的・方法を理解できる。	「虚血性心疾患に対する心臓リハビリテーション」 ①虚血性心疾患の分類・病態・合併症・治療について理解できる。 ②虚血性心疾患に対する心臓リハビリテーションの目的について知り、一般的なりハビリテーションプログラムを理解することができる。	大竹 浩史

11	後期	<p>「心不全に対する心臓リハビリテーション」</p> <p>①心不全とは何かを理解できる。</p> <p>②心不全に対する心臓リハビリテーションについて目的・方法が理解できる。</p>	<p>「心不全に対する心臓リハビリテーション」</p> <p>①心不全の分類・病態・治療について理解できる。</p> <p>②心不全に対する心臓リハビリテーションの目的について知り、一般的なリハビリテーションプログラムについて理解することができる。</p>	大竹 浩史
12	後期	<p>「心不全フレイルに対する心臓リハビリテーション」</p> <p>①フレイルとは何か理解できる。</p> <p>②心不全にフレイルを合併した症例のリハビリテーションについて理解できる。</p>	<p>「心不全とフレイルに対する心臓リハビリテーション」</p> <p>①フレイルやサルコペニア、カヘキシアについて理解できる。</p> <p>②フレイルの病態について理解できる。</p> <p>③フレイルの診断基準について理解ができる。</p> <p>④心不全にフレイルを合併した症例に対する心臓リハビリテーションの目的、実際について理解することができる。</p>	大竹 浩史
13	後期	<p>「循環器疾患に対する運動療法：講義と実習」</p> <p>①循環器疾患に対する運動療法の目的を理解できる。</p> <p>②プログラムを立案し、運動処方をする事ができる。</p>	<p>「循環器疾患に対する運動療法：講義と実習」</p> <p>①循環器疾患に対する運動療法の目的について理解することができる。</p> <p>②カルボーネンの式などを用い、運動プログラムを立案し、運動処方することができる。</p> <p>③有酸素運動を体験し、血圧・脈拍・呼吸数等をモニタリングすることができる。</p> <p>④運動時の生理学的反応について理解することができる。</p>	大竹 浩史
14	後期	<p>「心肺運動負荷試験：CPX から運動処方を考える」</p> <p>①CPX とは何かを理解することができる。</p> <p>②CPX を用いて運動処方について考える事ができる。</p>	<p>「心肺運動負荷試験：CPX から運動処方を考える」</p> <p>①CPX とは何か、適応、目的について理解することができる。</p> <p>②運動生理学を理解し、CPX を用いた運動処方について考える事ができる。</p>	大竹 浩史
15	後期	<p>「循環器疾患のリスク管理：グループワーク、まとめ」</p> <p>①症例からリスク管理を考える。</p> <p>②運動処方を行うことができる。</p>	<p>「循環器疾患のリスク管理：グループワーク、まとめ」</p> <p>①グループワークにて実際の症例から病態を考え、リスク管理の項目をあげる事ができる。</p>	大竹 浩史

	③これまでの知識を用い国家試験問題に挑戦する.	②グループワークにて運動プログラムを作成し、運動処方を行う事ができる. ③これまでの知識を用いて、国家試験問題を解くことができる.	
成績評価方法	科目試験 (100%)		
準備学習など	講義形式、グループワーク形式で講義を展開する予定です。 講義開始時に前回の内容の小テストを実施し、皆様の習熟度をチェックさせていただきます。		
留意事項	特になし		

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	代謝障害理学療法学
担当者	小関 裕二、林 尚宜
単位数 (時間数)	2単位 (30時間)
学習方法	講義・グループワーク
教科書・参考書	配布資料

授業概要と目的	
<p>糖尿病、高脂血症、高血圧、肥満、CKD は互いに合併しやすく、脳血管疾患、心血管疾患の危険因子である。これらは、脳血管障害、整形疾患、呼吸循環疾患など理学療法の主な対象疾患に合併することが多い。本講義では、主に糖尿病・CKD の概要とその重症度のとらえ方、リスク管理の方法などを説明した上で、理学療法的評価法や治療法について講義する。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「代謝総論 1」 ① 膵臓の構造と機能について理解する。 ② 腎臓の構造と機能について理解する。	「基礎知識～膵臓と腎臓～」 ① 膵臓の位置、大きさ、重さについて説明できる。 ② 主膵管、副膵管、総胆管について説明できる	林 尚宜

		③ 基礎代謝とエネルギー代謝について理解する。	③ 外分泌系と内分泌系それぞれの働きについて説明できる ④ 腎臓の位置、大きさ、重さについて説明できる。 ⑤ 腎臓の機能と関係するホルモンについて説明できる。 ⑥ 物質代謝（異化・同化）とエネルギー代謝（解糖・TCA回路）について説明できる。	
2	後期	「代謝総論2」 ① 安静時の代謝応答について理解する ② 身体活動時の代謝応答について理解する ③ 異化と同化について理解する ④ 代謝される物質と消化酵素について理解する	「基礎知識～異化と同化」 ① 基礎代謝量、食事誘発性熱産生、身体活動量について説明できる ② 食事摂取後、異化した物質を同化するまでの一連の流れを説明できる ③ 糖の消化酵素と異化された物質を説明できる ④ 蛋白質の消化酵素と異化された物質を説明できる ⑤ 脂質の消化酵素と異化された物質を説明できる	林 尚宜
3	後期	「生活習慣病」 ① 生活習慣病の全体像について理解する。 ② 痛風について理解する。 ③ 脂質異常症について理解する。	「生活習慣病の病態と治療」 ① メタボリックシンドロームについて説明できる。 ② BMIと生活習慣病の関係、疾病合併率について説明できる。 ③ 動脈硬化とは何か説明できる。 ④ 関連する検査データについて説明できる。 ⑤ 痛風の病態、症状、治療について説明できる。 ⑥ 脂質異常症の病態、症状、治療について説明できる。	林 尚宜
4	後期	「糖尿病の病態」 ① 糖尿病の病態について理解する。 ② 糖尿病のⅠ型、Ⅱ型の違いを理解する ③ 糖尿病の予後や危険因子について理解する。	「糖尿病のしくみ」 ① GLUTについて説明できる。 ② 低血糖・高血糖になるしくみが説明できる。 ③ Ⅰ型の特徴が説明できる ④ Ⅱ型の特徴が説明できる ⑤ インスリン抵抗性、分泌障害について説明できる。	林 尚宜

5	後期	<p>「糖尿病の急性合併症」</p> <p>① 酸塩基平衡について理解する。</p> <p>② 糖尿病急性合併症について理解する。</p>	<p>「酸塩基平衡の崩れ」</p> <p>「糖尿病ケトアシドーシス」</p> <p>「高浸透圧高血糖症候群」</p> <p>① 呼吸性のアシドーシス、アルカローシスについて説明できる。</p> <p>② 代謝性のアシドーシス、アルカローシスについて説明できる。</p> <p>③ 糖尿病ケトアシドーシスについて病態と症状について説明できる。</p> <p>④ 高浸透圧高血糖症候群について病態と症状について説明できる。</p>	林 尚宜
6	後期	<p>「糖尿病慢性合併症」</p> <p>① 糖尿病三大合併症について理解する。</p> <p>② 糖尿病足病変について理解する。</p> <p>③ 足部や足趾にかかるメカニカルストレスについて理解する</p>	<p>「網膜症、腎症、神経障害」</p> <p>「糖尿病足病変の症状、リスク管理、治療」</p> <p>① 糖尿病性網膜症の症状と病態、リスク管理が説明できる。</p> <p>② 糖尿病性腎症の症状と病態、リスク管理が説明できる。</p> <p>③ 糖尿病性末梢神経障害の症状と病態、リスク管理が説明できる。</p> <p>④ 糖尿病足病変の症状と病態、リスク管理が説明できる。</p> <p>⑤ 足趾の変形について説明できる</p> <p>⑥ 足部にかかるメカニカルストレスと関節、筋、アーチの役割について説明できる</p>	林 尚宜
7	後期	<p>「CKD について」</p> <p>① CKD の病態把握ができる。 (保存期・HD・PD・移植)</p>	<p>「CKD について」</p> <p>① CKD の病態について説明ができる。 (保存期・HD・PD・移植)</p>	小関裕二
8	後期	<p>「透析患者の合併症について」</p> <p>① 透析患者の合併症理解</p>	<p>「透析患者の合併症について」</p> <p>① 透析患者の合併症について説明ができる</p>	小関裕二
9	後期	<p>「CKD の運動療法について」</p> <p>① 保存期から透析期におけるリハビリについて理解する</p>	<p>「CKD の運動療法について」</p> <p>① CKD 患者のリスク管理ができ、安全で効果的な運動療法設定ができる。</p>	小関裕二
10	後期	<p>「CKD 運動療法のリスク管理」</p> <p>① CKD 患者の運動療法におけるリスク管理を理解する</p>	<p>「CKD 運動療法のリスク管理」</p> <p>① CKD 患者の運動療法のリスク管理について説明ができる。</p>	小関裕二

11	後期	<p>「糖尿病の理学療法評価」</p> <p>① 糖尿病患者に対する理学療法評価の意義について理解する。</p> <p>② 糖尿病患者に対する理学療法評価の種類について理解する。</p> <p>③ 糖尿病患者に対する理学療法評価の注意点について理解する。</p>	<p>「糖尿病に対する理学療法評価の意義」</p> <p>① 糖尿病性末梢神経障害に対する、アキレス腱反射について説明できる。</p> <p>② 音叉を使用した振動覚検査について説明できる。</p> <p>③ Monofilament を用いた足底圧覚評価について説明できる。</p> <p>④ なぜその理学療法評価を選択するのか説明できる。</p>	林尚宜
12	後期	<p>「糖尿病の理学療法評価～演習～」</p> <p>① 糖尿病患者に対する理学療法評価を行うことができる。</p> <p>② 糖尿病患者に対する理学療法評価の注意点を説明できる</p>	<p>「糖尿病理学療法評価の演習」</p> <p>① 皮膚温、血管の触診が説明しながら実施できる。</p> <p>② 下肢挙上下垂テストが説明しながら実施できる。</p> <p>③ タッチテストが説明しながら実施できる。</p> <p>④ HbA1c とは何か説明できる。</p>	林尚宜
13	後期	<p>「糖尿病の運動療法」</p> <p>① 糖尿病の運動療法の必要性を理解する</p> <p>② 糖尿病に対する運動療法の種類について理解する。</p> <p>③ 糖尿病に対する運動療法の効果について理解する。</p>	<p>「糖尿病に対する運動療法の意義」</p> <p>① 糖尿病に対する運動療法の意義について説明できる</p> <p>② 有酸素運動の必要性について説明できる</p> <p>③ レジスタンストレーニングの必要性について説明できる。</p> <p>④ 糖尿病に対する運動療法の注意点・リスク管理について説明できる。</p>	林尚宜
14	後期	<p>「糖尿病の運動療法～演習～」</p> <p>① 糖尿病患者に対する患者指導の必要性について理解する。</p> <p>② 糖尿病患者に対する患者指導の方法について理解する。</p>	<p>「患者指導」</p> <p>① 糖尿病患者への患者指導の必要性について説明できる。</p> <p>② 糖尿病患者に対する具体的な関わり方について説明できる。</p> <p>③ 動機付けとセルフエフィカシーとは何か説明できる。</p> <p>④ 行動変容ステージについて説明できる。</p> <p>⑤ 前熟考期・熟考期の指導ポイントについて説明できる。</p>	林尚宜

15	後期	「糖尿病についてのまとめ(応用)」 ① 糖尿病患者に対する理学療法評価についてあらためて理解する。 ② 糖尿病患者に対する運動療法についてあらためて理解する。 ③ 国家試験に出題されている範囲、問題を理解する。	「糖尿病応用問題の復習・グループワーク」 ① 糖尿病患者に対する理学療法評価の問題について解答解説できる。 ② 糖尿病患者に対する運動療法の問題について解答解説できる。	林尚宜
成績評価方法		科目試験 (100%)		
準備学習など		授業内にて口頭で説明している内容をしっかりメモをとる。 「ここが大事」、「国家試験に出題される」などの Keyword を逃さずマークしておく。 授業間に行う「アウトプットタイム」に、積極的に発言して学習する。		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科 2学年
科目名	発達支援理学療法学
担当者	岡田 大治
単位数(時間数)	2単位(30時間)
学習方法	講義・実技・グループワーク
教科書・参考書	イラストでわかる小児理学療法学

授業概要と目的
<p>小児の発達支援が必要な疾患の原因、全体像、評価について学び、具体的な事例をもとに理学療法及びその他の介入について提示する。</p> <p>学習到達目標としては、代表的疾患の脳性麻痺、運動発達遅滞、骨関節疾患、染色体異常、先天性神経筋疾患、発達性協調運動障害など発達に関わる理学療法について理解し説明できる。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「発達と学習」 一般目標 ① 発達と学習の仕組みを理解する。	「発達と学習について」 到達目標 ① 「発達」と「学習」について説明できる。	岡田大治
2	後期	「発達理論と運動の成り立ち1」 一般目標 ① 正常発達を理解し、運動の成り立ちを理解する。 ② 胎生期～臥位レベルまでの発達理論を理解する。	「発達理論と運動の成り立ちについて」 到達目標 ① 正常発達理論を基に運動の成り立ちについて説明できる。 ② 胎生期～臥位レベルまでの発達理論を説明できる。	岡田大治
3	後期	「発達理論と運動の成り立ち2」 一般目標 ① 正常発達を理解し、運動の成り立ちを理解する。 ② 臥位～座位レベルまでの発達理論を理解する。	「発達理論と運動の成り立ちについて」 到達目標 ① 正常発達理論を基に運動の成り立ちについて説明できる。 ② 臥位～座位レベルまでの発達理論を説明できる。	岡田大治
4	後期	「発達理論と運動の成り立ち3」 一般目標 ① 正常発達を理解し、運動の成り立ちを理解する。 ② 座位～立位レベルまでの発達理論を理解する。	「発達理論と運動の成り立ちについて」 到達目標 ① 正常発達理論を基に運動の成り立ちについて説明できる。 ② 座位～立位レベルまでの発達理論を説明できる。	岡田大治
5	後期	「発達理論と運動の成り立ち4」 一般目標 ① 正常発達を理解し、運動の成り立ちを理解する。 ② 立位～歩行レベルまでの発達理論を理解する。	「発達理論と運動の成り立ちについて」 到達目標 ① 正常発達理論を基に運動の成り立ちについて説明できる。 ② 立位～歩行レベルまでの発達理論を説明できる。	岡田大治
6	後期	「発達障害」 一般目標 ① 各種発達障害の特徴を理解する。 ② 発達障害への介入を理解する。	「発達障害の概要と介入」 到達目標 ① 発達障害の特徴について説明できる。 ② 発達障害への理学療法士としての関わり方について説明できる。	岡田大治

7	後期	「学校保健理学療法」 一般目標 ① 理学療法士として学校に関わることを理解する。	「学校保健理学療法」 到達目標 ① 理学療法士が学校に関わる意義を説明できる。 ② 学校領域で特徴的な課題に対する介入方法を説明できる。	岡田大治
8	後期	「NICU」 一般目標 ① NICUでの理学療法について理解する。	「NICUに関わる理学療法」 一般目標 ① NICUでの理学療法士の役割と介入方法を説明できる。	岡田大治
9	後期	「脳性麻痺1」 一般目標 ① 乳幼児期の脳性麻痺の病態理解と治療介入を理解する。	「脳性麻痺の乳幼児期の病態理解」 到達目標 ① 脳性麻痺の発生機序を説明できる。 ② 脳性麻痺の類型を説明できる。 ③ 脳性麻痺の乳幼児期の課題と介入方法を説明できる。	岡田大治
10	後期	「脳性麻痺2」 一般目標 ① 学童期の脳性麻痺の病態理解と治療介入を理解する。	「脳性麻痺の学童期の病態理解」 到達目標 ① 脳性麻痺の学童期の課題と介入方法を説明できる。	岡田大治
11	後期	「脳性麻痺3」 一般目標 ① 青年期以降の脳性麻痺の病態理解と治療介入を理解する。	「脳性麻痺の青年期の病態理解」 到達目標 ① 脳性麻痺の青年期以降の課題と介入方法を説明できる。	岡田大治
12	後期	「脳性麻痺4」 一般目標 ① 脳性麻痺の社会参加を理解する。	「脳性麻痺の社会参加」 到達目標 ① 脳性麻痺の社会参加の課題と支援方法を説明できる。	岡田大治
13	後期	「染色体異常」 一般目標 ① 染色体異常の代表的な疾患の概要と介入方法を理解する。	「染色体異常の代表的な疾患の概要と介入」 到達目標 ① 染色体異常の代表的な疾患の概要と介入方法を説明できる。	岡田大治
14	後期	「筋ジストロフィー症」 一般目標 ① 筋ジストロフィー症の概要と介入方法について理解する。	「筋ジストロフィー症の概要と介入」 到達目標 ① 筋ジストロフィー症の概要と介入方法について説明できる。	岡田大治

15	後期	「小児整形外科疾患」 一般目標 ① 小児整形外科疾患の概要と介入方法について理解する。	「小児整形外科疾患の概要と介入」 到達目標 ① 小児整形外科疾患の概要と介入方法について説明できる。	岡田大治
成績評価方法		科目試験 100点		
準備学習など		1学年時の「人間発達学」を復習しておくこと。		
留意事項		実技；運動できる服装を用意してください。(Tシャツ・短パン・裸足を推奨)		

学科・年次	理学療法科・2年次
科目名	老年期理学療法学
担当者	奥地伸城
単位数(時間数)	2単位(30時間)
学習方法	講義形式
教科書・参考書	高齢者理学療法学テキスト 南江堂 監修 細田多穂

授業概要と目的
<p>我が国は世界に例を見ない早さで高齢化が進行しており、高齢者の医療・保健福祉に対するニーズは更に高まっています。複数の多様な問題を抱える高齢者の理学療法においては、身体機能や認知機能、精神・心理機能、生活機能、更に社会環境にまで及ぶ広い視点が必要です。この科目では、高齢者をイメージできる、加齢に伴う心身機能の変化を理解できる、理学療法を実施する上での留意点を理解できる、などを目的として行います。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「ライフステージと高齢者像」 一般目標 ①高齢者の基礎定義やおかれていまする現状を理解する	「老化とは」 到達目標 ①老化について説明できる ②高齢者の定義と年齢による分類について説明できる ③老年期の発達課題を踏まえて「古い」の受容について説明できる	奥地伸城
2	前期	「ライフステージと高齢者像」 一般目標 ①高齢者の基礎定義やおかれていまする現状を理解する	「高齢者の心理」 到達目標 ①平均寿命と健康寿命の差が持つ意味について説明できる ②サクセスフルエイジングに必要な条件について説明できる ③高齢者が抱く心理について説明できる	奥地伸城
3	前期	「加齢に伴う身体機能・精神機能変化」 一般目標 ①高齢者に理学療法を実施するために必要な加齢に伴う心身機能の変化について理解する	「高齢者の身体的特徴」 到達目標 ①加齢に伴う身体構造の変化が説明できる ②加齢に伴う運動機能変化が説明できる ③加齢に伴う感覚機能の変化が説明できる ④高齢者の摂食嚥下障害の特徴、誤嚥性肺炎、摂食嚥下機能評価、リハビリテーションについて説明できる	奥地伸城
4	前期	「加齢に伴う身体機能・精神機能変化」 一般目標 ①高齢者に理学療法を実施するために必要な加齢に伴う心身機能の変化について理解する	「高齢者の精神的特徴」 到達目標 ①加齢に伴う生理機能の特徴が説明できる ②加齢に伴う知能、記憶、感情、人格、生きがいの特徴が説明できる	奥地伸城
5	前期	「老年症候群」 一般目標 ①老年症候群が理学療法を実施する際の治療プログラムの立案、およびその進行に及ぼす影響について理解する	「高齢者疾患の特徴」 到達目標 ①老年症候群により生活機能の障害について説明できる ②老年症候群のⅠ群、Ⅱ群、Ⅲ群について説明できる ③代表的な老年症候群について、その発症メカニズムや症状について説明できる	奥地伸城

6	前期	<p>「老年症候群」</p> <p>一般目標</p> <p>①老年症候群の中でフレイルは理学療法注目すべき1つであることについて理解する</p> <p>②フレイルとサルコペニアの関連性について理解する</p>	<p>「代表的な老年症候群」</p> <p>到達目標</p> <p>①フレイル・サルコペニアと低栄養との関係性を説明できる</p> <p>②尿失禁・便失禁の種類とメカニズムについて説明できる</p>	奥地伸城
7	前期	<p>「高齢者の生活機能評価」</p> <p>一般目標</p> <p>①高齢者の運動機能の評価方法を理解し、その特徴や注意点について理解する</p>	<p>「運動機能評価」</p> <p>到達目標</p> <p>①高齢者の運動機能評価方法について説明できる</p> <p>②高齢者の運動機能評価結果について説明できる</p> <p>③評価方法にあわせた準備ができる</p> <p>④高齢者の日常生活活動の評価補法について説明できる</p>	奥地伸城
8	前期	<p>「高齢者の生活機能評価」</p> <p>一般目標</p> <p>①高齢者の生活機能の評価する方法について理解し、その技術について理解する</p>	<p>「認知・精神機能評価」</p> <p>到達目標</p> <p>①高齢者の認知・精神機能の評価方法について理解する</p> <p>②介護者の介護負担をはじめとした生活環境の評価方法について説明できる</p> <p>③QOLの構造因子とその評価方法について説明できる</p>	奥地伸城
9	前期	<p>「高齢者の理学療法を実施するうえでの留意事項」</p> <p>一般目標</p> <p>①高齢者の理学療法を実施するうえでの留意事項として、高齢者の一般的特徴や理学療法における高齢者、障害者のリスク管理について理解する</p>	<p>「高齢者の一般的特徴」</p> <p>到達目標</p> <p>①高齢者の一般的特徴を説明できる</p> <p>②高齢者の理学療法における陥りやすい症候やリスク管理を説明できる</p>	奥地伸城
10	前期	<p>「高齢者の理学療法を実施するうえでの留意事項」</p> <p>一般目標</p> <p>①高齢者の機能状態によって、栄養管理や運動管理の方法が異なることを理解する</p>	<p>「低・過栄養と栄養管理」</p> <p>到達目標</p> <p>①基礎代謝量とエネルギー消費量を、基本的な属性から推定できる</p> <p>②対峙している高齢者に適した運動機能や身体活動を向上させる方法を提案できる</p>	奥地伸城

		②身体活動の維持・向上はどんな機能状態にある高齢者にとってもその機能や健康を維持するためにの重要な要件であることを理解する		
11	前期	「高齢者の悪性腫瘍と理学療法」 一般目標 ①高齢な悪性腫瘍患者の生活機能改善や QOL の維持・向上のために、その障害像や病態、症状、治療法についての理解を含め、患者にとって最適な理学療法プログラムの立案・遂行機能を習得する	「疾患の概要」 到達目標 ①がんの障害増や症状、特徴について説明できる ②がんの治療について説明できる ③がん患者に対する理学療法について説明できる	奥地伸城
12	前期	「高齢者の悪性腫瘍と理学療法」 一般目標 ①高齢な悪性腫瘍患者の生活機能改善や QOL の維持・向上のために、その障害像や病態、症状、治療法についての理解を含め、患者にとって最適な理学療法プログラムの立案・遂行機能を習得する	「理学療法の概要」 到達目標 ①がん患者に対する理学療法の禁忌事項について説明できる ②高齢がん患者に対する評価と治療を説明できる	奥地伸城
13	前期	「地域高齢在住者と理学療法」 一般目標 ①介護保険サービスにて提供されるリハビリテーションにおいて、居宅サービス及び施設サービスにおける理学療法士の役割と多職種連携にて行われるリハビリテーションマネジメントの重要性を理解する	「リハビリテーションマネジメントの概念」 到達目標 ①介護保険サービスで提供されるリハビリテーションの種類と役割を説明できる ②適切なサービス提供の観点からリハビリテーションにおける EPDCA サイクルを説明できる ③介護老人保健施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションそれぞれの業務内容や役割を説明できる	奥地伸城
14	前期	「高齢者の健康寿命の延伸」 一般目標 ①高齢者の転倒、骨折の現状と課題を理解し、予防法について考察する	「高齢社会の現状」 到達目標 ①転倒、骨折の発生原因について説明できる	奥地伸城

		②認知症の現状と課題を理解し、 予防法について理解する	②認知症の行動心理症状 (BPSD) とその発 現原因について説明できる	
15	前期	「まとめ」 一般目標 ①これまでの授業のポイントを 理解する	「まとめ」 到達目標 ①これまでの授業ポイントを説明できる	奥地伸城
成績評価方法		科目試験 (80%)、レポート (20%)		
準備学習など		高齢者の特徴などを把握しておくこと		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科・2年次
科目名	スポーツ理学療法演習
担当者	寺島 弘将、高塚 将人
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
学習方法	講義および実習
教科書・参考書	配布資料

授業概要と目的
<p>競技による運動特性の違いや、それぞれの競技でおきやすい疾患についての知識や対処方法、理学療法を座学・実技を通して学んでいく。</p> <p>また、スポーツ現場における理学療法士の役割、障害予防における講義や実技 (ストレッチ、RICE 処置、メディカルチェック、搬送実技など) を行う。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	捻挫など足関節のスポーツ障害について理解する	テーピングをする理由やどういった症例に行うかを理解したうえで、テーピングの切り方、巻き方など基礎的な技術を体験し、実際に足関節のテーピングをまくことができる。	寺島弘将
2				
3	後期	膝関節のスポーツ障害について理解する。	膝関節のスポーツ障害についての知識を座学によって学び、理学療法士としての対処法や治療の方法を学ぶ。対象者にストレッチやトレーニングなどを実施、指導することができる。	寺島弘将
4				
5	後期	下肢のスポーツ障害についての対処法を理解する。	臨床現場でスポーツ障害の症例に対する処置、テーピングの方法を学び対象者に実施することができるようになる。	寺島弘将
6				
7	後期	下肢のスポーツ障害についての知識を記憶に定着させる。	学んだ知識をテスト形式でほとんど答えることができる。	寺島弘将
8	後期	「スポーツ現場での医療活動の概要」 一般目標 ① スポーツ理学療法についてイメージが出来る。	「スポーツ現場での医療活動の概要」 到達目標 ① スポーツ理学療法について説明できる。	高塚 将人
9	後期	「ウォーミングアップ、クーリングダウンについて」 一般目標 ① スポーツ障害予防のために行うストレッチについて理解する。 ② ストレッチの種類について理解する。	「ストレッチを実践する」 到達目標 ① 対象者にストレッチを説明する。 ② 対象者にストレッチの見本となる。	高塚 将人
10	後期	「下肢の慢性障害について」 一般目標 ① 下肢の慢性障害について理解する。 ② ランニング障害について理解する。	「ランニング障害について」 到達目標 ① 下肢の慢性障害について説明できる。 ② ランニング障害について説明出来る。	高塚 将人
11	後期	「スポーツ傷害における応急処置について」	「RICE 処置の実践」 到達目標	高塚 将人

		<p>一般目標</p> <p>① RICE 処置の基礎を理解する.</p> <p>② RICE 処置の方法を理解する.</p>	<p>① RICE 処置を実施する事が出来る.</p> <p>② 事例に応じた RICE 処置を実施する事が出来る.</p>	
12	後期	<p>「再受傷・再発の予防、自己管理について」</p> <p>一般目標</p> <p>① 再受傷・再発の予防について理解する.</p> <p>② 自己管理の重要性について理解する.</p>	<p>「再受傷・再発の予防、自己管理の重要性について」</p> <p>到達目標</p> <p>① 再受傷・再発の予防について説明出来る.</p> <p>② 自己管理の重要性について説明出来る.</p>	高塚 将人
13	後期	<p>「メディカルチェックについて」</p> <p>一般目標</p> <p>① メディカルチェックの意義を理解する.</p> <p>② メディカルチェックの評価項目を理解する.</p>	<p>「メディカルチェックの実践」</p> <p>到達目標</p> <p>① 対象者にメディカルチェックを説明出来る.</p> <p>② メディカルチェックの評価項目を実践出来る.</p>	高塚 将人
14	後期	<p>「陸上競技の大会における救護活動」</p> <p>一般目標</p> <p>① 陸上競技の大会における救護活動が理解出来る.</p>	<p>「陸上競技の大会における救護活動の概要」</p> <p>到達目標</p> <p>① 陸上競技の大会における救護活動が説明出来る.</p>	高塚 将人
15	後期	<p>「救護活動の搬送について」</p> <p>一般目標</p> <p>① 救護活動が理解出来る.</p>	<p>「救護活動の搬送実技について」</p> <p>到達目標</p> <p>① 搬送技術が出来るようになる.</p> <p>② 事例に応じた搬送が出来るようになる.</p>	高塚 将人
成績評価方法		課題レポート		
準備学習など		スポーツ分野に興味がある方は、十分に復習を行うこと.		
留意事項		・運動、テーピングをクラスメイトと行う際は膝より下を露出できる格好で授業に臨む。また伸縮性がある履物をはいてくる。		

学科・年次	理学療法科 2 学年	開講期間	通年
科目名	日常生活活動学演習Ⅱ		
担当者	小出 悠介		
単位数（時間数）	1 単位 （30 時間）	履修方法	講義形式 グループワーク
教科書・参考書	PTOT ビジュアルテキスト ADL 羊土社		

授業概要
本講義では各疾患についての概要や活動制限，日常生活動作を学ぶ．そこから生じる制限に対して，指導方法や治療方法について学ぶ．なお，理学療法士として，病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。
授業の目的（意義）
本講義の目的は各疾患における概要や機能障害の特徴を理解し，それに応じた日常生活活動を理解することである．そして，その知識や技術を用い，実際に日常生活活動の指導や援助が出来るようになることである．また，臨床現場で多く用いられる FIM や BI といった日常生活活動評価指標を理解し，実際に採点し，客観的な評価ができるようになることも目的である．
関連する学科の DP
①理学療法士として必要な基礎知識を修得している ②医学知識を修得し、論理的思考に基づいた理学療法（評価・治療）が実践できる ④自己研鑽に努め、得た知識や経験を適切に共有することができる ⑤臨床現場で求められる基礎的实践能力を備えている ⑥自律心を有している 1. 自己研鑽を継続できる 2. 自主的に行動が起こせる 3. 自信をもって業務に臨める 4. 自己マネジメントすることで課題を明確にできる

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「脳卒中片麻痺①」 グループワークを通して，脳卒中片麻痺患者の障害やどのようなことができなくなるかを考える．脳卒中片麻痺患者の概要や機能解剖学的な障害について述べることができる．	「脳卒中片麻痺の概要」 ① グループワークで脳卒中片麻痺患者の障害のイメージを述べることができる． ② 脳卒中片麻痺の概要を説明できる． ③ 脳卒中片麻痺の機能障害を解剖学的に理解し，説明することができる． ④ 機能障害から ADL 障害につながる具体的なイメージがつくようになる．	小出 悠介

2	前期	<p>「脳卒中片麻痺②」</p> <p>脳卒中片麻痺患者の起居・床上・移乗動作について説明する。動作を理解し、実際に模倣や指導ができるようになる。</p>	<p>「脳卒中片麻痺の ADL 指導（起居・床上・移乗動作）」</p> <p>① 脳卒中片麻痺患者の起居・床上・移乗動作の一般的な方法を理解する。</p> <p>② 起居・床上・移乗動作手順について人に説明できるようになる。</p> <p>③ 実際に起居・床上・移乗動作について模倣できるようになる。</p>	小出 悠介
3	前期	<p>「脳卒中片麻痺③」</p> <p>脳卒中片麻痺患者の食事・入浴・移動動作について説明する。動作を理解し、実際に模倣や指導ができるようになる。</p>	<p>「脳卒中片麻痺の ADL 指導（食事・入浴・移動動作）」</p> <p>① 脳卒中片麻痺患者の食事・入浴・移動動作の一般的な方法を理解する。</p> <p>② 食事・入浴・移動動作手順について人に説明できるようになる。</p> <p>③ 利き手交換について理解する。</p> <p>④ 実際に起居・床上・移乗動作について模倣できるようになる。</p> <p>⑤ 脳卒中片麻痺に関する問題が解けるようになる。</p>	小出悠介
4	前期	<p>「パーキンソン病①」</p> <p>パーキンソン病の疾患概要や特徴的な症状を理解し、説明できるようになる。</p>	<p>「パーキンソン病の概要」</p> <p>① グループワークを通してパーキンソン病患者がイメージできる。</p> <p>② パーキンソン病の概要を理解する。</p> <p>③ パーキンソン病の特徴的な症状を述べることができる。</p> <p>④ 大脳-基底核間での障害概要を知る。</p> <p>⑤ Hoehn&Yahr の重症度分類について理解し、各ステージでの特徴を説明できる。</p>	小出悠介
5	前期	<p>「パーキンソン病②」</p> <p>パーキンソン病の ADL 障害の特徴を理解し、それに応じた ADL の指導方法を理解し、説明できるようになる。</p>	<p>「パーキンソン病の ADL 指導」</p> <p>① パーキンソン病患者の一般的な ADL 動作方法を理解する。</p> <p>② 入浴についての注意点を述べることができる。</p> <p>③ 薬剤の長期服用から生じる ADL 障害を理解し、述べることができる。</p> <p>④ パーキンソン病に関する問題を解くことができる。</p>	小出悠介

6	前期	「大腿骨頸部骨折」 大腿骨頸部骨折・転子部骨折やその手術療法後の ADL 指導方法を理解し、説明できるようになる。	「大腿骨頸部骨折の概要と ADL 指導」 ① 大腿骨頸部骨折・転子部骨折について理解する。 ② 人工関節の術式を理解し、禁忌動作について知り、説明できるようになる。 ③ 実際に禁忌動作に留意した ADL 動作指導ができるようになる。 ④ 大腿骨頸部骨折や人工関節についての問題が解けるようになる。	小出悠介
7	前期	「関節リウマチ」 関節リウマチの概要を知る。さらに関節保護の原則を意識した ADL 指導方法を理解し、説明できるようになる。	「関節リウマチの概要と ADL 指導」 ① リウマチの病態について知る。 ② リウマチの病態から ADL 障害にどのようなつながるかを理解する。 ③ ADL 指導の基本である、関節保護の原則を説明できる。 ④ 各関節における関せる保護の具体的な ADL 指導が述べられる。 ⑤ リウマチの問題が実際に解けるようになる。	小出悠介
8	前期	「膝関節疾患/下腿骨折/認知症」 変形性膝関節症や下腿骨折、その手術療法後の ADL 指導方法を理解し、説明できるようになる。認知症の概要と認知症患者の対応方法について知る。	「膝関節疾患/下腿骨折/認知症の ADL とその留意点」 ① 膝関節疾患・下腿骨折・認知症の概要について知る。 ② 膝関節疾患・下腿骨折の ADL の留意点を理解する。 ③ 認知症患者の対応方法やコミュニケーション方法について知る。	小出悠介
9	前期	「脊髄損傷①」 脊髄の機能解剖を復習し、再確認をする。そこから、脊髄損傷の概要や損傷高位について理解する。また、脊髄損傷の各評価指標についても説明できるようになる。	「脊髄損傷の機能障害」 ① 脊髄の機能解剖を再確認する。 ② 脊髄損傷の概要を理解する。 ③ 脊髄損傷の神経学的損傷高位について理解する。 ④ 脊髄損傷の ASIA や Zancolli 分類について理解し、どのようなものか説明できる。	小出悠介
10	前期	「脊髄損傷②」 頸髄損傷・胸髄損傷の各髄節における作用筋や ADL 上限、ADL	「頸髄損傷・胸髄損傷の ADL」 ① 頸髄損傷・胸髄損傷における作用筋や出来る運動、上限となる ADL について理解し、説明できるようになる。	小出悠介

		方法について理解し，説明できるようになる．	<ul style="list-style-type: none"> ② 損傷高位に合わせた上肢装具や車いすの選択ができるようになる． ③ 各 ADL 動作の手順や方法，注意点を理解し説明できる． 	
11	前期	<p>「脊髄損傷③」</p> <p>腰髄損傷以下の各髄節における作用筋や ADL 上限, ADL 方法, 歩行パターンについて理解し，説明できるようになる．</p>	<p>「腰髄損傷以下の ADL」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 腰髄損傷以下の作用筋や出来る運動，上限となる ADL について理解し，説明できるようになる． ② 損傷高位に合わせた歩行補装具や歩行パターンの選択ができるようになる． ③ 各 ADL 動作の手順や方法，注意点を理解し説明できる． ④ 脊髄損傷の問題を解くことができる． 	小出悠介
12	前期	<p>「呼吸器疾患」</p> <p>呼吸器疾患について知り，呼吸器疾患の ADL 指導や注意点について理解し，説明できるようになる．</p>	<p>「呼吸器疾患の概要と ADL 指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 呼吸器疾患（閉塞性・拘束性疾患）について知る． ② 呼吸器疾患の ADL 制限の原因について理解し，説明できるようになる． ③ 呼吸器疾患の ADL 評価指標について知る． ④ 呼吸器疾患の ADL 指導や注意点について理解し，説明できる． ⑤ 呼吸器疾患についての問題を解くことができる． 	小出悠介
13	前期	<p>「循環器疾患」</p> <p>循環器疾患について知り，循環器疾患の ADL 指導や注意点について理解し，説明できるようになる．</p>	<p>「循環器疾患の概要と ADL 指導」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 心不全について知る． ② 循環器疾患の ADL 制限の原因について理解し，説明できるようになる． ③ NYHA や作業強度について知る． ④ 循環器疾患の ADL 指導や注意点について理解し，説明できる． ⑤ 循環器疾患についての問題を解くことができる． 	小出悠介
14	前期	<p>「BI・FIM（運動項目）」</p> <p>BI の特徴を知り，採点を出来るようになる．</p>	<p>「BI・FIM の特徴と採点方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① BI の特徴を知る． ② BI の評価表を使用し，採点できるようになる． ③ FIM（運動項目）の特徴を知る． 	小出悠介

		FIM の特徴と各項目の採点定義を理解し、採点できるようになる.	④ FIM の運動項目について説明プリントを見ながら採点できる. ⑤ 移動・移乗・階段の項目についてはプリントを見ることなく採点できる.	
15	前期	「FIM (認知項目)」 FIM の特徴と各項目の採点定義を理解し、採点できるようになる.	「FIM の特徴と採点方法」 ① FIM (認知項目) の特徴を知る. ② FIM の認知項目について説明プリントを見ながら採点できる. ③ BI・FIM についての問題を解くことができる.	小出悠介
成績評価方法		中間テスト×2 (50点×2) 60点以上を合格とする.		
準備学習/事後学習		サブノートを配布し、各講義テーマのまとめをします。しっかりと復習をして、国家試験問題に慣れておきましょう。		
関連科目		日常生活活動学演習Ⅰ→日常生活活動学演習Ⅱ		
その他 (履修者へのアドバイス等)		グループワークなども行います。 積極的に参加をお願いします。		

学科・年次	理学療法学科 2年次
科目名	義肢装具演習
担当者	北嶋 應司 、 奥地 伸城
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義・演習・実技
教科書・参考書	義肢学 第2版 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学 第2版 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト

授業概要と目的
<p>義肢とは切断により四肢の一部を欠損した場合に、もとの手足の形態又は機能を復元するために装着、使用する人工の手足。</p> <p>装具とは、病気やケガなどにより四肢・体幹に機能障害を生じたときに、治療や症状の軽減を目的として使用する補助器具。</p> <p>上記義肢・装具に関する基本的な知識を獲得し、臨床での適応疾患、使用方法についての理解を目的とする。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「義肢装具学の概要と役割」 本講義での目的や流れについて説明 基礎知識の確認（小テスト）	「義肢と装具の違い、目的の違いを説明できる」 これから学ぶ義肢装具学についておおまかに説明できる	北嶋應司
2	通年	「義肢の概要」 切断原因となる疾患と切断術への理解を深め、どのような人々が義肢を利用しているのか学ぶ。 アライメントについて理解する。	「義肢の形状・機能について学ぶ」 ① 義足が必要となる疾患と切断術について説明ができる。 ② 義足にとってのアライメントの重要性について説明ができる。	北嶋應司
3	通年	「下腿義足」 ソケット・支持部・継手部・足部で構成される下腿義足の基本的な知識を身につける。 義肢装着前訓練（ソフトドレッシング）を理解する	「下腿切断に用いる下腿義足の構造について学ぶ」 ① 骨格構造と殻構造の違いを説明することができる。 ② 下腿義足の基本構造を理解し、述べることができる。 ③ 下腿義足に使われるソケットについて学ぶ ④ ソフトドレッシングについて理解する。	北嶋應司

4	通年	「下腿義足・足部」 義足に用いられる足部のパーツについての知識を身につける	「義足に用いられる足部パーツに求められる機能について学習し、各種足部の特色についての知識を深める」 ① 義足歩行において足部パーツが備えるべき機能を理解し、述べることができる。 ② 単軸・多軸・SACH・エネルギー蓄積型足部の違いを理解し、適応する使用場面を区別することができる。	北嶋應司
5	通年	「下腿義足・下腿義足を用いた歩行」 下腿義足のアライメントを理解し、下腿義足の異常歩行について考察する。	「下腿義足を用いた歩行について学び、アライメントが及ぼす歩行への影響について考察する。」 ① PTB 下腿義足のベンチアライメントを理解し、図説することができる。 ② アライメントによる異常歩行を考察し、どうすれば解決するのかを説明することができる。	北嶋應司
6	通年	「大腿義足」 ソケット・支持部・膝継手部・足部で構成される大腿義足の基本的な知識を身につける。	「大腿切断に用いる大腿義足の構造について学ぶ」 ① 骨格構造と殻構造の違いを説明することができる。 ② 大腿義足の基本構造を理解し、述べることができる。	北嶋應司
7	通年	「大腿義足・ソケット」 大腿義足のソケットについての知識を身につけ、体重支持・自己懸垂の仕組みを理解する。	「大腿義足に使われるソケットについて学ぶ」 四辺形ソケット、IRC ソケットの体重支持理論を理解し、なぜ大腿義足で立つことや、歩行することができるのかを説明することができる。	北嶋應司
8	通年	「大腿義足・アライメントと大腿義足を用いた歩行」 大腿義足のアライメントを理解し、大腿義足の異常歩行について考察する	「大腿義足のアライメントについて学び、アライメントが及ぼす歩行への影響について考察する。」 ① 大腿義足のベンチアライメントを理解し、図説することができる。 ② IFA について理解し、なぜそれらが必要なのか説明できる。 ③ アライメントによる異常歩行を考察し、どうすれば解決するのかを説明することができる。	北嶋應司
9	通年	「サイム義足・膝義足」	「果義足特有の特徴について、実物の画像を参照に学ぶ」	北嶋應司

		果義足であるサイム義足・膝義足について、他の義足との違いを交えて理解する。	① 離断による断端部の特徴について、述べる ことができる。 ① 離断による断端に適合するために、義足が備えるべき機能を説明することができる。	
10	通年	「義足に対する理学療法」 義足患者に対する理学療法はどのようなものがあるのか、実際の臨床現場で何を考え理学療法を行うのかを理解する。	「義足患者の理学療法について学ぶ」 ① 義足に対する理学療法について説明することができる。 ② リハビリの際にどのようなことに注意するかを述べるすることができる。	北嶋應司
11	通年	「義手」 能動義手、作業用義手、装飾用義手についての知識を身につける。	「対外力源を用いない一般的な義手について学ぶ」 ① 各切断レベルに応じたソケットタイプを理解し、述べる ことができる。 ② 能動、作業用、装飾用の義手を対比し、用いられる場面についての的確に答えることができる。	北嶋應司
12	通年	「頸椎・体幹装具」 体幹部に用いる体幹装具について学び、関連する疾患との関りを理解する。	「各種体幹装具の形状・機能について学ぶ」 ① 臨床で用いられる体幹装具の名称、形状、機能を説明することができる。 ② 各種疾患に対して、どの装具が適切な のか、考察することができる。 ③ 各種脊椎疾患に対して、どの体幹装具が適切な のか考察することができる。	北嶋應司
13	通年	「上肢装具と自助具①」 上肢装具の目的、種類、機能について理解する	「上肢装具の目的、種類、機能について学ぶ」 上肢装具の種類や適応疾患について理解し、説明することができる。	北嶋應司
14	通年	「上肢装具と自助具②」 自助具の目的、種類、機能について理解する。	「自助具の目的、種類、機能について学ぶ」 自助具の種類や適応疾患について理解し、説明することができる。	北嶋應司
15	通年	「装具の基礎知識とそれに伴うバイオメカニクス」 装具処方について理解する。 運動学・バイオメカニクスと合わせて装具について理解を深める。	「装具の基礎知識」 ① 装具が制作されるまでの流れを説明できる。 ② 装具とそれに必要なバイオメカニクスの知識について説明できる。	北嶋應司
16	通年	「下肢装具概論」 理学療法に用いられることが多い下肢装具について、種類や形状、適応疾患について大まかに理解する。	「HKAFO、KAFO、AFO、KO、HO、FOの違い、種類について学ぶ」 ① 臨床で理学療法に用いられる各種下肢装具のイメージを、大まかにではあるが把握することができる。	北嶋應司

			② 形状による名称の違いを理解し、分類を説明できる。	
17	通年	「下肢装具の構成要素」 下肢装具の構造について学び、使用される各種パーツについての知識を身につける。	「股継手、膝継手、足継手などの下肢装具構成部品について学ぶ」 ① 各継手の機能について理解し、説明することができる。 ② 各継手の設定位置を理解し、図説することができる。	北嶋應司
18	通年	「一般的な疾患に用いる下肢装具①」 一般的な整形疾患や中枢疾患に用いられる下肢装具について、種類や機能を理解する。	「整形疾患に用いられる装具、中枢疾患に用いられる装具について学ぶ」 ① 整形疾患に用いられる下肢装具の適応について理解し、説明することができる。 ② 中枢疾患に用いられる下肢装具の適応について理解し、説明することができる。	北嶋應司
19	通年	「一般的な疾患に用いる下肢装具②」 一般的な整形疾患や中枢疾患に用いられる下肢装具について、種類や機能を理解する。	「整形疾患に用いられる装具、中枢疾患に用いられる装具について学ぶ」 ① 整形疾患に用いられる下肢装具の適応について理解し、説明することができる。 ② 中枢疾患に用いられる下肢装具の適応について理解し、説明することができる。	北嶋應司
20	通年	「足底装具」 アーチサポートや各種ウェッジを用いた足底装具の効果を理解する。 フットプリントを使用して、変形、アライメント等を理解する。	「足部疾患に用いられる足底装具の機能について、足根骨の機能解剖も踏まえて学習する」 ① 各種足部疾患に対応する足底装具について説明することができる。 ② 足底装具が足根骨に及ぼす影響と、その後の効果について考察し、考えを述べることができる。	北嶋應司
21	通年	「歩行・歩容について」 下肢装具に関わってくる「歩行」について装具と合わせて理解する。	「正常の歩行について学び、装具をつけることでどのように歩行が改善するのか、解剖学・運動学を交えて説明することができる。」	北嶋應司
22	通年	「靴型装具」「装具学まとめ」 靴型装具についての知識を身につける。 また、前半講義で学んだ装具学に理解できていない部分を明らかにする。	「靴型装具と通常の靴との違いを学び、靴型装具によって得られる効果を学ぶ」 ① 靴型装具が適応となる下肢の疾患についての理解を深め、靴型装具装着時の改善点を述べることができる。 ② 靴の補正の種類と形状、機能を理解し、適応疾患に当てはめることができる。	北嶋應司

23	通年	「障害者体験」 障害模擬装具を装着して障害者が何に不自由を感じているのかを知ることにより何を補助すればQOLの向上に繋がるのかを理解する	「障害者に寄り添った理学療法、装具の処方を行うことができる。」	北嶋應司
24	通年	「福祉用具について①」 「車いす」構成部品・操作方法について理解する。 「杖」の種類を理解して、適切な高さに長さを調整できる。杖の歩き方を理解・指導することができる。	「福祉用具について学ぶ」 ① 福祉用具 13 品目。要介護、要支援を理解し説明できる ② 車いすの構成部品を説明でき適切な操作ができる ③ 杖の種類、目的を理解し高さを合わせることができる。	北嶋應司
25	通年	「福祉用具について②」 「車いす」構成部品・操作方法について理解する。 「杖」の種類を理解して、適切な高さに長さを調整できる。杖での歩き方を理解・指導することができる。	「福祉用具について学ぶ」 ①福祉用具 13 品目。要介護、要支援を理解し説明できる ②車いすの構成部品を説明でき適切な操作ができる ③杖の種類、目的を理解し高さを合わせることができる。	北嶋應司
26	通年	「義肢学まとめ」「国試問題実践練習」	試験	北嶋應司
27	通年	「義足まとめ」 体験型義足を装着し、体験し義足使用時の注意点を体感する	「義足体験」 体験型義足を装着し、その義足の特徴を理解する	奥地伸城
28	通年	「装具まとめ」 装具を装着し、使用時の注意点を体感する	「装具体験」 装具を装着し、チェックポイントや特徴を理解する	奥地伸城
29	通年	「まとめ」 義肢装具のチェックポイントを理解する	「まとめ」 義肢装具のチェックポイントを確認し、それぞれの概要を説明できる	奥地伸城
30	通年	「まとめ②」 義肢装具の各特長を理解する	「まとめ②」 義肢装具の各特長をとらえ、国家試験問題の内容を理解する	奥地伸城
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・科目試験 70% (試験 100 点) ・小テスト 30% 		
準備学習など		実技の際は、汚れてもよい服装と爪を短くしてくる。		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法学科 2年次
科目名	徒手理学療法演習
担当者	田中和彦、加古誠人、野々村諒太
単位数（時間数）	2単位（60時間）
学習方法	講義・実技
教科書・参考書	スライド

授業概要と目的
<p>前半は整形外科領域における徒手理学療法の概要、関節可動域制限、および骨折についての知見を学ぶことを目的とする。</p> <p>授業概要は、事前に講義内容を提示し、講義では座学にて各関節の機能解剖と疾患に関する病態、評価、および治療の知見と技術を体験する。また徒手理学療法は、理学療法士による直接的理学療法手技の総称であり運動療法に包含される。理学療法士は、より即効性のある効果的（確実）な治療が求められ、その信頼性の確立と向上が必要となっている。なかでも痛み、関節可動域制限、筋力低下が主な治療対象となるが、その治療方針を決定できる評価法が必要であり、過用、誤用の防止、至適運動量、適切な治療、安静度の決定、治療対象を明確にして治療計画を立案し、運動療法を実施することとなる。そこで、治療技術の選択肢を多く持つ必要があり、治療技術の一つに徒手理学療法が挙げられる。骨運動学と関節運動学に基づいた評価・治療を学び、身体運動学を理解するとともにその治療法を知ることを目的とする。</p> <p>なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある者が、その経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	通年	「関節可動域制限について学ぶ (1)」 一般目標 徒手理学療法の概要について理解する	「徒手理学療法の概論、関節の構造、運動学 について学ぶ」 到達目標 徒手理学療法の概要・関節の構造・動きを 説明できる	田中 和彦
2	通年	「関節可動域制限について学ぶ (2)」 一般目標 関節可動域制限の要因および病態 について理解する	「関節可動域制限の概論について学ぶ」 到達目標 関節可動域制限の要因および病態について 説明できる	田中 和彦
3	通年	「骨折における徒手理学療法に ついて学ぶ(1)」 一般目標 骨折の概要について学び、徒手理 学療法について理解する	「骨折における徒手理学療法について学 ぶ」 到達目標 骨折の概要について学び、徒手理学療法に ついて説明できる	田中 和彦

4	通年	「骨折における徒手理学療法について学ぶ(2)」 一般目標 骨折の概要について学び、徒手理学療法について理解する	「骨折における徒手理学療法について学ぶ」 到達目標 骨折の概要について学び、徒手理学療法について説明できる	田中 和彦
5	通年	「股関節疾患に対する徒手理学療法 (1)」 一般目標 基本的な股関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
6	通年	「股関節疾患に対する徒手理学療法 (2)」 一般目標 基本的な股関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
7	通年	「股関節疾患に対する徒手理学療法 (3)」 一般目標 ① 基本的な股関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
8	通年	「股関節疾患に対する徒手理学療法 (4)」 一般目標 ① 基本的な股関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
9	通年	「膝関節疾患に対する徒手理学療法 (1)」 一般目標 ① 基本的な膝関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
10	通年	「膝関節疾患に対する徒手理学療法 (2)」 一般目標	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標	田中 和彦

		① 基本的な膝関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	① 基本的な膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	
11	通年	「膝関節疾患に対する徒手理学療法 (3)」 一般目標 ① 基本的な膝関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
12	通年	「膝関節疾患に対する徒手理学療法 (4)」 一般目標 ① 基本的な膝関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
13	通年	「足関節疾患に対する徒手理学療法 (1)」 一般目標 ① 基本的な足関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「足関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な足関節疾患についての知見を広め、足関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
14	通年	「足関節疾患に対する徒手理学療法 (2)」 一般目標 基本的な足関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「足関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 ① 基本的な足関節疾患についての知見を広め、足関節疾患に対する治療を実施することができる	田中 和彦
15	通年	「肩関節疾患に対する徒手理学療法 (1)」 一般目標 基本的な肩関節疾患に対する解剖の理解および実技の習得	「肩関節疾患に対する概要。解剖学から学ぶ、肩関節の構造」 到達目標 肩関節疾患に対する概要。肩関節を構成する骨と筋の構造を説明ができる	野々村 諒太
16	通年	「肩関節疾患に対する徒手理学療法 (2)」 一般目標 基本的な肩関節疾患に対する関節運動の理解および実技の習得	「肩関節疾患に対する概要。運動学から学ぶ、肩関節の機能解剖」 到達目標 肩関節疾患に対する概要。運動学を考慮した肩関節の関節操作を実施することができる	野々村 諒太

17	通年	「肩関節疾患に対する徒手理学療法 (3)」 一般目標 肩関節疾患に対する病態理解と徒手評価	「肩関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 肩関節疾患についての病態を把握し、病態を踏まえた徒手評価を実施することができる	野々村 諒太
18	通年	「肩関節疾患に対する徒手理学療法 (4)」 一般目標 基本的な肩関節疾患に対する徒手療法の習得	「肩関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 肩関節疾患に対して適切な徒手療法を実施することができる	野々村 諒太
19	通年	「肘・手関節疾患に対する徒手理学療法 (1)」 一般目標 基本的な肘・手関節疾患に対する徒手療法の習得	「肘・手関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床に多い肘・手関節の骨折後に対する概要。肘・手関節の骨折後に対する徒手療法を実施することができる	野々村 諒太
20	通年	「肘・手関節疾患に対する徒手理学療法 (2)」 一般目標 基本的な肘・手関節疾患に対する知見の理解および実技の習得	「肘・手関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床に多い肘・手関節疾患に対する概要。肘・手関節領域の末梢神経に対する徒手療法を実施することができる	野々村 諒太
21	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法 (1)」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「腰部疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な腰部疾患についての知見を広め、腰部疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
22	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法 (2)」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「腰部疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 基本的な腰部疾患についての知見を広め、腰部疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
23	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法 (3)」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「整形外科領域における徒手理学療法の概論、関節の構造、運動学について学ぶ」 到達目標 徒手理学療法の概要・関節の構造・動きを説明できる	加古誠人

24	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法（４）」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「股関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる股関節疾患についての知見を広め、股関節疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
25	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法（３）」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「膝関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる膝関節疾患についての知見を広め、膝関節疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
26	通年	「腰部疾患に対する徒手理学療法（４）」 一般目標 基本的な腰部疾患に対する知見の理解および実技の習得	「足関節足部疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる足関節足部疾患についての知見を広め、足関節足部疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
27	通年	「症例検討と徒手理学療法（１）」 一般目標 これまでのことを踏まえ、症例検討および実技の演習	「脊椎疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる脊椎疾患についての知見を広め、脊椎疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
28	通年	「症例検討と徒手理学療法（２）」 一般目標 これまでのことを踏まえ、症例検討および実技の演習	「肩関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる肩関節疾患についての知見を広め、肩関節疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
29	通年	「整形外科領域における徒手理学療法について学ぶ」 一般目標 徒手理学療法の概要について理解する	「肘関節疾患に対する徒手理学療法の実施」 到達目標 臨床場面で関わる肘関節疾患についての知見を広め、肘関節疾患に対する治療を実施することができる	加古誠人
30	通年	「各論；股関節に対する徒手理学療法」 一般目標	「モデルケースに対する徒手的理学療法の実施」 到達目標	加古誠人

	股関節の構造的特徴および徒手理学療法について理解する	臨床場面を想定し、症例を提示し、問題点の抽出と介入方法の立案することが出来る。	
成績評価方法	科目試験(100点)		
準備学習など	準備学習は事前に講義内容を提示します。 実技を行うため動きやすい服装で参加をお願いします。 講義形式、治療法紹介、実技形式と様々な講義を展開する予定です。		
留意事項	特になし		

学科・年次	理学療法科 2 学年
科目名	障害スポーツ演習
担当者	林 尚宜
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)
学習方法	教科書を使用した講義、グループワーク、演習課題
教科書・参考書	障がいのある人のスポーツ指導教本 (初級・中級) 2020 年改訂カリキュラム対応 (公財) 日本障がい者スポーツ協会 ぎょうせい

授業概要と目的
<p>健常者のスポーツと障がい者のスポーツ、どちらであろうと関係なく、指導者としての資質が求められる。障がい者スポーツとは何か、歴史やその背景などを含めて理解する。また、同時に実際に障がい者の方と触れ合うことで、コミュニケーションや生活の苦悩、生きがいなど様々な理解を深める。障がい者スポーツ指導員など、関連する資格や制度についても学習する。また、障がいの種類や程度を理解し、各障がいの特性に応じた配慮や工夫、クラス分けなどについても学ぶ。</p> <p>なお、障がい者スポーツ指導員中級および日本ボッチャ協会公認審判資格 C 級をもち、臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし講義を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「障がい者スポーツの意義と理念」 一般目標 ①障がい者スポーツの意義について理解する ②障がい者スポーツの理念について理解する	「障がい者スポーツの意義」 「障がい者スポーツの理念」 到達目標 ①障がい者個々人に対する意義、スポーツ界に対する意義、社会一般に対する意義、それぞれの違いを説明できる ②障がい者スポーツの歴史やあり方について説明できる ③健常者、障がい者ともに、スポーツにはどのような意味があるか説明できる ④障がいのある人はどのように工夫してスポーツしたらよいか説明できる	林 尚宜
2	前期	「コミュニケーションスキルの基礎」 一般目標 ①コミュニケーションとはなにか理解する ②コミュニケーションの難しさについて理解する ③コミュニケーションが取りにくくなってしまいう障がいについて理解する	「なぜ、いまコミュニケーション教育なのか」 「コミュニケーションの余白に書き込まれていく自主性」 「障がい者との具体的なやりとりを念頭に」 「よりよいコミュニケーションのための演習」 到達目標 ①コミュニケーション能力の必要性について説明できる ②障がい者の方と円滑にコミュニケーションをとるうえで必要なスキル、留意点を説明できる	林 尚宜
3	前期	「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」 一般目標 ①スポーツのインテグリティとはなにか理解する ②指導者に求められる資質について理解する ③障がい者スポーツ指導員の役割について理解する	「スポーツインテグリティとは」 「スポーツ指導者に求められる資質」 「障がい者スポーツ指導員の役割、心構え、視点」 「ボランティアの魅力、心得、留意点」 到達目標 ①インテグリティを脅かす要因について説明できる ②指導者に求められる資質について説明できる	林 尚宜

		④さまざまなケース課題を通して、良い指導と悪い指導を理解する ⑤ボランティアについて理解する	③グッドコーチな考え方についてグループディスカッションを行い、説明できる ④バッドコーチな考え方についてグループディスカッションを行い、説明できる ⑤ボランティアの魅力、心得、留意点について説明できる	
4	前期	「障がい者スポーツ推進の取り組み」 一般目標 ①障がい者スポーツを推進するための各取り組みについて理解する ②日本障がい者スポーツ指導員制度について理解する	「各都府県・指定都市の障がい者スポーツ推進の現状と課題」 「日本障がい者スポーツ協会指導者制度の概要」 「地域の障がい者スポーツ協会や指導者協議会について」 「資格所得後の活動方法と情報入手方法」 到達目標 ①各都道府県、指定都市における障がい者スポーツを推進するための取り組みについて説明できる ②日本障がい者スポーツ協会指導員制度について説明できる ③資格取得後の活動方法について説明できる	林 尚宜
5	前期	「障がい者スポーツに関する諸施策」 一般目標 ①障がい者に関する諸施策の歴史について理解する ②障がい者福祉施策について理解する ③フライングディスクのルールを理解する	「我が国の障がい者福祉政策」 「我が国の障がい者スポーツに関する施策」 「フライングディスクの実技」 到達目標 ①我が国の障がい者に対する福祉施策にはどのようなものがあるのか、歴史の流れにあわせ説明できる ②障がい者スポーツに関する施策はどのようなものがあるか、歴史の流れにあわせ説明できる ③フライングディスクについてルールを説明でき、競技の実演や審判をすることができる	林 尚宜
6	前期	「障がいのある人との交流」 一般目標	「障がい者との交流の必要性」 到達目標 ①障がい者との交流の必要性について説明できる	林 尚宜

		①障がいのある人と交流することで日常生活における悩み、大変さを理解する ②スポーツ型車椅子を体験し、操作性を理解する	②スポーツ型車椅子の操作性を説明でき、操作できる	
7	前期	「安全管理」 一般目標 ①スポーツにおける安全管理について理解する ②安全を管理する上での留意点について理解する ③ヒヤリ・ハットについて理解する	「スポーツ指導者の安全配置義務の心得」 「安全管理の留意点」 「ヒヤリ・ハット」 到達目標 ①指導者の安全配置義務の心得について説明できる ②安全を管理する上での留意点について説明できる ③ヒヤリ・ハットとは何か説明できる ④事故事例を通してグループディスカッションを行い、問題点や今後の改善すべき点を説明できる	林 尚宜
8	前期	「各障がいの理解1」 一般目標 ①障がいの分類について理解する ②視覚障がいについて理解する ③視覚障がい者の介助方法について理解する	「障害の概要（身体障がい、脳血管障害、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がい、精神障がい）」 到達目標 ①各障がいの概要について説明できる ②視覚障がいの種類、病態、福祉用具、障がい者との関わり方について説明できる ③各内部障がいの種類、病態、福祉用具、障がい者との関わり方について説明できる	林 尚宜
9	前期	「各障がいの理解2」 一般目標 ①各障がいの特徴について理解する ②聴覚障がいについて理解する ③内部障がいについて理解する	「障がいの分類」 「障がいの変化」 「高齢化と重度化」 到達目標 ①障がいの分類と特徴について説明できる ②歴史、時代における障がいの変化について説明できる ③高齢化による変化について説明できる ④聴覚障がいの種類、病態、福祉用具、障がい者との関わり方について説明できる	林 尚宜

10	前期	<p>「全国障害者スポーツ大会の概要」</p> <p>一般目標</p> <p>①全国障害者スポーツ大会について理解する</p> <p>②パラリンピックとの違いについて理解する</p>	<p>「大会の概要」</p> <p>「競技規則の原則」</p> <p>「障がい区分」</p> <p>「実施競技」</p> <p>到達目標</p> <p>①全国障害者スポーツ大会の概要について説明できる</p> <p>②全国障害者スポーツ大会の各競技規則について説明できる</p> <p>③実施競技にはなにがあるか説明できる</p>	林 尚宜
11	前期	<p>「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫1（様々な競技の紹介）」</p> <p>一般目標</p> <p>①レクリエーションボッチャを例に挙げ、指導上の留意点と工夫について理解する</p>	<p>「障がいに応じたスポーツの工夫の基本的視点と方法」</p> <p>「障がいに応じたスポーツづくり」</p> <p>到達目標</p> <p>①障がいに応じたスポーツの工夫の方法について説明できる</p> <p>②様々な競技の基本的なルールについて理解する</p>	林 尚宜
12	前期	<p>「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫2（レクリエーションボッチャ）」</p> <p>一般目標</p> <p>①実際にボッチャを体験し、競技特性やルール、審判の所作、障がいに合わせる工夫などを理解する</p>	<p>「基本ルールの理解と実践」</p> <p>到達目標</p> <p>①ボッチャの基本ルールについて説明できる</p> <p>②ボッチャを実践できる</p> <p>③ボッチャ競技の審判ができる</p> <p>④ボッチャ競技に対して指導ができる</p>	林 尚宜
13	前期	<p>「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫3（レクリエーションボッチャ）」</p> <p>一般目標</p> <p>①実際にボッチャを体験し、競技特性やルール、審判の所作、障がいに合わせる工夫などを理解する</p>	<p>「基本ルールの理解と実践」</p> <p>到達目標</p> <p>①ボッチャの基本ルールについて説明できる</p> <p>②ボッチャを実践できる</p> <p>③ボッチャ競技の審判ができる</p> <p>④ボッチャ競技に対して指導ができる</p>	林 尚宜
14	前期	<p>「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫4（レクリエーションボッチャ）」</p> <p>一般目標</p>	<p>「基本ルールの理解と実践」</p> <p>到達目標</p> <p>①ボッチャの基本ルールについて説明できる</p> <p>②ボッチャを実践できる</p>	林 尚宜

		①実際にボッチャを体験し、競技特性やルール、審判の所作、障がいに合わせて工夫などを理解する	③ボッチャ競技の審判ができる ④ボッチャ競技に対して指導ができる	
15	前期	「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫5（レクリエーションボッチャ）」 一般目標 ①実際にボッチャを体験し、競技特性やルール、審判の所作、障がいに合わせて工夫などを理解する	「基本ルールの理解と実践」 到達目標 ①ボッチャの基本ルールについて説明できる ②ボッチャを実践できる ③ボッチャ競技の審判ができる ④ボッチャ競技に対して指導ができる	林 尚宜
成績評価方法		定期的な提出物チェック、レポート課題（内容、文字数、構成、見栄えで採点）、実技参加点（フライングディスク、車椅子テニス、ボッチャ）の合計点。ディスカッションなどの課題や授業態度が芳しくない場合は減点となる。		
準備学習など		グループワークや演習課題にて積極的に発言・参加し、討論すること		
留意事項		特になし		

学科・年次	理学療法科・2年次	開講期間	後期
科目名	地域理学療法学		
担当者	宇治 太孝		
単位数（時間数）	2単位（30時間）	履修方法	講義，グループワーク
教科書・参考書	地域リハビリテーション学テキスト 地域理学療法ビジュアルテキスト		

授業概要
<p>高齢化社会が進む日本において地域リハビリテーションの在り方が見直されている。今後は地域包括ケアシステムを展開していく中で、地域で活躍する理学療法士が必要になる。院内のリハビリから院外への理学療法士の関わり増えてくる。そのため、本講義では理学療法の歴史、成り立ち、制度を学び、理解を深め、地域における理学療法士の役割を理解する。なお、理学療法士として、病院等で臨床経験のある教員がその経験を活かして授業を行う。</p>

授業の目的（意義）
現在の医療・介護の考え方は、「治す治療」から「支える医療・生活を守る支援」に大きく変化している。そのため、理学療法士の役割は病院→在宅・地域 急性期→生活期を支えることへと変化している。そのため、治療において機能障害に重きを置いたリハビリではなく、生活全般に視点を向けることのできる知識・技術を身に付け、理学療法の最終目的は“機能回復”ではなく“生活を支えること”だと理解をする。
関連する学科の DP
①理学療法士として必要な基礎知識を修得している ②医学知識を修得し、論理的思考に基づいた理学療法（評価・治療）が実践できる ④自己研鑽に努め、得た知識や経験を適切に共有することができる ⑤臨床現場で求められる基礎的実践能力を備えている ⑥自律心を有している 1. 自己研鑽を継続できる 2. 自主的に行動が起こせる 3. 自信をもって業務に臨める 4. 自己マネジメントすることで課題を明確にできる

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「地域リハビリテーションの考え方」 一般目標 ⑤ 地域リハビリテーションの概要を理解する。 地域リハビリテーションに関わる理学療法士の役割を理解する。	「地域リハビリテーションの概念」 到達目標 ⑤ 地域リハビリテーションの理念を説明できるようになる。 ⑥ 地域リハビリテーションの概要を説明できるようになる。 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できるようになる。	宇治 太孝
2	「制度の変遷」 一般目標 ④ 地域リハビリテーションに関する制度を知ることの意義を理解する。 制度の変遷についての概要を理解する。	「地域リハビリテーションに関する制度の変遷」 到達目標 ④ 地域リハビリテーションに関する制度を知ることの意義を説明できるようになる。 ⑤ 制度の変遷についての概要を説明できるようになる。 ⑥ 制度の変遷について、年代ごとの特徴を説明できるようになる。	宇治 太孝
3	「介護保険制度の概論」 一般目標	「介護保険制度の仕組み」 到達目標	宇治 太孝

	<p>④ 介護保険制度の現状と今後について理解する。</p> <p>⑤ 介護保険制度の概要を理解する。</p> <p>介護保険における理学療法士の関わり方や役割を理解する。</p>	<p>④ 介護保険制度の認定審査について説明できるようになる。</p> <p>⑤ 介護保険サービスの利用の流れについて説明できるようになる。</p> <p>⑥ 介護保険制度で取り扱う福祉用具について列挙できるようになる。</p> <p>⑦ 介護サービスにおける理学療法へのニーズを述べるようになる。</p> <p>地域包括支援センターの役割について述べることができる。</p>	
4	<p>「地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割」</p> <p>一般目標</p> <p>⑤ 地域包括ケアシステムについての概要を理解する。</p> <p>⑥ 地域包括ケアシステムの構築が進められている背景を理解する。</p> <p>⑦ 地域包括ケアシステムのなかでの理学療法士の役割を理解する。</p>	<p>「地域リハビリテーションにおけるリハビリテーション職の役割や期待」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 高齢者人口の増加が社会保障に及ぼす影響を述べるようになる。</p> <p>⑤ 地域包括ケアシステムについて説明できるようになる。</p> <p>⑥ 地域包括ケアシステムにおける理学療法士への役割を述べるようになる。</p> <p>地域リハビリテーションに関わるリハビリテーション職に期待される役割を述べるようになる。</p>	宇治 太孝
5	<p>「地域支援事業のなかでの理学療法士の役割と地域リハビリテーションにおける関連職種」</p> <p>一般目標</p> <p>① 地域支援事業の概要を理解する。</p> <p>② 総合事業，地域ケア会議推進事業，在宅医療・介護連携推進事業の概要を理解する。</p> <p>③ 地域リハビリテーションにおける他職種との連携の意義について理解する。</p> <p>④ 連携する他職種の専門性について理解する。</p>	<p>「地域支援事業における理学療法士の役割と他職種との連携」</p> <p>到達目標</p> <p>③ 総合事業の概要と理学療法士の役割について説明できるようになる。</p> <p>④ 地域ケア会議推進事業の概要と理学療法士の役割について説明できるようになる。</p> <p>⑤ 在宅医療・介護連携推進事業の概要と理学療法士の役割について説明できるようになる。</p> <p>⑥ 地域リハビリテーションにおける他職種との連携の意義について説明できるようになる。</p> <p>⑦ 連携する他職種の専門性や実際の仕事内容について説明できるようになる。</p>	宇治 太孝

		⑧ 理学療法士として専門性を発揮しながら、他職種との相互理解を深めることができる。	
6	<p>「介護保険サービス下での理学療法①」</p> <p>一般目標</p> <p>④ 介護老人保健施設の機能と役割を理解する。</p> <p>⑤ 理学療法士の役割とチームアプローチを理解する。</p> <p>⑥ 特別養護老人ホームの機能を理解する。</p> <p>特別養護老人ホームにかかわる理学療法士の役割を理解する。</p>	<p>「施設サービスにおける理学療法」</p> <p>到達目標</p> <p>③ 介護老人保健施設の機能について説明できるようになる。</p> <p>④ リハビリテーションマネジメントについて説明できるようになる。</p> <p>⑤ 理学療法士の役割と業務内容がイメージできるようになる。</p> <p>⑥ 特別養護老人ホームの機能を説明できるようになる。</p> <p>特別養護老人ホームに関わる理学療法士の役割を説明できるようになる。</p>	宇治 太孝
7	<p>「介護保険サービス下での理学療法②」</p> <p>一般目標</p> <p>⑥ 訪問リハビリテーションの概要について理解する。</p> <p>⑦ 訪問リハビリテーションの目的について理解する。</p>	<p>「訪問リハビリテーションにおける理学療法」</p> <p>到達目標</p> <p>⑤ 訪問リハビリテーションのサービス提供前の流れの 5 つ段階を説明できるようになる。</p> <p>⑥ 訪問リハビリテーションのサービス提供時の流れの 5 つ段階を説明できるようになる。</p> <p>訪問リハビリテーションのサービス提供に必要な 5 つの専門技術を説明できるようになる。</p>	宇治 太孝
8	<p>「介護保険サービス下での理学療法③」</p> <p>一般目標</p> <p>① 通所リハビリテーションの概要について理解する。</p> <p>② 通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解する。</p> <p>③ 通所介護が担う役割を理解する。</p>	<p>「居宅サービスにおける理学療法」</p> <p>到達目標</p> <p>① 通所リハビリテーションの制度上の位置づけを説明できるようになる。</p> <p>② リハビリテーションマネジメントを説明できるようになる。</p> <p>③ 通所リハビリテーション対象者と提供されるサービス内容について説明できるようになる。</p> <p>④ 通所介護で提供するサービスの特徴について説明できるようになる。</p> <p>通所介護における理学療法士の役割を述べることができる。</p>	宇治 太孝

9	<p>「介護予防と健康増進の概念」</p> <p>一般目標</p> <p>④ 介護予防の概念を理解する。</p> <p>⑤ 介護予防の効果的な取り組みを理解する。</p> <p>⑥ 健康増進の概念を理解する。</p>	<p>「介護予防と健康増進の必要性」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 介護予防の概念を説明できるようになる。</p> <p>⑤ 介護予防の効果的な取り組みを説明できるようになる。</p> <p>健康増進の概念を説明できるようになる。</p>	宇治 太孝
10	<p>「介護予防・日常生活支援総合事業の実際」</p> <p>一般目標</p> <p>④ これからの介護予防について基本的な考えを理解する。</p> <p>地域づくりとはどういったものか理解する。</p>	<p>「介護予防の取り組みやリハビリテーション専門職の役割」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 身近な地域の介護予防の取り組みを説明できるようになる。</p> <p>⑤ 高齢者の活動・参加について説明できるようになる。</p> <p>リハビリテーション専門職が地域づくりにどのように関わることができるのか説明できるようになる。</p>	宇治 太孝
11	<p>「住環境整備①」</p> <p>一般目標</p> <p>⑧ 理学療法における生活環境学の必要性を理解する。</p> <p>⑨ 生活環境学に関連する制度について理解する。</p> <p>福祉用具に関連する制度について理解する。</p>	<p>「住宅改修と福祉用具の導入」</p> <p>到達目標</p> <p>④ 生活環境学に関連する制度について説明できるようになる。</p> <p>⑤ 障害者の生活継続のために適切な生活環境の整備をイメージできる。</p> <p>⑥ 福祉用具に関連する制度について説明できるようになる。</p> <p>⑦ 福祉用具の種類やその特徴について説明できるようになる。</p> <p>⑧ 障害者の身体・生活状況などの様々な要素配慮して適切な福祉用具が導入できる。</p>	宇治 太孝
12	<p>「住環境整備②」</p> <p>一般目標</p> <p>① 実際の現場で使用されている福祉用具について理解する。</p> <p>手すりの設置方法について理解する。</p>	<p>「福祉用具の選定方法」</p> <p>到達目標</p> <p>① 実際の現場で使用されている福祉用具はどのようなものがあるのかを説明できるようになる。</p> <p>② 実際の現場で使用されている福祉用具についての使用方法や用途について説明できるようになる。</p>	宇治 太孝

		手すりの設置方法について説明できるようになる.	
13	「住環境整備③」 一般目標 11,12 で学んだ知識の理解度を確認する.	「住環境についての実際」 到達目標 ① 疑似的に住環境整備を体験し、ポイントを説明できるようになる. ② 福祉用具を選定するまでのプロセスを述べることができる. ③ 住宅改修を選定した理由について述べることができる.	宇治 太孝
14	「多職種連携の実践①」 一般目標 ① 模擬症例を通じて、カンファレンスの方法論を理解する. ② 模擬カンファレンスを通じて、各職種の特徴を理解できる.	「模擬カンファレンスの実践」 達成目標 ① カンファレンスの方法論を説明することができる. ② 各職種の特徴や専門知識を説明することができる. ③ 模擬症例の情報を他職種へ理学療法士の視点からの特徴を説明することはできる.	宇治 太孝
15	「多職種連携の実践②」 一般目標 ① 模擬症例を理解することができる. ② 模擬症例の問題点を多職種連携の観点から総合的に理解することができる.	「模擬カンファレンスの実践②」 達成目標 ① 模擬症例の問題点を列挙できるようになる. ② 列挙した問題点を、各職種と討議し解決策を提示することができる. ③ 模擬症例の問題点と解決策をまとめ発表できるようになる.	宇治 太孝
成績評価方法	期末試験 (100%)		
準備学習/事後学習	生活環境学と類似した項目があるため、復習をして臨んでください.		
関連科目	生活環境学		
その他 (履修者へのアドバイス等)			

学科・年次	理学療法科 2年次
科目名	臨床実習Ⅱ（評価）
担当者	学内常勤
単位数（時間数）	3単位（135時間）
学習方法	実習（医療・介護施設における実習）
教科書・参考書	

授業概要と目的	
<p>2年次までに学んだ理学療法評価・検査を、臨床実習指導者のもとで実践し、実習指導者の指示を仰ぎながら、臨床現場でのより具体的な方法を身に着ける。また検査測定技術のみだけでなく、対象者の全体像を把握できるようにする。</p> <p>医療・介護施設にて臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし実習を進めていく</p>	

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
臨床実習 Ⅱ	後期	<p>「臨床実習Ⅱ（評価）」</p> <p>一般目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 各臨床実習施設における理学療法および理学療法士の役割と機能を学ぶ。 臨床実習指導者の指導・援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価方法を選択・実践する。 理学療法を学ぶ学生としての基本的態度を習得し、理学療法士としてふさわしい資質の向上・充実をはかる。 	<p>「臨床実習Ⅱ（評価）」</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象者や他部門から必要な情報を収集できる。 評価技法の選択ができる。 評価技法の実施をすることができる。 全体像を把握し問題点を抽出することができる。 評価中、安全性を確保できる。 適切に記録を書くことができる。 各種提出物が期限内に提出することができる。 記述・口頭での報告が適切にできる。 施設における部門の役割について理解することができる。 実習に対して意欲的・積極的に学習できる。 職場内での人間関係を円滑に保つことができる。 日常の規律を自覚し、守っていく態度をとれる。 感情・情緒面で安定した態度をとれる。 	各専攻教員

			<p>14. 目標達成を目指して意欲的に努力することができる。</p> <p>15. 対象者の人権を尊重できる。</p> <p>16. 守秘義務を守ることができる。</p> <p>17. 対象者との関係を成立させることができる。</p> <p>18. 緊急時又は問題解決ができない時に援助を求めることができる。</p>	
成績評価方法	実習指導者によって実習到達目標に基づいた評価点と学内実施する実習前、実習後後評価の評価点を平均して合否を判定する。			
準備学習など	臨床実習前には2年次までに学んだ内容全てについて復習するとともに、患者・利用者、施設の指導者など関係者すべてと円滑なコミュニケーションが取れるようにしておくこと。			
留意事項	受け身的な態度ではなく、積極的に指導者等に働きかけ、疑問や問題を解決すること。			

学科・年	理学療法科 2年次
科目名	臨床実習セミナー I
担当者	奥地伸城、小出悠介、辻智之、青木浩代、櫻井泰弘、林尚宜、杵山哲平、宇治太孝、熱尾有加
単位数（時間数）	1単位（45時間）
学習方法	学内実習
教科書・参考書	

授業概要と目的
<p>臨床実習に向けて、理学療法士として必要な接遇、対人コミュニケーション、基本的な評価技術能力を身に付ける必要がある。そのため客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、症例に即した理学療法評価を円滑に実施できるようになることを目的とする。医療・介護施設にて臨床経験のある理学療法士がその経験を活かし実習を進めていく</p>

日	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1～3	後期	「オリエンテーション・臨床推論」 一般目標 1. 解剖学、生理学、運動学など臨床の基礎知識を理解する 2. 対象疾患の病態やリスクを理解し、適切な理学療法評価項目を選択することができる。 3. 対象疾患に対し、適切な理学療法評価・測定の基本的な流れを実践できるようになる。	「オリエンテーション・臨床推論」 到達目標 1. 解剖学、生理学、運動学の内容を説明できる 2. 対象疾患の評価項目が選択できる 3. 対象疾患に対する理学療法評価の実践方法を理解できる 4. 理学療法評価の結果をもとに、問題点や理学療法プログラム等を検討し、臨床推論について自分の考えを含めて記載できる	担当教員
4～5	後期	「OSCE」 一般目標 1. 対象疾患に対する適切な理学療法評価項目を選択できる。 2. 対象に対する理学療法評価・検査を実施できる。	「OSCE」 到達目標 1. 対象疾患に対する適切な理学療法評価項目を選択できる。 2. 対象に対する理学療法評価・検査を実施できる。 3. リスクを考慮して評価・検査が実施できる。	担当教員
成績評価方法		基礎知識、専門知識（評価）確認テストと、OSCEでの点数を合算して判定する。		
準備学習など		2年次までに学んだ内容全てについて復習する。		
留意事項		受け身的な態度ではなく、積極的に担当教員に働きかけ、疑問や問題を解決すること。		